

RD-300NX

取扱説明書

Roland

RD-300NX

この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P.4) と「使用上のご注意」(P.6) をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要なときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

△ 警告と△ 注意の意味について

△ 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表わしています。
△ 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表わしています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかる拡大損害を表わしています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表わしています。具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。
	○は、禁止（してはいけないこと）を表わしています。具体的な禁止内容は、○の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。
	●は、強制（必ずすること）を表わしています。具体的な強制内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表わしています。

以下の指示を必ず守ってください

△ 警告

この機器および AC アダプターを分解したり、改造したりしないでください。



△ 警告

電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつき、ショートや断線の結果、火災や感電の恐れがあります。



修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。



次のような場所に設置しないでください。

- ・温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- ・水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- ・湯気や油煙が当たる場所
- ・塩害の恐れがある場所
- ・雨に濡れる場所
- ・ほこりや砂ぼこりの多い場所
- ・振動や搖れの多い場所



この機器の設置には、ローランドが推奨するスタンド (KS-G8) を使用してください (P.13)。



この機器の設置にスタンド (KS-G8) を使用する場合、ぐらつくような所や傾いた所にスタンド (KS-G8) を設置しないでください。安定した水平な所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な所に設置してください。



AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



この機器を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。



この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。また、この機器の上に液体の入った容器を置かないでください。ショートや誤動作など、故障となることがあります。



次のような場合は、直ちに電源を切って AC アダプターをコンセントから外し、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに修理を依頼してください。



- ・AC アダプター本体、電源コード、またはプラグが破損したとき
- ・煙が出たり、異臭がしたとき
- ・異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- ・機器が（雨などで）濡れたとき
- ・機器に異常や故障が生じたとき

お子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。



この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。

⚠ 警告

電源は、タコ足配線などの無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット／アンペア）を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。

国外で使用する場合は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。

CD-ROM を、一般的のオーディオ CD プレーヤーで再生しないでください。大音量によって耳を痛めたり、スピーカーを破損する恐れがあります。



⚠ 注意

この機器と AC アダプターは、風通しのよい、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。



この機器は当社製のスタンド (KS-G8) とのみ、組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをするおそれがあります。



取扱説明書に記載の注意事項が守られていっても、取り扱いによってはスタンドから本製品が落下したりスタンドが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認したうえでお使いください。



AC アダプターを機器本体やコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグを持ってください。



定期的に AC アダプターを抜き、乾いた布でプラグ部分のゴミやほこりを拭き取ってください。また、長時間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから外してください。AC アダプターとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、絶縁不良を起こして火災の原因になります。



接続したコードやケーブル類は、繁雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配慮してください。



この機器の上に乗ったり、機器の上に重いものを置かないでください。



濡れた手で AC アダプターのプラグを持って、機器本体やコンセントに抜き差ししないでください。



この機器を移動するときは以下のことを確認した後、必ず 2 人以上で水平に持ち上げて運んでください。このとき、手をはさんだり、足の上に落とさないように注意してください。



- ・電源コードを外す。

- ・外部機器との接続を外す。

お手入れをするときは、電源を切って AC アダプターをコンセントから外してください (P.14)。



落雷の恐れがあるときは、早めに AC アダプターをコンセントから外してください。



小さなお子様が誤って飲み込む恐れがあるので、取り外した機能接地端子ネジは放置しないでください。



使用上のご注意

電源について

- 本機を冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなどのインバーター制御の製品やモーターを使った電気製品が接続されているコンセントと同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズにより本機が誤動作したり、雑音が発生する恐れがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。
- AC アダプターを長時間使用すると AC アダプター本体が多少発熱しますが、故障ではありません。
- 接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の電源を切ってください。

設置について

- この機器の近くにパワー・アンプなどの大型トランジスタを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色ムラが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、この機器を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 直射日光の当たる場所や、発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 極端に温湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴がつく（結露）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になりますので、数時間放置し、結露がなくなつてから使用してください。
- 鍵盤の上に物を置いたままにしないでください。発音しなくなるなどの故障の原因になります。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては本機のゴム足が、設置した台などの表面を変色または変質させることができます。

ゴム足の下にフェルトなどの布を敷くと、安心してお使いいただけます。この場合、本機が滑って動いたりしないことを確認してからお使いください。

- 本機の上に水の入った容器（花びんなど）、殺虫剤、香水、アルコール類、マニキュア、スプレー缶などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、すみやかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

お手入れについて

- 通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、堅く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

修理について

- お客様がこの機器や AC アダプターを分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 修理に出される場合、記憶した内容が失われることがあります。大切な記憶内容は、USB メモリーに保存するか、記憶内容をメモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などにより、失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップとして USB メモリーに保存しておいてください。
- USB メモリー、本体メモリーの失われた記憶内容の修復に関しては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- ディスプレイから多少音がすることがありますが、故障ではありません。
- ケーブルの抜き差しは、ショートや断線を防ぐため、プラグを持ってください。
- 音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかからないように、音量に十分注意してください。ヘッドホンを使用すれば、気がねなくお楽しみいただけます。
- 演奏時の打鍵音や振動は、床や壁を通じて意外によく伝わります。特にヘッドホン使用時の演奏は、隣近所に迷惑がかからないように注意しましょう。
- 輸送や引っ越しをするときは、この機器が入っていたダンボール箱と緩衝材、または同等品で梱包してください。
- この機器が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄する場合、各地域のゴミの分別基準に従って行ってください。
- エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの（別売：EV-5、EV-7）をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

外部メモリーの取り扱い

- USB メモリーは、確実に奥まで差し込んでください。
- USB メモリーの端子の部分に触れたり、汚したりしないでください。
- USB メモリーは精密な電子部品で作られていますので、取り扱いについては次の点に注意してください。
 - 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。
 - 端子部に手や金属で触れない。
 - 曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えることない。
 - 直射日光の当たる場所や、閉め切った自動車の中などに放置しない。
 - 水に濡らさない。
 - 分解や改造をしない。

CD の取り扱い

- ディスクの裏面（信号面）に触れたり、傷をつけたりしないでください。データの読み出しがうまくいかないことがあります。ディスクの汚れは、市販の専用クリーナーでクリーニングしてください。

商標について

- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイルデータ、伴奏パターン、フレーズデータ、オーディオループ、画像データなど）の著作権は当社および／またはアトリエビジョン株式会社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布することに関しては、当社および／またはアトリエビジョン株式会社の許諾が必要とします。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピュータネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- MMP (Moore Microprocessor Portfolio) はマイクロプロセッサーのアーキテクチャーに関する TPL (Technology Properties Limited) 社の特許ポートフォリオです。当社は、TPL 社よりライセンスを得ています。
- 文中記載の会社名及び製品名は、各社の登録商標または商標です。
- MIDI は社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- GM ( GENERAL)、GM2 ( GENERAL2) は、社団法人 音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。

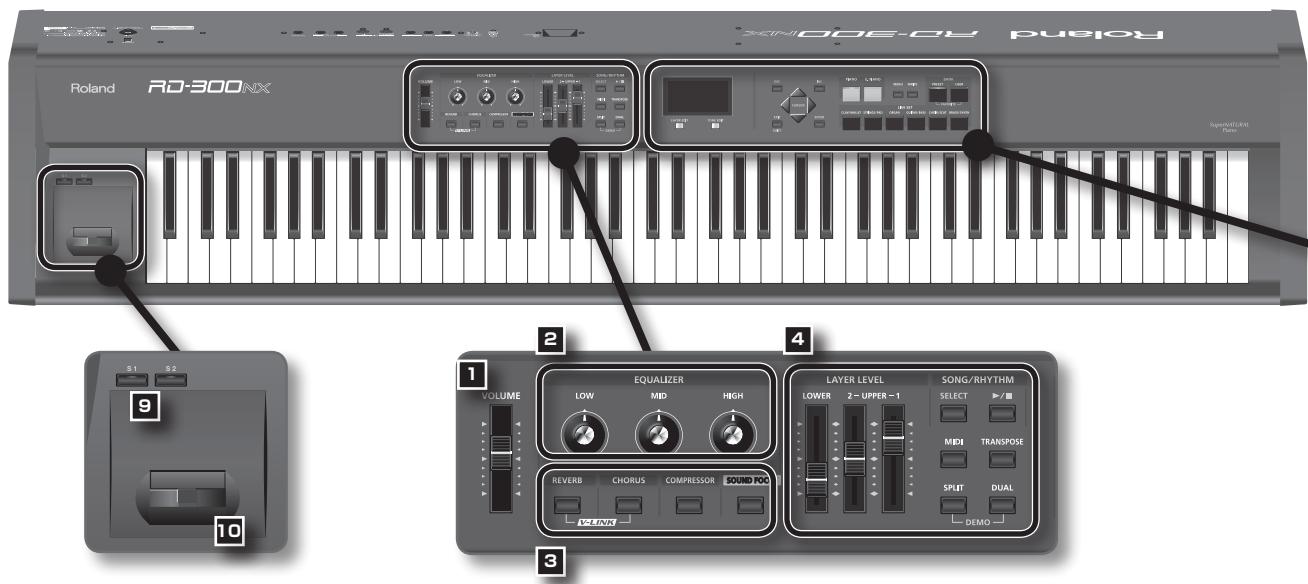
目次

安全上のご注意	4
使用上のご注意	6
各部の名称とはたらき	10
フロント・パネル	10
リア・パネル	12
演奏する前に	13
スタンドに設置する	13
AC アダプターを接続する	14
外部機器と接続する	15
ペダルを接続する	16
電源を入れる／切る	17
電源を入れる	17
電源を切る	17
音量を調節する	18
ディスプレイの明るさを調節する	18
USB メモリーを接続する	18
CD ドライブを接続する	19
RD-300NX の概要	20
RD-300NX の基本構成	20
メモリーについて	20
ライブ・セットについて	21
RD-300NX の基本操作	22
主な画面	22
ファンクション・ボタンのはたらき	23
カーソル・ボタンのはたらき	23
設定値の変更	24
デモ曲を聴く (DEMO)	25
演奏する	26
ピアノ演奏をする	26
いろいろな音色 (ライブ・セット) で演奏する	27
鍵盤で複数のトーンを鳴らす	28
トーンを重ねて演奏する (デュアル・モード)	28
鍵盤を 2 つの音域に分けて別々のトーンで演奏する (スプリット・モード)	28
音を鳴らすレイヤーを選ぶ (レイヤー・スイッチ)	29
レイヤーのトーンの変えかた	30
レイヤーごとの音量を調節する	30
鍵盤の音の高さを変える (TRANSPOSE)	31
音に響きをつける (REVERB)	32
音に広がりをつける (CHORUS / DELAY)	32
音の高さをリアルタイムに変化させる	33
音にメリハリをつける (COMPRESSOR)	33
音の輪郭をはっきりさせる (SOUND FOCUS)	34
音の各帯域のレベルを調節する (EQUALIZER)	34
ボタンを効かないようにする (パネル・ロック)	35
多彩な機能を使って演奏する	36
リズムを鳴らす	36
リズムのテンポを変える	36
リズムのパターンを変える	36
曲を再生する	37
曲を選ぶ	37
曲のテンポを変える	38
曲を早送り／巻き戻しする	38
曲の頭に戻す	38
音に効果をかける (MFX)	39
記憶させた設定を選ぶ (ライブ・セット)	40
お気に入りのライブ・セットを登録する	40
設定をライブ・セットに保存する	41
ONE TOUCH 音色の詳細設定をする	42
ピアノ音色の詳細設定をする	42
設定を保存する	42
鍵盤のタッチ感を設定する	44
チューニングを微調整する	44
ペダルを踏んだときの共鳴音を変える	44
設定を初期状態にする	45
E. ピアノ音色の詳細設定	46
設定を保存する	46
設定を初期状態にする	46
音色の詳細設定をする	47
トーンの設定をする	47
レイヤーの設定をする	49
RD-300NX をマスター・キーボードにする	51
MIDI とは	51
MIDI 端子について	51
レイヤーごとに音量を調節する	52
音を鳴らすレイヤーを選ぶ (レイヤー・スイッチ)	52
出力する MIDI 端子を選ぶ	52
MIDI 送信チャンネルを設定する	53
外部 MIDI 音源の音色を切り替える	54
MIDI 送信パートの詳細設定をする	55
音量／パンを設定する (Volume / Pan)	55
リバーブ／コーラスのレベルを設定する (Reverb / Chorus)	55
単音で発音させる (Mono/Poly)	55
レイヤーごとに移調の設定をする (Transpose)	55
レイヤーごとの鍵域を設定する (Key Range)	55
鍵盤を弾く強さによって鳴る鍵域を変える (Velocity Range)	56
トーンの要素を変化させる (ATK / DCY / REL / COF / RES)	56
音をなめらかに変化させる (Portamento)	56
鍵盤を弾く強さによる音量変化を設定する (Velocity Sense/Max)	56
音の高さを変える (Coarse Tune / Fine Tune)	56
ピッチ・バンド・レバーによるピッチ変化の幅を設定する (Bend Range)	57
モジュレーションのかかり具合を設定する (Modulation Depth)	57
各コントローラーのオン／オフを設定する	57
コントロール・チェンジを送信する (User CC)	57
各機能の詳細設定をする	58
パラメーターの選びかた	58
システムの設定	59
他の楽器と音の高さを合わせる (Master Tune)	60
全体の音量を設定する (Master Volume)	60
ペダルの設定が切り替わらないようにする (Pedal Mode)	60
トーンを変えても発音中の音を残す (Tone Remain)	60
[S1] / [S2] ボタンの設定が切り替わらないようにする (S1/S2 Mode)	60
プログラム・チェンジ情報でライブ・セットを切り替える (LIVE SET Ctrl Ch)	61
USB ドライバ (USB Driver)	61
USB メモリー・モード (USB Memory Mode)	61
ペダルの極性を切り替える (Damper / FC1 / FC2 Polarity)	61
パート数を選ぶ (Part Mode)	62
調律法を設定する (Temperament / Key)	62
GM/GM2 システム・オン、GS リセットの受信を切り替える (Rx GM / GM2 Sys On, Rx GS Reset)	62
同期情報を送る (Clock Out)	62
鍵盤タッチの設定	63
鍵盤のタッチ感を変える (Key Touch)	63
鍵盤のタッチ感を微調整する (Key Touch Offset)	63

弾く強さによる音量を一定にする (Velocity)	63	主な仕様	88
弾く強さによって発音のタイミングを変える (Velo Delay Sens)	64	索引	89
鍵域によるタッチ感を変える (Velo Keyflw Sens).....	64	目的別目次	92
ノート・オフする鍵盤の深さを設定する (Key Off Position)	64		
ペダル／ [S1] [S2] ボタンの設定	64		
ペダルに機能を割り当てる (FC1／ FC2 Pedal Assign)	65		
[S1] [S2] ボタンに機能を割り当てる (S1/S2 Assign)	65		
リバーブ／コーラスの設定	66		
リバーブの設定をする	66		
コーラス／ディレイの設定をする	66		
コンプレッサーの設定	67		
コンプレッサーの種類を選ぶ (Type)	67		
コンプレッサーの詳細を設定する	67		
ファイルの管理	68		
ライブ・セット・ファイルを保存する (LIVE SET Save)	68		
ライブ・セット・ファイルを呼び出す (LIVE SET Load)	69		
ライブ・セット・ファイルを削除する (LIVE SET Delete)	69		
ライブ・セット・ファイルをコピーする (LIVE SET Copy)	70		
曲を削除する (SONG Delete)	71		
曲をコピーする (SONG Copy)	71		
メモリーを初期化する (Format)	72		
リズムの設定	73		
テンポを変える (Tempo)	73		
音量を設定する (Volume)	73		
パターンを変える (Pattern)	73		
リズム・セットを変える (Rhy Set)	73		
MIDI 出力する端子を選ぶ (MIDI OUT Port)	73		
MIDI 出力するチャンネルを選ぶ (MIDI Channel)	73		
V-LINK を使う	74		
V-LINK をオン／オフする	74		
V-LINK の設定	74		
V-LINK の詳細を設定する	74		
Local ON/OFF	74		
曲の再生の設定を変える	75		
音を鳴らすパートを選ぶ	75		
製品出荷時の設定に戻す	76		
Factory Reset Current	76		
Factory Reset All	76		
外部 MIDI 機器との接続	77		
RD-300NX の演奏を外部 MIDI シーケンサーに録音する	77		
外部シーケンサーと接続する	77		
録音するときの設定をする	77		
演奏を録音する	77		
Rec Mode を解除する	78		
ローカル・スイッチについて	78		
外部 MIDI 機器から RD-300NX の音源部を鳴らす	79		
接続のしかた	79		
外部 MIDI 機器から RD-300NX の音色を切り替える	79		
パソコンと接続する	80		
USB MIDI 端子を使ってパソコンと接続する	80		
USB ドライバの設定をする	81		
USB メモリーの設定を切り替える	81		
資料	82		
故障かな?と思ったら	82		
メッセージ一覧	85		
エラー・メッセージ	85		
その他のメッセージ	86		
エフェクト一覧	87		
マルチ・エフェクト	87		
コーラス	87		
リバーブ	87		

各部の名称とはたらき

フロント・パネル



1. [VOLUME] スライダー

リア・パネルの OUTPUT 端子と PHONES 端子から出力される全体の音量を調節します (P.18)。

2. EQUALIZER

[LOW] つまみ

音の低域を調節します (P.34)。

[MID] つまみ

音の中域を調節します (P.34)。

[HIGH] つまみ

音の高域を調節します (P.34)。

[EXIT/SHIFT] ボタンを押しながら EQUALIZER つまみ ([LOW] つまみ / [MID] つまみ / [HIGH] つまみ) を回すと、それぞれの帯域の中心周波数を変えることができます。

3. REVERB, CHORUS, COMPRESSOR, SOUND FOCUS

[REVERB] ボタン

リバーブ効果（残響）をオン／オフします (P.32)。
リバーブ効果のかかり具合を調節します (P.32)。

[REVERB] ボタンを押しながら [CHORUS] ボタンを押すと、接続した V-LINK 対応の外部映像機器をコントロールできます (P.74)。

[CHORUS] ボタン

コーラス効果をオン／オフします (P.32)。
コーラス効果のかかり具合を調節します (P.32)。

[REVERB] ボタンを押しながら [CHORUS] ボタンを押すと、接続した V-LINK 対応の外部映像機器をコントロールできます (P.74)。

[COMPRESSOR] ボタン

コンプレッサーをオン／オフします (P.33)。
コンプレッサーのかかり具合を調節します (P.33)。

[SOUND FOCUS] ボタン

サウンド・フォーカスをオン／オフします (P.34)。
音の輪郭をはっきりさせます (P.34)。

4. CONTROL

LAYER LEVEL スライダー

各レイヤーの音量を調節します (P.30)。

SONG/RHYTHM [SELECT] ボタン

ソングやリズムを選択する画面を表示します (P.36、P.37)。

SONG/RHYTHM [▶/■] ボタン

ソングやリズムを再生／停止します (P.36、P.37)。

[MIDI] ボタン

RD-300NX で外部 MIDI 音源をコントロールします (P.77)。

[TRANSPOSE] ボタン

鍵盤の音域の移調を設定します (P.31)。

[SPLIT] ボタン

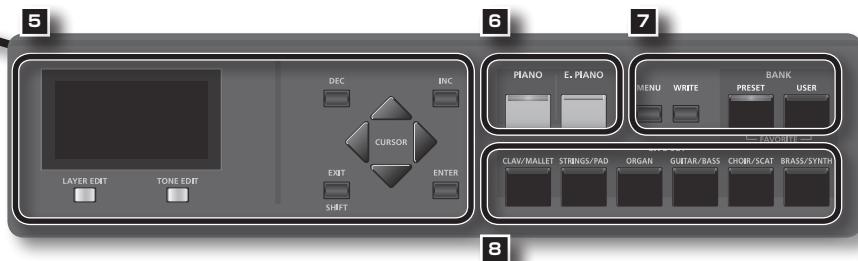
鍵域を 2 つに分けて、右側と左側で別の音色で演奏する「スプリット・モード」にします (P.28)。

また、このボタンと [DUAL] ボタンを同時に押すと、デモ曲を聴くことができます (DEMO PLAY) (P.25)。

[DUAL] ボタン

全鍵で UPPER 1 と UPPER 2 のトーンを重ねて演奏する「デュアル・モード」にします (P.28)。

また、このボタンと [SPLIT] ボタンを同時に押すと、デモ曲を聴くことができます (DEMO PLAY) (P.25)。



5. ディスプレイ

ライブ・セット名や、さまざまな設定を表示します。

[LAYER EDIT] ボタン

レイヤーの設定を変更することができます (P.49)。

また、画面によって、ボタンに機能が割り当てられます。機能名は画面の一番下に表示されます。

[TONE EDIT] ボタン

トーンの設定を変更することができます (P.47)。

また、画面によって、ボタンに機能が割り当てられます。機能名は画面の一番下に表示されます。

[DEC] ボタン、[INC] ボタン

値を変更します。

片方のボタンを押しながら、もう一方のボタンを押すと、値が速く変わります。

カーソル [▲] [▼] [◀] [▶] ボタン

画面の切り替えや、カーソルを移動するときに押します。

[EXIT/SHIFT] ボタン

元の画面に戻したり、実行中の機能を中断します。

また、このボタンを押しながら、ボタンやつまみ、コントローラーを操作すると、関係する設定画面を呼び出すことができます。

[ENTER] ボタン

値の確定や操作を実行するときに使います。

6. ONE TOUCH

[PIANO] ボタン

ピアノ演奏に最適な設定にします (P.42)。

[E.PIANO] ボタン

エレクトリック・ピアノ演奏に最適な設定にします (P.46)。

7. FUNCTION

[MENU] ボタン

いろいろな設定を変更します (P.58)。

[WRITE] ボタン

現在の設定を「ライブ・セット」に記憶します (P.41)。

BANK [PRESET] ボタン

プリセット・バンクのライブ・セットを選びます。

BANK [USER] ボタン

ユーザー・バンクに保存されているライブ・セットを選びます。ユーザー・バンクには、設定したライブ・セットが保存できます (P.41)。

8. LIVE SET ボタン

ライブ・セットのカテゴリーを選びます (P.27)。

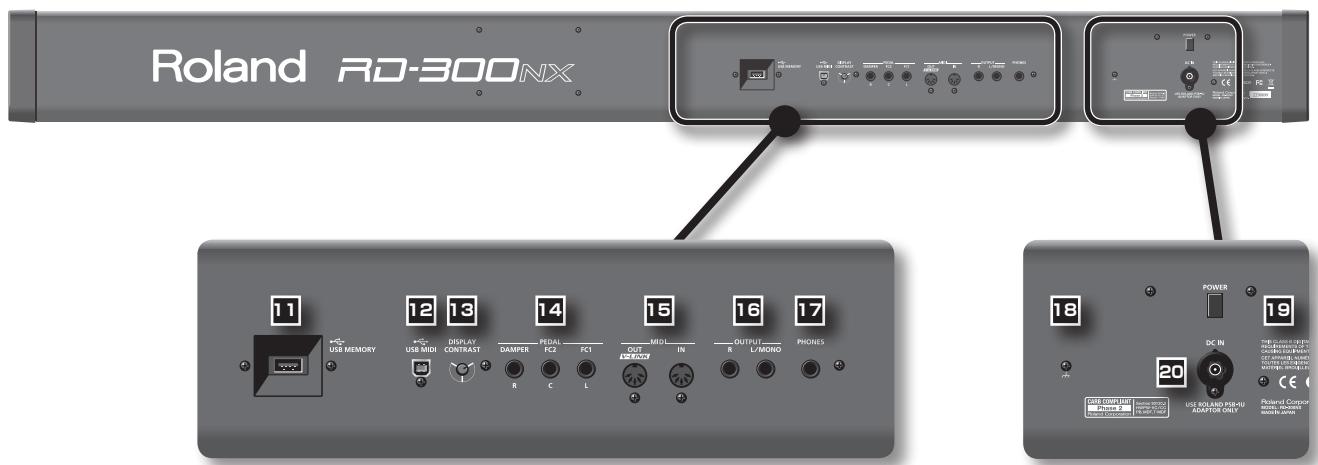
9. [S1] ボタン、[S2] ボタン

これらのボタンに、いろいろな機能を割り当てられます (P.64)。演奏中にこれらのボタンを押して、割り当てられた機能を使います。

10.ピッチ・ベンド／モジュレーション・レバー

ピッチ（音の高さ）を変化させたり、ビブラートをかけたりします (P.33)。

リア・パネル



11.USB MEMORY 端子

別売のUSBメモリーやCD-ROMドライブなどを接続します(P.18)。

USBメモリーやCD-ROMドライブは、ローランド製品をお使いください。

12.USB MIDI 端子

パソコンと接続して、演奏情報をやりとりします(P.80)。

13.[DISPLAY CONTRAST] つまみ

ディスプレイの表示の濃さを調節します(P.18)。

14.PEDAL 端子 (DAMPER, FC1, FC2)

DAMPER端子に付属のペダルを接続すると、ダンパー・ペダルとして使用することができます。

また、FC1、FC2端子に接続したペダルにいろいろな機能を割り当てることができます(P.64)。

15.MIDI 端子 (IN、OUT)

外部MIDI機器と接続して、MIDIメッセージを送受信します(P.77)。

16.OUTPUT L (MONO) / R 端子

オーディオ信号の出力端子です。アンプなどと接続します。モノラルで出力するときは、L(MONO)端子に接続してください(P.15)。

17.PHONES 端子

ヘッドホンを接続します(P.15)。

ヘッドホンを接続しても、OUTPUT端子からはオーディオ信号が出力されます。

18.機能接地端子

設置条件によっては本体の金属部に触れると、違和感を覚えたりざらつくような感じになることがあります。これは人体に全く害のない極微量の帯電によるものですが、気になる方は、必要に応じ、接地端子(図参照)を使って外部のアースか大地に接地してご使用ください。接地した場合、設置条件によってはわずかにハム(うなり)が混じる場合があります。なお接続方法がわからぬときはローランドお客様相談センターにご相談ください。

接続してはいけないところ

- ・水道管(感電の原因になります)
- ・ガス管(爆発や引火の原因になります)
- ・電話線のアースや避雷針(落雷のとき危険です)

19.[POWER] スイッチ

電源をオン／オフします(P.17)。

20.DC IN 端子

付属のACアダプターを接続します(P.14)。

演奏する前に

スタンドに設置する

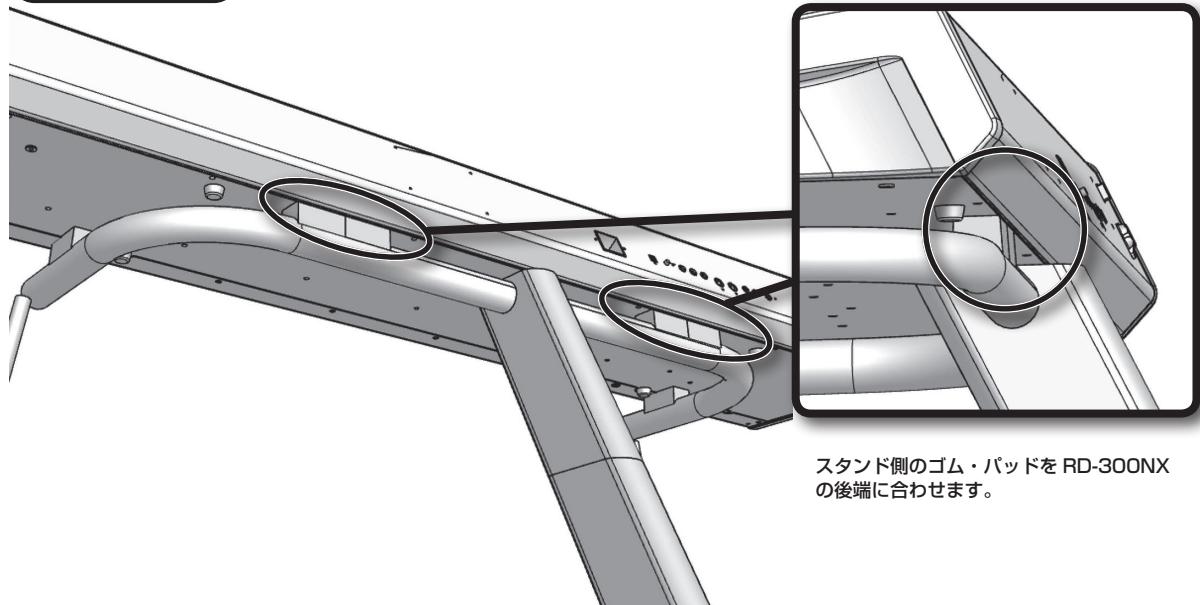
RD-300NX をスタンドに設置する場合は、必ず KS-G8（別売）を使用してください。スタンドの上に設置するときは、以下の位置に RD-300NX を置きます。

ご注意！

他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

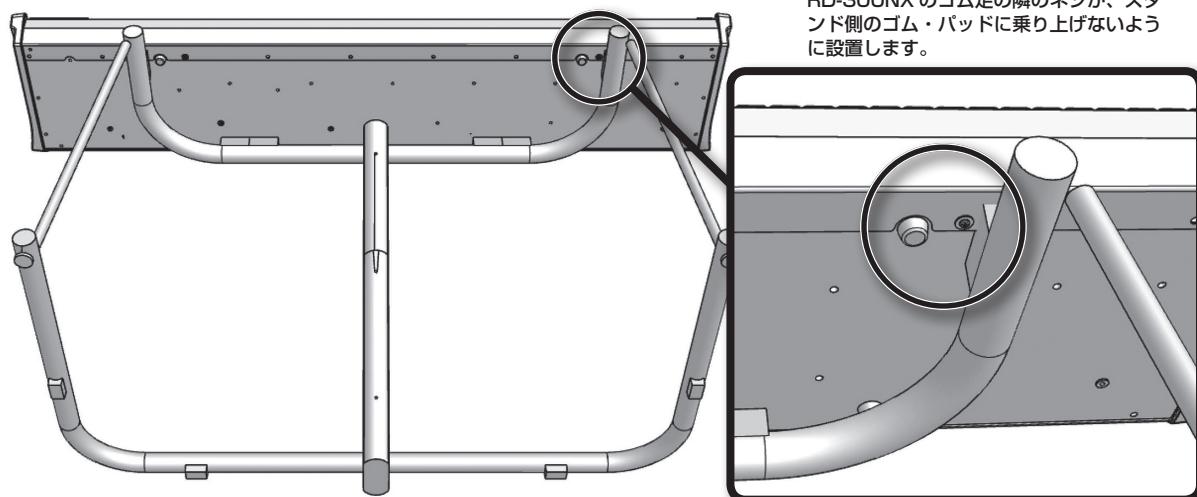
スタンドの組み立てかたについては、スタンドの取扱説明書をご覧ください。

後ろから見た図



スタンド側のゴム・パッドを RD-300NX の後端に合わせます。

下から見た図



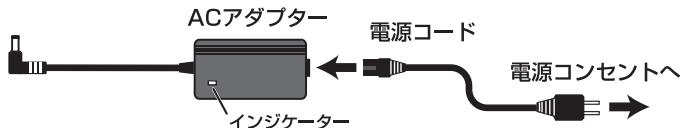
RD-300NX のゴム足の隣のネジが、スタンド側のゴム・パッドに乗り上げないように設置します。

ご注意！

RD-300NX をスタンドの上に設置するときは、本体とスタンドの間に手をはさまないように注意してください。

ACアダプターを接続する

1. [POWER] スイッチがオフになっていることを確認します。
2. [VOLUME] スライダーを下げる、音量を最小にします。
3. 付属の AC アダプターに電源コードを接続します。



AC アダプターは、インジケーター（図参照）のある面が上になるように設置してください。

AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。

4. AC アダプターを RD-300NX リア・パネルの DC IN 端子に接続し、電源コードを電源コンセントに差し込みます。

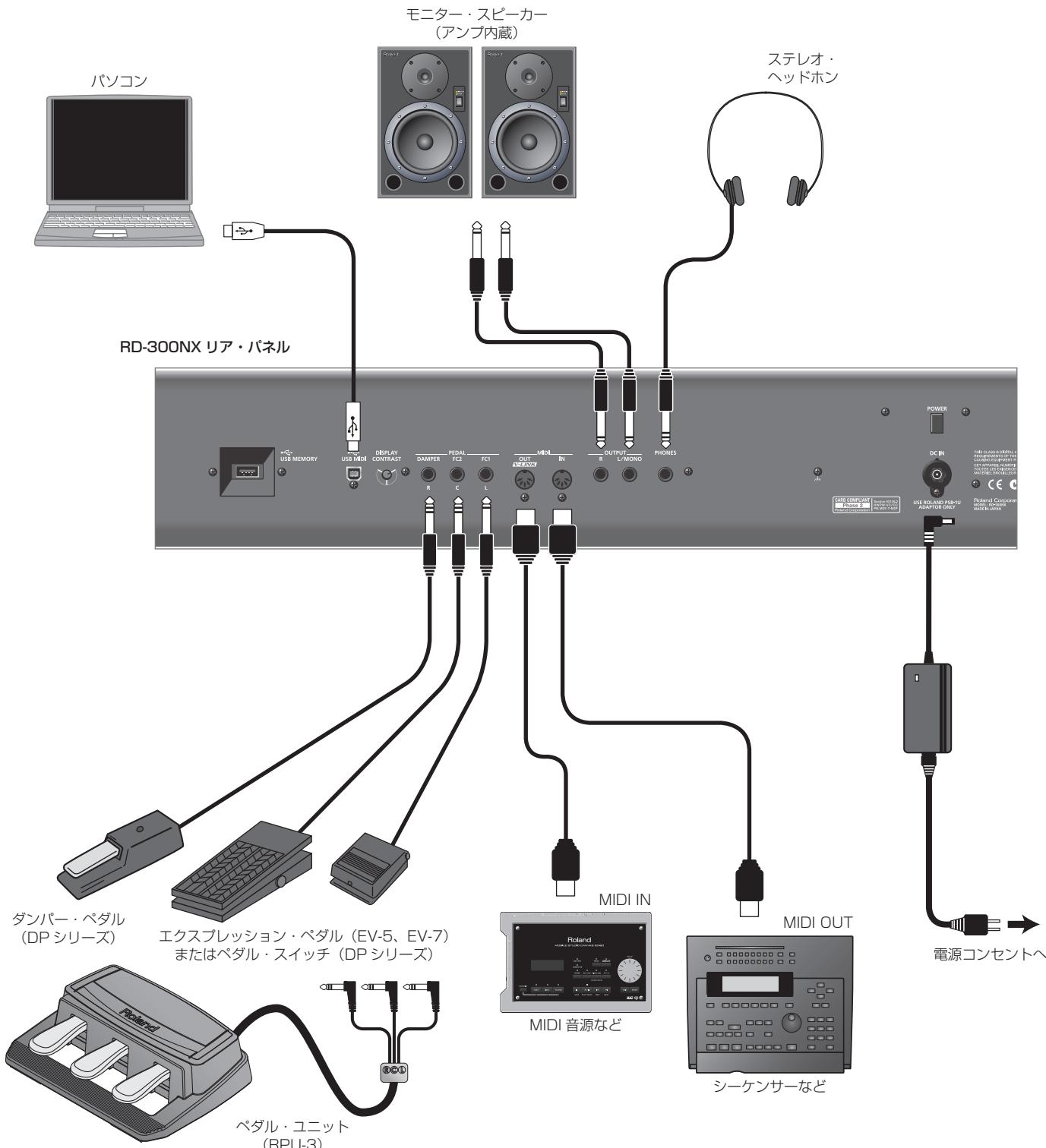
外部機器と接続する

RD-300NX は、アンプやスピーカーを内蔵していません。音を出すにはモニター・スピーカーやステレオ・セットなどのオーディオ機器、または、ヘッドホンなどを用意ください。

*オーディオ・ケーブル、USB ケーブル、MIDI ケーブル、ヘッドホン、エクスプレッション・ペダル、USB メモリーは付属していません。ご購入の際は、本機をお求めになった販売店にお問い合わせください。

ご注意！

他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。



1. 接続を始める前に、次のことを確認します。

本体および接続するアンプなどの音量が最小になっていますか？

本体および接続するアンプなどの電源がオフになっていますか？

2. 付属の AC アダプターを本体の DC IN 端子につなぎ、電源コードを電源コンセントに差し込みます。

3. RD-300NX と外部機器を接続します。

アンプやスピーカーなどのオーディオ機器を接続するには、オーディオ・ケーブルを使います。

MIDI 機器は MIDI ケーブルを使って接続します。また、パソコンと接続するときは、USB ケーブルを使います。

ヘッドホンを使う場合は、PHONES 端子にプラグを差し込みます。

また、必要に応じて、ペダル・スイッチ、エクスプレッション・ペダルも接続します。

ご注意！

- ヘッドホンはステレオ標準タイプのものをお使いください。

また、ヘッドホンは、ローランド製品をお使いください。他のものを使用すると、充分な音量を得られないことがあります。

- エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの（別売：EV-5、EV-7）をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

メモ

USB MEMORY 端子に、CD ドライブを接続することができます。CD ドライブを使って CD の曲を再生することができます。

ペダルを接続する

付属のペダルを、PEDAL 端子のいずれかに接続します。

DAMPER 端子に接続すると、ダンパー・ペダルとして使用することができます。

FC1 または FC2 端子に接続すると、さまざまな機能を割り当てることができます（P.50、P.65）。

ご注意！

付属のペダルを接続するときは、ペダル側面のスイッチを「Continuous」にしてお使いください。

電源を入れる／切る

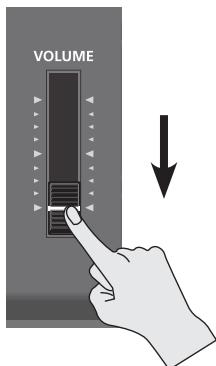
ご注意！

正しく接続したら（P.15）、必ず次の手順で電源を投入してください。手順を間違えると、誤動作をしたりスピーカーなどが破損する恐れがあります。

電源を入れる

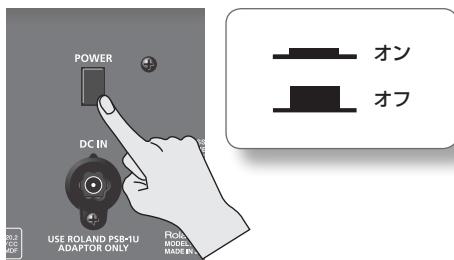
1. 電源を入れる前に、[VOLUME] スライダーで音量を最小にします。

接続している外部オーディオ機器などの音量も最小にしてください。



2. RD-300NX の背面にある [POWER] スイッチを押します。

電源が入り、ディスプレイが点灯します。



ご注意！

- ピッチ・ベンド／モジュレーション・レバー（P.33）操作時の誤動作を防ぐため、電源投入時にはピッチ・ベンド／モジュレーション・レバーに触れないようにしてください。
- この機器は回路保護のため、電源をオンにしてからしばらくは動作しません。
- 音量を絞ってから電源を入れてください。音量を絞っても、電源を入れるときに音がすることがあります、故障ではありません。
- 万が一、ファクトリー・リセット（P.76）の途中で電源を切るなどした場合、本体内的データが破損し、次回起動時に時間がかかることがあります。

3. 接続している外部機器の電源を入れます。

4. 接続している外部機器の音量を調節します。

5. RD-300NX の音量を調節します。

電源を切る

1. 電源を切る前に、[VOLUME] スライダーで音量を最小にします。

接続している外部オーディオ機器などの音量も最小にしてください。

2. 接続している外部機器の電源を切ります。

3. RD-300NX の背面にある [POWER] スイッチを押します。

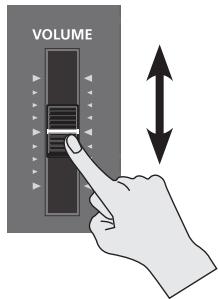
電源が切れます。

音量を調節する

1. [VOLUME] スライダーで音量を調節します。

上に動かすと音が大きくなり、下に動かすと音が小さくなります。

接続している機器も適当な音量に調節してください。



ディスプレイの明るさを調節する

電源を入れた直後や長時間使用した後、または設置条件などによって、ディスプレイの文字が見づらくなることがあります。このようなときは、リア・パネルにある [DISPLAY CONTRAST] つまみを回して、ディスプレイの明るさを調節してください。

リア・パネル



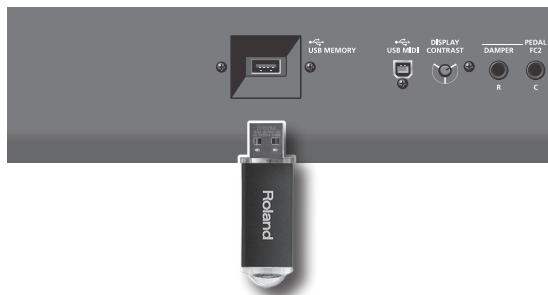
USBメモリーを接続する

ライブ・セット・ファイルや曲ファイルを、保存用として別売の USB メモリーにコピーしておくことができます。

また、USB メモリーに保存されている SMF ミュージックデータやオーディオ・ファイルを再生することもできます (P.37)。

1. USB メモリーを本体背面にある USB MEMORY 端子に接続します。

リア・パネル



ご注意！

- USB メモリーは、ローランドが販売しているものを使用してください。それ以外の USB メモリーを使用したときの動作は保証できません。
- 本体の電源を入れたまま、USB メモリーの抜き差しをしないでください。本体や USB メモリー内のデータが失われる可能性があります。
- USB メモリーは挿入方向や表裏に注意し、確実に奥まで差し込んでください。また無理な挿入はしないでください。

メモ

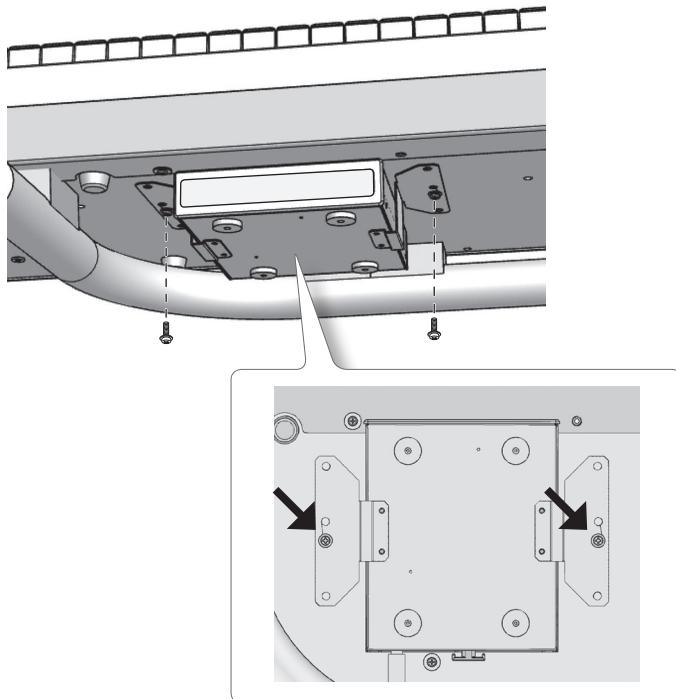
新しいUSB メモリーを使う場合は、まずRD-300NXで初期化(フォーマット)してください。詳しくは『メモリーを初期化する(Format)』(P.72) をご覧ください。

CD ドライブを接続する

スタンド (KS-G8) を使う場合は、下図のように本体底面にある取り付け穴を利用して CD ドライブ (別売) を取り付けることができます。音楽 CD のオーディオ・トラック、CD-ROM の SMF ミュージック・データやオーディオ・ファイルが再生できます。

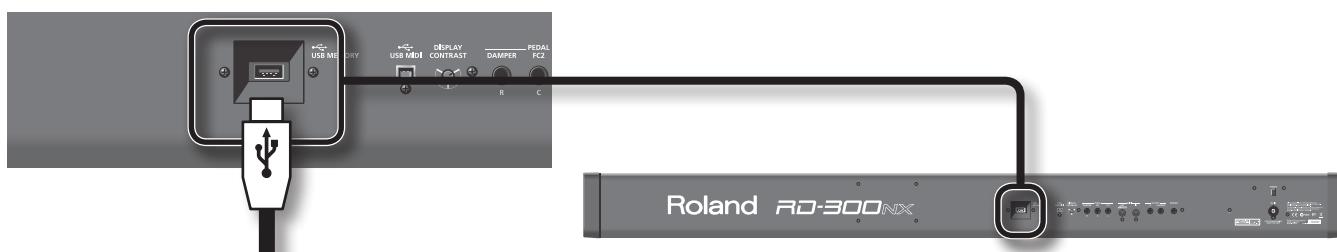
メモ

CD ドライブの電源の入れかた／切りかた、CD の入れかた／取り出しかたについては、お使いになる CD ドライブの取扱説明書をご覧ください。



1. CD ドライブを付属の USB ケーブルで USB MEMORY 端子に接続します。

リア・パネル



ご注意！

USB ケーブルを接続する場合は、挿入方向に注意し、確実に奥まで差し込んでください。また無理な挿入はしないでください。

2. 接続した CD ドライブの電源を入れます。

3. RD-300NX の電源を入れます。

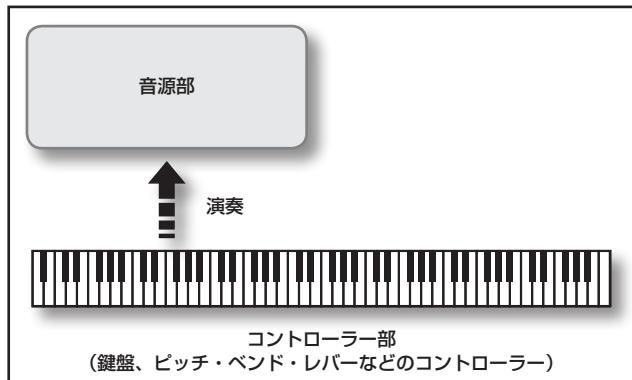
ご注意！

- CD ドライブは、ローランドが販売しているものを使用してください。それ以外の CD ドライブを使用したときの動作は保証できません。
- 音楽トラックとデータが混在する CD は、正しく再生できません。
- 市販 CD の再生は、正式な CD 規格のロゴマーク「COMPACT disc DIGITAL AUDIO」が印刷されているもののみ対応しています。
- 著作権保護技術付き音楽ディスク等、CD 規格外ディスクに対しましては、動作および音質の保証はできません。
- 著作権保護技術付き音楽ディスクに関する詳細については、ディスクの発売元にお問い合わせください。
- CD に曲を保存したり、CD の曲を削除したりすることはできません。CD をフォーマットすることもできません。

RD-300NX の概要

RD-300NXの基本構成

RD-300NX は大きく分けて、コントローラー部と音源部で構成されています。



コントローラー部

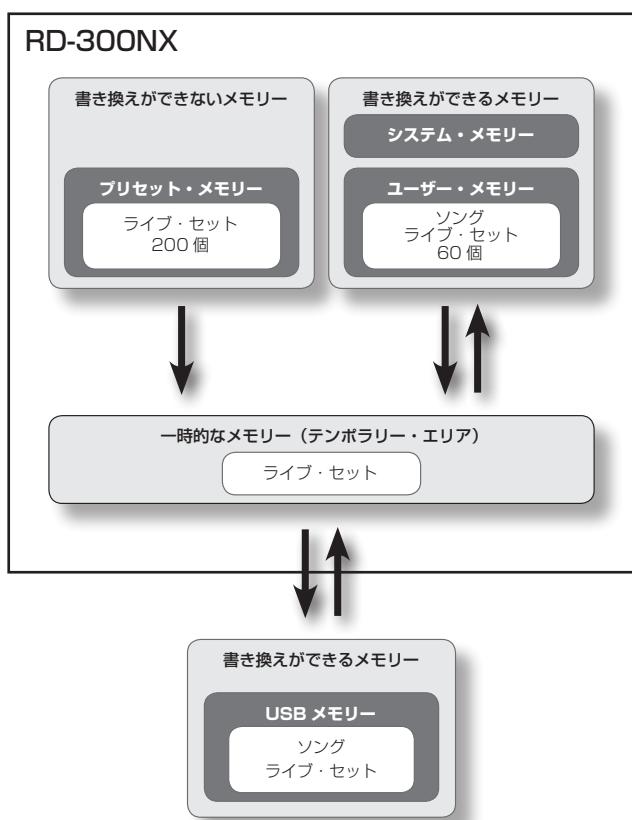
鍵盤、ピッチ・ペンドル／モジュレーション・レバー、パネル上のつまみ、スライダー、およびリア・パネルに接続したペダルなどが含まれます。キーを押す／離す、ダンパー・ペダルを踏むなどの演奏情報を MIDI メッセージに変換して、音源部や外部 MIDI 機器に送信します。

音源部

音を発生させる部分です。コントローラー部や外部 MIDI 機器からの MIDI メッセージを楽音信号に変換して、OUTPUT 端子や PHONES 端子からアナログ信号として出力します。

メモリーについて

ライブ・セットなどの設定を記憶する場所をメモリーと呼びます。メモリーを機能別に整理すると、「一時的なメモリー」、「書き換えができるメモリー」、「書き換えができないメモリー」の 3 つに分けられます。



一時的なメモリー

テンポラリー・エリア

ここには、パネル上のボタンなどで選んだライブ・セットのデータが呼び出されます。

鍵盤で演奏したり、SMF を再生したりするときは、テンポラリー・エリアの設定で音が鳴ります。また、ライブ・セットを変更するときも、そのメモリーのデータを直接変更することではなく、いつたんテンポラリー・エリアに呼び出してから変更します。

テンポラリー・エリアの設定は一時的なもので、電源を切ったり、他の設定を呼び出したりすると失われます。テンポラリー・エリアの設定を残しておきたいときは、設定の書き換えができるメモリーに保存します。

書き換えができるメモリー

システム・メモリー

システム・メモリーには、RD-300NX の動作環境を決めるシステム・パラメーターの設定を記憶することができます。

ユーザー・メモリー

ユーザー・メモリーにはライブ・セットやソングなどを記憶することができます。

USB メモリー (P.18)

ユーザー・メモリーと同様に USB メモリーにもライブ・セットやソングなどを記憶することができます。

書き換えができないメモリー

プリセット・メモリー

プリセット・メモリーのデータは書き換えができません。

プリセット・メモリーから呼び出したデータを変更したときは、書き換えができるメモリー（ユーザー・メモリー、USB メモリー）に記憶することができます。

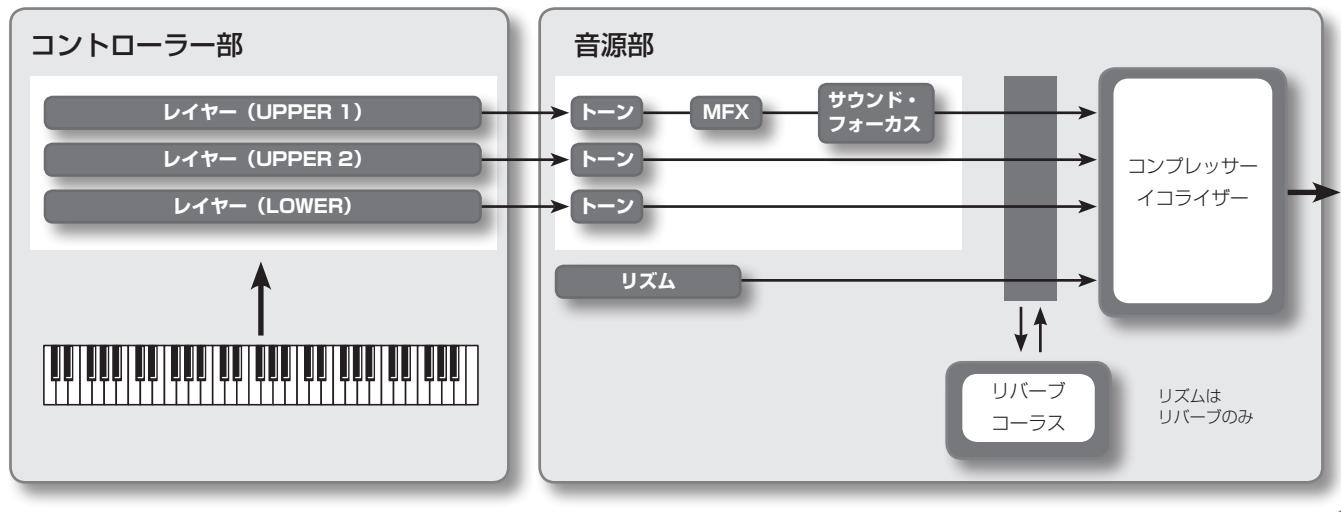
ライブ・セットについて

RD-300NX は、設定した音色を保存できます。

保存された音色を「ライブ・セット」と呼び、ボタンで呼び出して鳴らすことができます。

ライブセットは、呼び出し専用の「プリセット・バンク」と、呼び出しや設定の保存ができる「ユーザー・バンク」の 2 つのバンクに分けられます。

ライブ・セット



レイヤー

RD-300NX は、内部パートを本体のボタンと鍵盤で自由にコントロールするための 3 つのパート(UPPER 1、UPPER 2、LOWER)を持っています。内部パートをコントロールするこの 3 つのパートを「レイヤー」といいます。

また、RD-300NX では、外部 MIDI 音源をレイヤーと同じ感覚で自由にコントロールすることができます。外部音源も 3 つのパート(UPPER 1、UPPER 2、LOWER) でコントロールでき、この 3 つのパートを「EXTERNAL レイヤー」といいます。外部 MIDI 音源をこの 3 つの EXTERNAL レイヤーに割り当ててコントロールします。

トーン

演奏に使う 1 つの音色を「トーン」と呼びます。トーンは、レイヤーに割り当てて鳴らします。

また、トーンの中には、複数の打楽器音を集めた「リズム・セット」も含まれます。リズム・セットでは、押さえる鍵盤（ノート・ナンバー）によって異なった打楽器音が鳴るようになっています。

プリセット・バンク

あらかじめ作られたライブ・セットが 200 個保存されています。

内容の書き換えはできませんが、これらのライブ・セットを元にして新たなライブ・セットを作ることができます。

ユーザー・バンク

作ったライブ・セットを保存するバンクです。60 個のライブ・セットが保存できます。

保存のしかたについては『設定をライブ・セットに保存する』(P.41) をご覧ください。

RD-300NXの基本操作

主な画面

本書では、画面を使用して機能説明をしていますが、工場出荷時の設定（音色名など）と本文中の画面上の設定は一致していないことがあります。あらかじめご了承ください。

ワンタッチ画面

[PIANO] ボタン、または [E. PIANO] ボタンを押すとワンタッチ画面が表示され、RD-300NX はピアノ演奏や E. ピアノに最適な状態になります (P.26)。



ライブ・セット画面（基本画面）

現在選んでいるライブ・セットが表示されます (P.27)。

ライブ・セットを変えることができます。



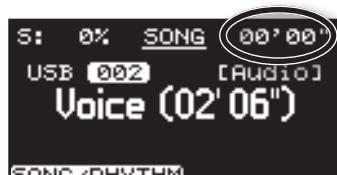
ソング／リズム画面

SONG/RHYTHM [SELECT] ボタンを押すとこの画面になります。

リズム・パターン、ソング、テンポを変えることができます (P.36, P.37)。



USB MEMORY 端子に USB メモリー（別売）を接続して、USB メモリー内の SMF ミュージックデータやオーディオ・ファイルを再生することもできます。



SMF ミュージックデータが選ばれているときは、画面右上に小節数が表示されます。また、オーディオ・ファイルが選ばれているときは、画面右上に演奏時間が表示されます。

[EXIT] ボタンを押すと、ライブ・セット画面に戻ります。

MIDI 画面

[MIDI] ボタンを押すと、RD-300NX で外部 MIDI 音源をコントロールする状態になります (P.51)。

RD-300NX のボタンでレイヤーをコントロールするか、EXTERNAL レイヤーをコントロールするかを切り替えます。

また、外部音源に送信する MIDI 情報の詳細設定をすることができます (P.53)。



ファンクション・ボタンのはたらき



[MENU] ボタン

[MENU] ボタンを押してボタンのインジケーターを点灯させると、「エディット・モード」になります。

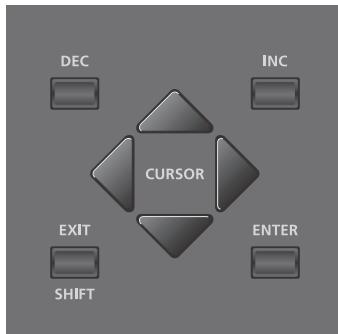
エディット・モードでは、さまざまな機能の詳細設定をすることができます (P.58)。

[MENU] ボタンを押してボタンのインジケーターを消灯させると、エディット・モードを抜けます。

[WRITE] ボタン

現在の設定をライブ・セットに記憶します (P.41)。

カーソル・ボタンのはたらき



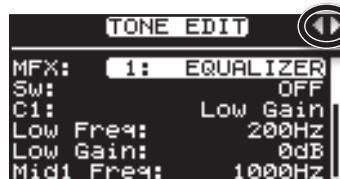
カーソル・ボタンは、画面の切り替えや、設定を変更したい項目の移動（カーソルの移動）に使います。

LAYER EDIT 画面では、レイヤーを選択するときに使います。

画面の切り替え

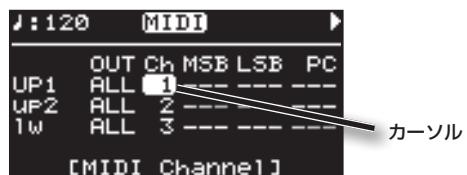
画面の右上に矢印記号（「◀」や「▶」）が表示されているときは、矢印方向に画面があること示しています。

カーソル [◀] [▶] ボタンで画面を切り替えます。



設定項目（カーソル）の移動

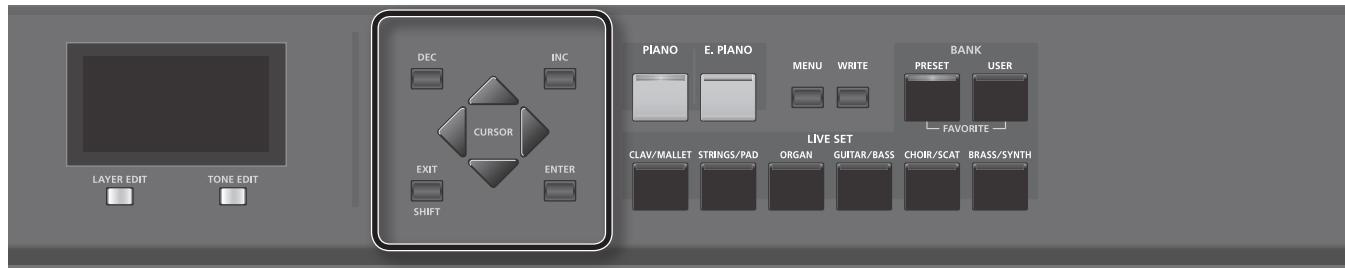
1つの画面に複数の項目が表示されている場合、設定を変更したい項目名や値が枠で囲まれます。この枠を「カーソル」といい、カーソル・ボタンで移動します。



また、MIDI 画面のように、複数の設定項目が横に並んでいるとき、動かしたい方向のカーソル・ボタンを押しながら、逆方向のカーソル・ボタンを押すと、カーソルを速く移動させることができます。

設定値の変更

設定値を変更するときは、[DEC] [INC] ボタンを使います。



[DEC] ボタン、[INC] ボタン

値を大きくするときは [INC] ボタンを押し、小さくするときは [DEC] ボタンを押します。

目的	操作
連続して値を変えたいときは	[DEC] ボタンまたは [INC] ボタンを押し続けます。
値を速く大きくしたいときは	[INC] ボタンを押しながら [DEC] ボタンを押します。 逆に、[DEC] ボタンを押しながら [INC] ボタンを押すと、値が速く小さくなります。
項目の基準値、またはオフにしたいときは	[DEC] ボタンと [INC] ボタンを同時に押します。

デモ曲を聴く (DEMO)

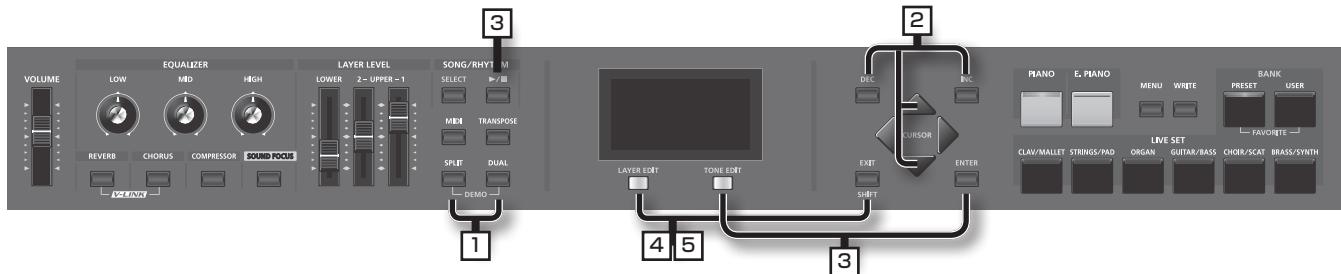
デモ・ソングを聴いてみましょう。

RD-300NX には、特長を活かしたデモ・ソングが内蔵されています。

「Tone Preview」は内蔵音色を効果的に使ったデモ・ソングです。ONE TOUCH ボタンと LIVE SET ボタンに 1 曲ずつ、計 8 曲を用意しています。

ご注意！

- これらのデモ・ソングを個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用することは、法律で禁じられています。
- デモ・ソングの演奏データは MIDI OUT からは出力されません。



メモ

デモ・モードに入ると、各種設定は電源投入時の状態になります。残しておきたい設定は、ライブ・セットに記憶してください (P.41)。

- [SPLIT] ボタンを押しながら [DUAL] ボタンを押します。

デモ画面が表示されます。

- カーソル [▼] [▲] ボタンまたは [DEC] [INC] ボタンを押してデモ・ソングを選びます。

- [ENTER] ボタンまたは [TONE EDIT] (PLAY) ボタンを押して、デモ・ソングの再生を始めます。

最後の曲の再生が終わると、また最初の曲に戻って再生します。

- デモ・ソングを途中で止めるときは、[EXIT/SHIFT] ボタンまたは [LAYER EDIT] (MENU) ボタンを押します。

メモ

- 「Tone Preview」を選んだときは、いずれかの ONE TOUCH ボタンまたは LIVE SET ボタンを押します。

- 押したボタンのデモ・ソングから連続して再生を始めます。

- 曲の再生中に ONE TOUCH ボタンまたは LIVE SET ボタンを押すと、再生中の曲を停止して選んだ曲を再生します。

- 曲が止まっているときに、[EXIT/SHIFT] ボタンまたは [LAYER EDIT] (EXIT) ボタンを押すとデモ・モードを終了します。

元の画面に戻ります。

ご注意！

デモ・ソングの演奏中は、鍵盤を弾いても音は鳴りません。

演奏する

ピアノ演奏をする

ピアノ演奏をしてみましょう。

RD-300NX では、ボタンひとつでいつでもピアノ演奏に最適な設定を呼び出すことができます。お好みのトーン（音色）や設定を選び、ボタンに記憶させることもできます。



1. [PIANO] ボタンまたは [E. PIANO] ボタンを押します。



[PIANO] ボタンを押したときは、鍵盤全体でピアノ音色を演奏する設定になります。

[E. PIANO] ボタンを押したときは、鍵盤全体で E. ピアノ（エレクトリック・ピアノ）音色を演奏する設定になります。

ご注意！

[PIANO] ボタンまたは [E. PIANO] ボタンを押すと、音色の設定を除く各種設定は、電源投入時の状態になります。残しておきたい設定は、ライブ・セットに記憶してください (P.41)。

2. [DEC] / [INC] ボタンを押してバリエーションを選びます。

メモ

[PIANO] ボタンまたは [E. PIANO] ボタンを数秒間押し続けると、そのボタンに現在選んでいるバリエーションを記憶させることができます。

次に同じボタンを押すと、記憶したバリエーションが選ばれます。

より細かな設定をする

RD-300NX では、お好みのピアノ演奏に合うように、より細かな設定をすることができます。その設定はバリエーションごとに記憶することができます。

詳しくは、『ピアノ音色の詳細設定をする』(P.42) をご覧ください。

ご注意！

設定を変更すると、「*」が表示されます。

「*」が表示された状態で電源を切ったり ONE TOUCH 音色やライブ・セットを選んだりすると、設定変更は無効になります。設定を残しておきたいときは、ライブ・セットを保存してください (P.41)。

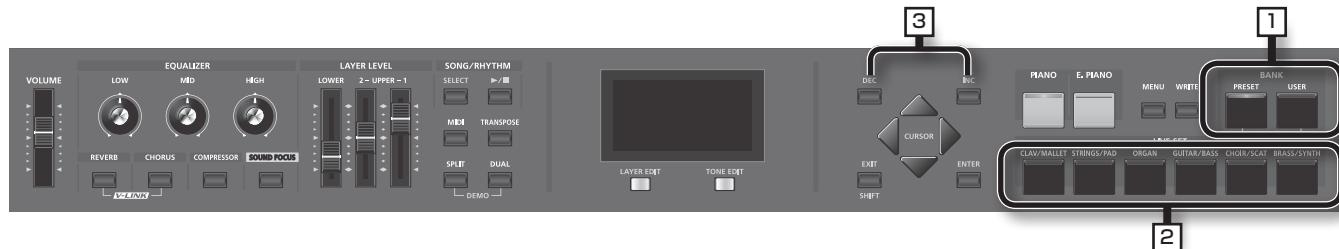
いろいろな音色（ライブ・セット）で演奏する

RD-300NX には、さまざまな音が内蔵されています。

このひとつひとつの音のことを「ライブ・セット」といいます。

ライブ・セットは音の種類（カテゴリー）ごとに LIVE SET ボタンに割り当てられています。カテゴリーごとにいくつかのバリエーションがあります。

いろいろなライブ・セットを選んで演奏してみましょう。



1. BANK [PRESET] ボタンまたは BANK [USER] ボタンを押して、バンクを選択します。

選んだボタンのインジケーターが点灯します。

2. LIVE SET ボタンのいずれかを押して、ライブ・セットの種類（カテゴリー）を選択します。

選んだ LIVE SET ボタンのインジケーターが点灯します。

3. [INC] [DEC] ボタンでバリエーションを選択します。

鍵盤を弾くと、選んだライブ・セットが鳴ります。

メモ

LIVE SET ボタンを数秒間押し続けると、そのボタンに現在選んでいるバリエーションを記憶させることができます。

次に同じボタンを押すと、記憶したバリエーションが選ばれます。

ご注意！

設定を変更すると、「*」が表示されます。

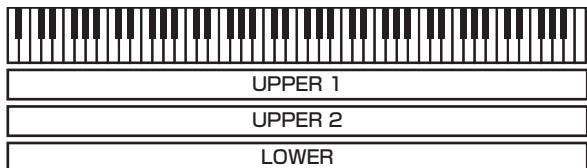
「*」が表示された状態で電源を切ったり他のライブ・セットを選んだりすると、設定変更は無効になります。設定を残しておきたいときは、ライブ・セットを保存（P.41）してください。



鍵盤で複数のトーンを鳴らす

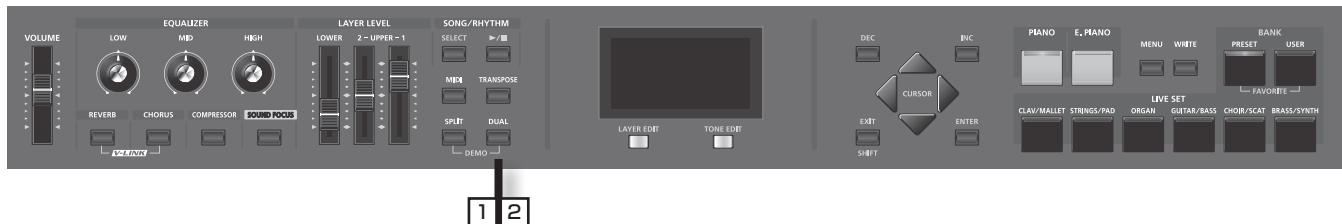
RD-300NX には、3 つのレイヤー (UPPER 1、UPPER 2、LOWER) があり、各レイヤーにトーンがひとつずつ割り当てられます。

レイヤーをオン／オフすることで、複数のトーンを鳴らすことができます。音を重ねて同時に複数のトーンを鳴らしたり、右手側と左手側で別々のトーンを鳴らすこともできます。



トーンを重ねて演奏する（デュアル・モード）

全鍵で UPPER 1 と UPPER 2 のトーンを重ねて演奏することができます。



1. [Dual] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

鍵盤を弾いてみましょう。

UPPER 1 と UPPER 2 のトーンが重なって鳴ります。

2. もう一度 [Dual] ボタンを押すと、インジケーターが消灯します。

UPPER 1 のトーンのみが鳴ります。

メモ

LOWER のトーンも重ねて 3 レイヤーにすることができます。詳しくは、『音を鳴らすレイヤーを選ぶ（レイヤー・スイッチ）』(P.29) をご覧ください。

鍵盤を 2 つの音域に分けて別々のトーンで演奏する（スプリット・モード）

ある鍵を境に鍵盤が右側と左側に分かれることを「スプリット」といい、鍵盤が分かれる位置を「スプリット・ポイント」といいます。

鍵盤右側で鳴るパートを UPPER、鍵盤左側で鳴るパートを LOWER といい、スプリット・ポイントの鍵は LOWER に含まれます。

スプリット・ポイントは、電源投入時は「F#3」に設定されています。

メモ

スプリット・ポイントを変えることができます。『音域の分かれる位置を変える（スプリット・ポイント）』(P.29) をご覧ください。



1. [SPLIT] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤右側で UPPER 1 のトーン、鍵盤左側で LOWER のトーンが鳴ります。



2. スプリットを解除するときは、[SPLIT] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

音域の分かれる位置を変える（スプリット・ポイント）

スプリット・モードの鍵盤の分かれる位置（スプリット・ポイント）を変えることができます。

1. [SPLIT] ボタンを数秒間押し続けます。

現在の設定値が表示されます。

2. [SPLIT] ボタンを押したまま、スプリット・ポイントにしたい鍵を押します。

[SPLIT] ボタンから指を離すと画面が元に戻ります。

スプリット・ポイントの鍵は、LOWER 側に含まれます。

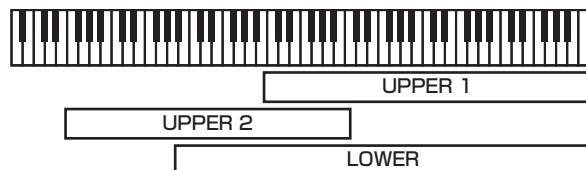
スプリット・ポイントを設定すると、各レイヤーのキー・レンジ『LWR (Key Range Lower)』(P.49)、『UPR(Key Range Upper)』(P.49)はスプリット・ポイントを境に左右に分かれ、表の値に設定されます。



レイヤー	設定範囲
UPPER 1、UPPER 2	スプリット・ポイント+1 ~ C8
LOWER	A0 ~スプリット・ポイント

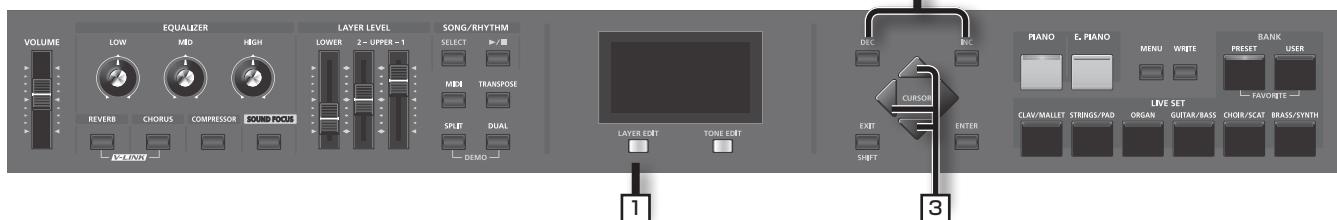
メモ

- スプリット・ポイントを変更すると、各レイヤーのキー・レンジ『LWR (Key Range Lower)』(P.49)、『UPR(Key Range Upper)』(P.49)も変わります。
- [SPLIT] ボタンを押しながら [DEC] ボタンや [INC] ボタンを押すと、スプリット・ポイントを半音ずつ変えることができます。
- 図のように、レイヤーごとに鍵域を自由に設定することができます。『LWR (Key Range Lower)』(P.49)、『UPR (Key Range Upper)』(P.49)をご覧ください。



音を鳴らすレイヤーを選ぶ（レイヤー・スイッチ）

レイヤーごとオン／オフを設定することができます。



1. [LAYER EDIT] ボタンを押して、「LAYER EDIT」インジケーターを点灯させます。

LAYER EDIT 画面が表示されます。

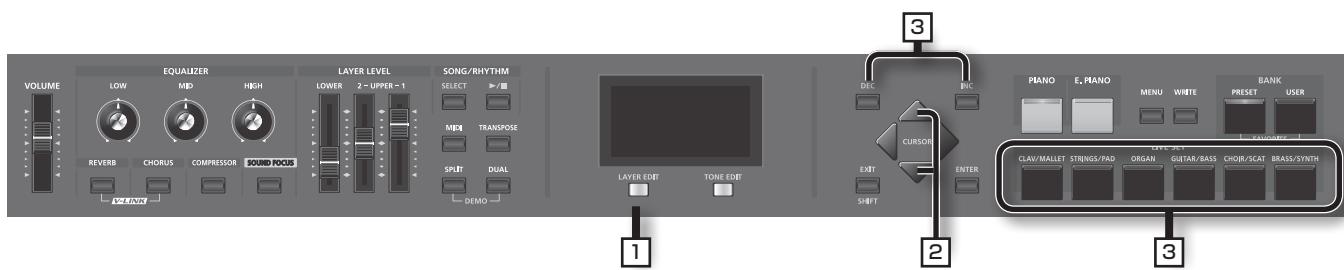
2. カーソル [▼] [▲] [◀] ボタンを押して、1 ページ目の一一番左のレイヤー名「UP1」「UP2」「LW」(OFF の場合は小文字)にカーソルを移動します。

選んだレイヤー名が反転表示されます。

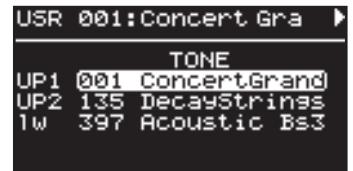
3. [INC] [DEC] ボタンでオン／オフを切り替えます。

レイヤー・スイッチがオフのレイヤーは、レイヤー名が小文字で表示されます。

レイヤーのトーンの変えかた



1. [LAYER EDIT] ボタンを押して、レイヤー・エディット画面を表示します。
2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、トーンを変えたいレイヤーを選びます。
レイヤー・スイッチがオフのレイヤーは、レイヤー名が小文字で表示されます。
3. LIVE SET ボタンでトーンのカテゴリーを選び、[DEC] [INC] ボタンでトーンを選びます。



レイヤーごとの音量を調節する

RD-300NX では、内蔵音源のトーンで演奏するパートのことをレイヤーといいます。

レイヤー (UPPER 1、UPPER 2、LOWER) ごとに、LAYER LEVEL スライダーで音量を設定することができます。



LAYER LEVEL スライダー

各レイヤーの音量を調節します。

メモ

全体の音量を調節するときは、[VOLUME] スライダーを使います (P.18)。

鍵盤の音の高さを変える (TRANSPOSE)

自分が弾く鍵盤の位置を変えずに移調したり、音の高さのオクターブを変えて演奏することができます。このような機能を「トランスポーズ」といいます。

歌う人の声の高さに合わせて演奏したいときや、トランペットなどの移調楽器の譜面どおりに演奏したいときなどに使うと便利です。

トランスポーズの設定は、C4 を基準に半音単位で -48 ~ 0 ~ +48 の範囲で設定できます。電源投入時は「0」に設定されています。

ご注意！

MIDI IN 端子からのノート情報は、移調されません。



- [TRANSPOSE] ボタンを数秒間押し続けます。

Transpose 画面が表示され、現在の設定値が表示されます。



- [TRANSPOSE] ボタンを押したまま、鍵を押します。

C4 (ド) の鍵を押したとき、トランスポーズ量は「0」になります。

たとえば、「ド」の鍵を弾いたときに「ミ」の音が出るようにするには、[TRANSPOSE] ボタンを押しながら、E4 (ミ) の鍵を押します。このときの、トランスポーズ量は「+4」になります。

[TRANSPOSE] ボタンから指を離すと、画面は元に戻ります。

トランスポーズ量が設定されると、トランスポーズがオンになり、[TRANSPOSE] ボタンが点灯します。トランスポーズ量が「0」のときは、[TRANSPOSE] ボタンを押しても、インジケーターは点灯しません。

メモ

[TRANSPOSE] ボタンを押しながら [DEC] [INC] ボタンを使って、トランスポーズ量を変えることができます。

トランスポーズをオンにしても、スプリット・ポイント (P.29) は変わりません。

- トランスポーズをオフにするときは、[TRANSPOSE] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

次に [TRANSPOSE] ボタンを押すと、ここで設定した値でトランスポーズされます。

メモ

レイヤーごとに異なるトランスポーズ量を設定することができます。『TRA (Transpose)』 (P.49) をご覧ください。

ご注意！

トランスポーズ量が 0 のときは、[TRANSPOSE] ボタンを押してもオンになりません。

音に響きをつける (REVERB)

鍵盤で弾く音に「リバーブ効果」(残響)をかけることができます。

リバーブ効果をかけると、コンサート・ホールなどで演奏しているような心地よい響きが得られます。



1. [REVERB] ボタンを押して点灯させます。

リバーブがオンになります。

[REVERB] ボタンを押すたびに、リバーブのオン／オフが切り替わります。

メモ

EDIT画面、「3. Effects」の「Reverb Type」(P.66)で、リバーブの種類を選ぶことができます。

2. [REVERB] ボタンを押しながら [INC] [DEC] ボタンを押して、リバーブ効果のかかり具合を調節します。

[INC] ボタンを押すとリバーブ効果が深くなり、[DEC] ボタンを押すとリバーブ効果が浅くなります。

リバーブのかかり具合は、0～127の範囲で設定できます。

ご注意！

レイヤーの設定 (LAYER EDIT) の「REV (Reverb Amount)」の値が「0」になっているときは、リバーブ効果のかかり具合を調節しても、効果はかかりません (P.49)。

音に広がりをつける (CHORUS/DELAY)

鍵盤で弾く音に「コーラス効果」や「ディレイ効果」をかけることができます。

コーラス効果やディレイ効果をかけると、音に立体的な広がりと厚みを持たせることができます。



1. [CHORUS] ボタンを押して点灯させます。

コーラスがオンになります。

[CHORUS] ボタンを押すたびに、コーラスのオン／オフが切り替わります。

メモ

EDIT画面、「3. Effects」の「Chorus Type」(P.66)で、コーラスの種類を選ぶことができます。

2. [CHORUS] ボタンを押しながら [INC] [DEC] ボタンを押して、コーラス効果のかかり具合を調節します。

[INC] ボタンを押すとコーラス効果が深くなり、[DEC] ボタンを押すとコーラス効果が浅くなります。

コーラスのかかり具合は、0～127の範囲で設定できます。

ご注意！

レイヤーの設定 (LAYER EDIT) の「CHO (Chorus Amount)」の値が「0」になっているときは、コーラス効果のかかり具合を調節しても、効果はかかりません (P.49)。

音の高さをリアルタイムに変化させる

鍵盤を弾きながらレバーを左に倒すとピッチ（音程）が下がり、右に倒すとピッチが上がります。これをピッチ・ベンド効果といいます。

また、レバーを向こう側に倒すとビブラートがかかります。これをモジュレーション効果といいます。

レバーを左または右に倒しながら奥に倒したときは、両方の効果が同時に得られます。

ご注意！

トーンによって、レバーを動かしたときの効果が異なるものがあります。
また、このレバーによる効果は、トーンごとに決まっており、変更することはできません。



ピッチ・ベンド効果



モジュレーション効果

音にメリハリをつける (COMPRESSOR)

コンプレッサーをオンになると、音量のばらつきを抑え、まとまりのある音質になります。



1. [COMPRESSOR] ボタンを押して、ボタンのインジケーターを点灯させます。
[COMPRESSOR] ボタンを押すたびに、コンプレッサーのオン／オフが切り替わります。
2. [COMPRESSOR] ボタンを押しながら [INC] / [DEC] ボタンを押して、コンプレッサーのかかり具合を調節します。
[INC] ボタンを押すと効果が深くなり、[DEC] ボタンを押すと効果が浅くなります。
コンプレッサーのかかり具合は、ORIGINAL、+1 ~ +127 の範囲で設定できます。
3. コンプレッサーを解除するときは、もう一度 [COMPRESSOR] ボタンを押して、インジケーターを消灯させます。

ご注意！

トーンによっては、音がひずむ場合があります。

メモ

コンプレッサーの設定を自由に変えることができます。『コンプレッサーの設定』(P.67) をご覧ください。

音の輪郭をはっきりさせる (SOUND FOCUS)

サウンド・フォーカスをオンにすると、より音を際立たせることができます。



1. [SOUND FOCUS] ボタンを押して、ボタンのインジケーターを点灯させます。

[SOUND FOCUS] ボタンを押すたびに、サウンド・フォーカスのオン／オフが切り替わります。

2. [SOUND FOCUS] ボタンを押しながら [INC] [DEC] ボタンを押して、サウンド・フォーカスのかかり具合を調節します。

[INC] ボタンを押すと効果が深くなり、[DEC] ボタンを押すと効果が浅くなります。

サウンド・フォーカスのかかり具合は、0～127の範囲で設定できます。

3. サウンド・フォーカスを解除するときは、もう一度 [SOUND FOCUS] ボタンを押して、インジケーターを消灯させます。

ご注意！

トーンによっては、音がひずむ場合があります。

メモ

サウンド・フォーカスの効果は、Sound Focus Type で設定します。詳しくは『トーンの設定をする』(P.47) をご覧ください。

音の各帯域のレベルを調節する (EQUALIZER)

RD-300NX には、3バンドのイコライザーが装備されています。

EQUALIZER [LOW] つまみ、[MID] つまみ、[HIGH] つまみの各つまみで、それぞれ音の各帯域のレベルを自由に調節できます。

また、[EXIT/SHIFT] ボタンを押しながら各つまみを動かすことでも、各帯域の中心周波数を調節できます。

ご注意！

イコライザーは OUTPUT 端子から出力される音全体に効果がかかります。



1. つまみで各音域のレベルや周波数を調節します。

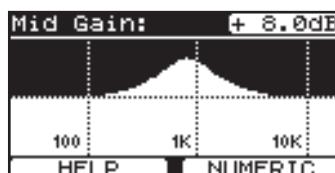
EQUALIZER [LOW] つまみ、[MID] つまみ、[HIGH] つまみの各つまみを左側に回すと各音域が弱くなり、右側に回すと各音域が強くなります。

また、[EXIT/SHIFT] ボタンを押しながら各つまみを左側に回すと周波数が低くなり、右側に回すと周波数が高くなります。

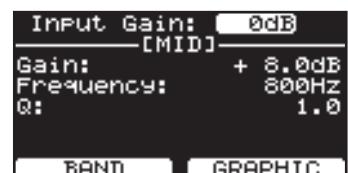
[TONE EDIT] (NUMERIC) ボタンを押すと、設定値の表示が数字に変わります。[TONE EDIT] (NUMERIC) ボタンを押すたびに、表示が「NUMERIC (数字)」と「GRAPHIC (グラフ)」で交互に切り替わります。

画面の状態によって、設定のしかたが以下のように変わります。

GRAPHIC

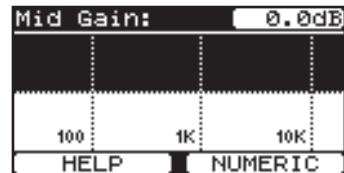


NUMERIC



Graphic 表示のとき

- 値を変えたい音域のつまみを少し動かしてカーソルを移動します。
- カーソル [◀] [▶] ボタンを押して周波数を調節します。
- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して Q を調節します。



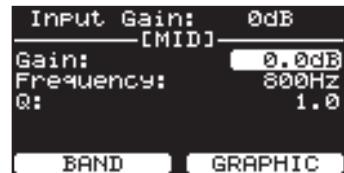
Numeric 表示のとき

- カーソル [▼] [▲] ボタンを押してカーソルを移動します。
- [DEC] [INC] ボタンで値を変えます。
- [LAYER EDIT] (BAND) ボタンを押すたびに、設定を変える周波数帯が切り替わります。



ご注意！

つまみの設定によっては、音がひずむことがあります。そのときは、NUMERIC 表示で Input Gain を調節してください。



ボタンを効かないようにする（パネル・ロック）

パネル・ロックは、ステージなどで誤ってパネルの設定を変えてしまうことが無いように、ボタンやつまみの操作を一時的にロックすることができます。

ただし、以下のボタンやつまみなどは、パネル・ロック中でも操作できます。

- [VOLUME] スライダー
- [DISPLAY CONTRAST] つまみ
- ピッチ・ベンド／モジュレーション・レバー
- ペダル
- [PIANO] ボタン
- [E. PIANO] ボタン
- [EXIT/SHIFT] ボタン

1. [MENU] ボタンを押しながら [ENTER] ボタンを押します。

パネルがロックされ、右のような画面が表示されます。

2. [EXIT/SHIFT] ボタン、または [PIANO] ボタン、[E. PIANO] ボタンを押すと、パネル・ロックが解除されます。

メモ

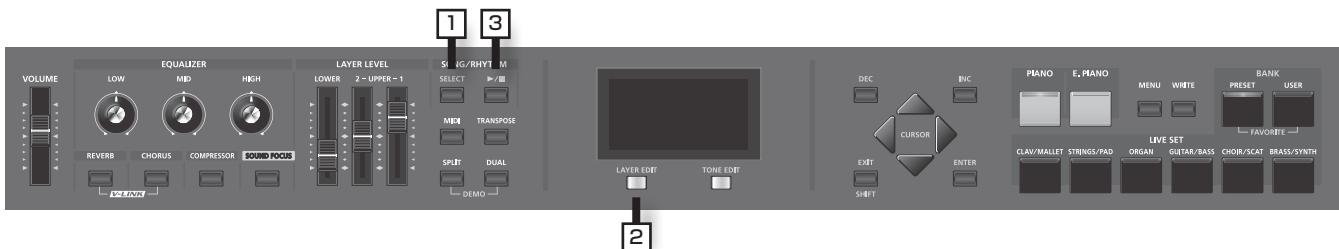
[S1] ボタンや [S2] ボタンにパネル・ロック機能を割り当てるることができます。詳しくは、『S1/S2 Modeが「SYSTEM」のときの[S1][S2]ボタンの機能を割り当てる』(P.61)をご覧ください。



多彩な機能を使って演奏する

リズムを鳴らす

RD-300NXには、ジャズやロックなどさまざまな音楽ジャンルのドラム・パターンを内蔵しています。このドラム・パターンのことを「リズム」といいます。



- [SELECT] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

SONG/RHYTHM 画面が表示されます。



- [LAYER EDIT] (SONG/RHYTHM) ボタンを押して、RHYTHM 画面に切り替えます。

[LAYER EDIT] (SONG/RHYTHM) ボタンを押すたびに、SONG 画面と RHYTHM 画面が切り替わります。



- [▶/■] ボタンを押して点灯させると、リズムが鳴り始めます。

もう一度 [▶/■] ボタンを押して消灯させると、リズムが止まります。

メモ

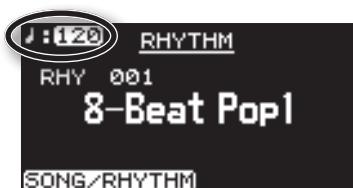
リズムを鳴らしているときに、[LAYER EDIT] (SONG/RHYTHM) ボタンを押して SONG 画面に切り替えると、リズムが止まります。

リズムのテンポを変える

- RHYTHM 画面でカーソル [▲] ボタンを押して、カーソルを画面上段のテンポ表示に移動させます。

- [DEC] [INC] ボタンでテンポを変えます。

設定したテンポでリズムが鳴ります。



リズムのパターンによっては、鳴りかたとテンポ表示が異なる場合があります。

[MENU] ボタンを押して「6.Rhythm」を選ぶと、リズムのテンポやパターンのほかにも、さまざまな設定を変えることができます。詳しくは、『リズムの設定』(P.73) をご覧ください。

リズムのパターンを変える

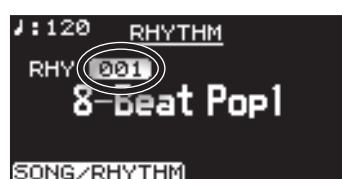
リズムは、いろいろなジャンルに合わせて演奏のしかた（パターン）を選ぶことができます。

- RHYTHM 画面でカーソル [▼] [▲] ボタンを押して、カーソルを画面のリズム番号に移動させます。

- [DEC] [INC] ボタンでパターン выбираете。

リズムのパターンが変わります。

- リズムを止めるときは、[▶/■] ボタンを押して、インジケーターを消灯させます。



データ・リストはローランドのホームページからダウンロードできます。

ローランドのホームページ
<http://www.roland.co.jp/>

「サポート」からたどることができます。

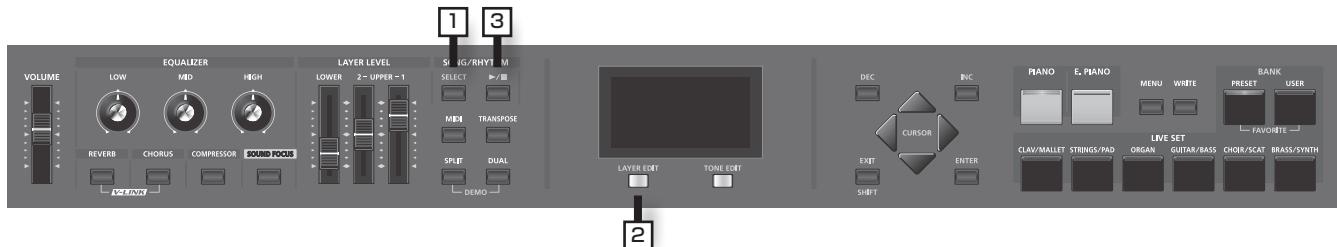
曲を再生する

SMF ミュージックデータやオーディオ・データ、USB メモリーや CD-ROM の SMF ミュージックデータやオーディオ・データ、音楽 CD のオーディオ・トラックを再生することができます。

メモ

USB メモリー（別売）に保存されている曲を再生することができます。詳しくは、『USB メモリーを接続する』（P.18）をご覧ください。

別売の CD ドライブを接続するときは、CD ドライブの取扱説明書をご覧ください。



1. [SELECT] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

SONG/RHYTHM 画面が表示されます。

2. [LAYER EDIT] (SONG/RHYTHM) ボタンを押して、SONG 画面に切り替えます。

[LAYER EDIT] (SONG/RHYTHM) ボタンを押すたびに、SONG 画面と RHYTHM 画面が切り替わります。

3. [▶/■] ボタンを押して点灯させると、曲が再生されます。

もう一度 [▶/■] ボタンを押して消灯させると、曲の再生が止まります。

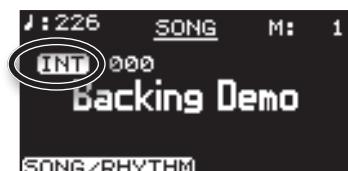
ご注意！

曲の再生中にライブ・セットを変えてもテンポは変わりません。

曲が停止しているときにライブ・セットを切り替えるとライブセットに記憶されているテンポに変わります。

曲を選ぶ

1. SONG 画面でカーソル [▼] [◀] ボタンを押して、カーソルを画面のメディア表示に移動させます。



2. [DEC] [INC] ボタンでメディアを選びます。

表示	解説
INT	RD-300NX 本体メモリーの曲
USB	USB MEMORY 端子に接続した USB メモリーの曲 USB MEMORY 端子に CD ドライブを接続したときの、CD の曲

メモ

USB メモリーにある SMF ミュージックデータを本体メモリーにコピーすることができます。詳しくは、『曲をコピーする (SONG Copy)』（P.71）をご覧ください。

3. [▶] ボタンを押して、カーソルを画面の曲番号に移動させます。

4. [DEC] [INC] ボタンで曲番号を選びます。

5. [▶/■] ボタンを押して点灯させると、曲が再生されます。

フォルダの中にある曲を選ぶときは

1. [DEC] [INC] ボタンでフォルダを選びます。

□（フォルダ）のアイコンが表示されます。

2. [ENTER] ボタンを押します。

フォルダの中にある曲が表示されます。

3. [DEC] [INC] ボタンで曲を選びます。

フォルダの外に抜けるときは、[DEC] [INC] ボタンで「Up」を選び、[ENTER] ボタンを押します。



ご注意！

1つのフォルダ内に500個以上のファイルやフォルダがあるときは、一部のファイルまたはフォルダが表示されないことがあります。

メモ

曲番号「000」には、プリセット曲が内蔵されています。

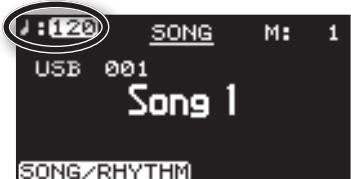
曲のテンポを変える

1. SONG画面でカーソル【▲】ボタンや【◀】ボタンを押して、カーソルを画面上段のテンポ表示に移動させます。

オーディオ・ファイルや音楽CDのオーディオ・トラックを選んでいるときは、%表示になります。

2. [DEC] / [INC] ボタンでテンポを変えます。

曲を再生すると、設定したテンポで再生されます。



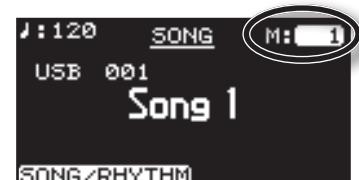
曲を早送り／巻き戻しする

1. SONG画面でカーソル【▲】ボタンや【▶】ボタンを押して、カーソルを画面右上の小節表示に移動させます。

オーディオ・ファイルを選んでいるときは、再生時間表示になります。

2. [DEC] / [INC] ボタンで値を変えます。

表示に合わせて再生位置が変わります。



曲の頭に戻す

1. SONG画面で、[EXIT/SHIFT] ボタンを押しながら [DEC] ボタンを押します。

オーディオ・ファイル再生時のご注意

オーディオ・ファイルの再生テンポを変更すると、RD-300NXに大きな負荷がかかり、鍵盤からの演奏情報を処理しきれなくなることがあります。

そのようなときは、以下の対処をすることで症状を改善できる場合があります。

- 曲のテンポを元に戻す（0%にする）

音に効果をかける (MFX)

RD-300NX では、コーラス (P.32) やリバーブ (P.32) のほかに「マルチ・エフェクト」をかけることができます。マルチ・エフェクトは、ディストーションやロータリーをはじめとするエフェクト・タイプから選ぶことができます。

マルチ・エフェクトは、UPPER 1 で使えます。

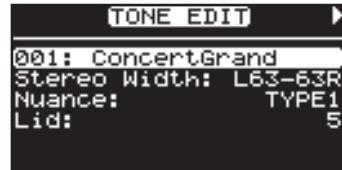
製品出荷時の設定では、各トーンにあったエフェクトが設定されています。

1. ライブ・セット画面を表示させます (P.27)。

2. [TONE EDIT] ボタンを押します。

[TONE EDIT] ボタンが点灯し、TONE EDIT 画面が表示されます。

UPPER 1 を選んでいるときに、MFX パラメーターが表示されます。



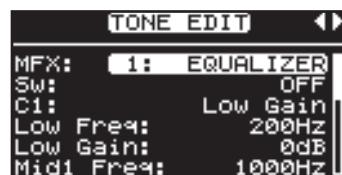
3. カーソル [◀] [▶] ボタンを押して、MFX を選びます。

4. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、設定するパラメーターにカーソルを移動します。

5. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

6. 設定が終わったら、[TONE EDIT] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面に戻ります。



ご注意！

トーンの設定 (TONE EDIT) の MFX の設定が「O THRU」になっているトーンには効果はかかりません (P.47)。

メモ

データ・リストはローランドのホームページからダウンロードできます。

ローランドのホームページ

<http://www.roland.co.jp/>

「サポート」からたどることができます。

記憶させた設定を選ぶ（ライブ・セット）

RD-300NX のレイヤー (P.49) や EXTERNAL レイヤー (P.52) のトーンやエフェクトなどの設定をまとめて「ライブ・セット」と呼びます。

気に入った設定や演奏する曲にあった設定をライブ・セットとして記憶しておけば、演奏時にライブ・セットを切り替えるだけで、まとめて設定を切り替えることができます。

ライブ・セットは 60 個まで記憶することができ、プリセット・バンクには、おすすめのライブ・セットが用意されています。

ここでは、実際にライブ・セットを呼び出してみましょう。

ご注意！

ライブ・セットを呼び出すと、現在の設定は消えてしまいます。

気に入った設定はあらかじめユーザー・バンクに記憶してください。ユーザー・バンクへの記憶のしかたは、『設定をライブ・セットに保存する』(P.41) をご覧ください。

1. LIVE SET ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

ライブ・セット画面が表示されます。

2. [DEC] [INC] ボタン、または LIVE SET ボタンで呼び出すライブ・セットを選びます。

お気に入りのライブ・セットを登録する

よく使用するお気に入りのライブ・セットを、LIVE SET ボタンに登録しておくことができます。

このライブ・セットを「フェイバリット・ライブ・セット」と呼びます。

この機能を使うと、ライブ・セットを、すばやく選ぶことができます。

フェイバリット・ライブ・セットには、6 ライブ・セット × 4 バンクの合計 24 個までのライブ・セットを登録することができます。

1. ライブ・セット画面で、登録したいライブ・セットを呼び出します。

2. BANK [PRESET] ボタンを押しながら BANK [USER] ボタンを押します。

FAVORITES 画面が表示されます。

3. [TONE EDIT] (BANK CHANGE) ボタンで登録先のバンクを選びます。

4. [LAYER EDIT] (ASSIGN) ボタンを押しながら、登録先の LIVE SET ボタンを押します。

押したボタンにライブ・セットが登録されます。

5. ライブ・セット画面に戻る場合には [EXIT/SHIFT] ボタンを押します。



メモ

登録したライブ・セットは、電源を切っても失われません。

お気に入りのライブ・セットを選ぶ

1. BANK [PRESET] ボタンを押しながら BANK [USER] ボタンを押します。

FAVORITES 画面が表示されます。

2. [TONE EDIT] (BANK CHANGE) ボタンを押して、バンクを選びます。

[LAYER EDIT] (ASSIGN) ボタンを押すと、選んだバンクのボタンに登録されているライブ・セットの一覧が表示されます。

メモ

バンクは A ~ D まで 4 個あります。[TONE EDIT] (BANK CHANGE) ボタンを押すたびに、A → B → C → D → A → ... の順にバンクが切り替わります。

[LAYER EDIT] (ASSIGN) ボタンを押しながらカーソル [▼] [▲] ボタンを押すと、画面が切り替わります。

3. いずれかの LIVE SET ボタンを押して、ライブ・セットを選びます。

4. 鍵盤を弾きます。

呼び出したライブ・セットの設定になります。

5. ライブ・セット画面に戻る場合には [EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

設定をライブ・セットに保存する

変更した内容を新しいライブ・セットとして使うには、以下の操作でユーザー・バンクに保存します。

RD-300NX は、60 個のライブ・セットを保存することができます。

ライブ・セットの名前は変更することもできます。

1. [WRITE] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。
右のような画面が表示されます。
2. カーソル [◀] [▶] ボタンを押して、文字を入力したい位置にカーソルを動かします。
3. [DEC] [INC] ボタンを使って、名前を入力します。

選べる文字は次の通りです。

スペース、!"#\$%&'()/*,-./0~9;,<=>?@A~Z[\]^_`a~z{}{}^

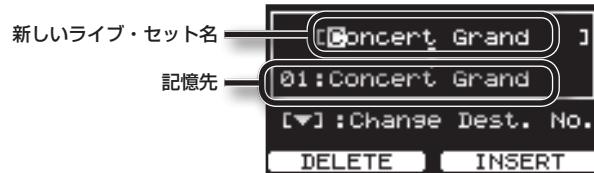
また、[LAYER EDIT] (DELETE) ボタンを押すと一文字削除され、[TONE EDIT] (INSERT) ボタンを押すと一文字の空白が入ります。

4. 操作 2 ~ 3 を繰り返して、名前を入力します。
5. カーソル [▼] ボタンを押して、保存先のライブ・セット・ナンバーにカーソルを移動します。

メモ

名前を入力している途中でも、カーソル [▼] ボタンを押すと、カーソルは保存先のライブ・セット・ナンバーに移動します。

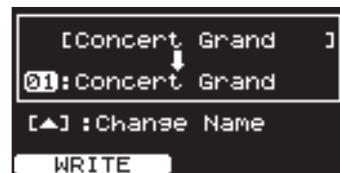
6. [DEC] [INC] ボタンで、保存先のライブ・セット番号を選びます。



7. 保存先と新しいライブ・セット名が決定したら、[ENTER] ボタンまたは [LAYER EDIT] (WRITE) ボタンを押します。

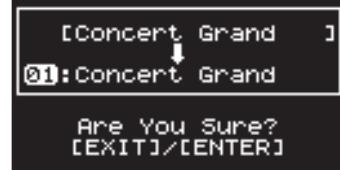
[ENTER] ボタンのインジケーターが点滅し、確認のメッセージが表示されます。

ライブ・セットを保存しないときは、[EXIT/SHIFT] ボタンまたは [WRITE] ボタンを押してください。



8. [ENTER] ボタンを押すと、ライブ・セットの保存が始まります。

ライブ・セットの保存が終わると、[WRITE] ボタンのインジケーターが消灯し、ライブ・セット画面に戻ります。



ご注意！

画面に「Executing...」と表示されている間は、決して電源を切らないでください。

ライブ・セットに保存しない設定

以下の項目は、ライブ・セットに保存することができません。

- System (P.59) の設定
- Compressor (P.67) の設定
- V-LINK (P.74) の設定
- Song Function (P.75) の Play Mode、Transpose、Center Cancel、Part Switch 設定
- Rec Setting (P.77) の設定

System、V-LINK の設定は、EDIT 画面で [LAYER EDIT] (WRITE) ボタンを押して保存します。

ONE TOUCH 音色の詳細設定をする

ピアノ音色の詳細設定をする

[PIANO] ボタン (P.26) を押したときのピアノ音色を、お好みの音色になるように詳細設定することができます。

詳細設定はバリエーションごとに保存することができます。

1. ONE TOUCH PIANO 画面で [DEC] [INC] で、設定するバリエーションを選びます。

2. [TONE EDIT] ボタンを押します。

音色の設定画面が表示されます。

3. カーソル [◀] [▶] ボタンで画面を切り替え、カーソル [▼] [▲] ボタンを押して設定するパラメーターにカーソルを移動します。

以下のメニューは、カーソルを移動したあと [ENTER] ボタンを押し、次の画面で設定するパラメーターを選びます。

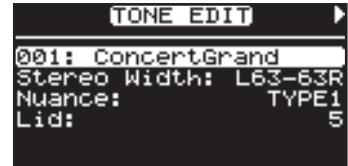
1. Key Touch Edit
2. Micro Tune Edit
3. Sym. Resonance
4. Write
5. Initialize

4. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

パラメーターの詳細は、次のピアノ・パラメーター表をご覧ください (P.43)。

5. 設定が終わったら、[EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

ONE TOUCH PIANO 画面に戻ります。



設定を保存する

1. [TONE EDIT] ボタンを押します。

音色の設定画面が表示されます。

2. カーソル [▶] ボタンで画面を最後のページに切り替えます。

3. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「4. Write」にカーソルを移動し、[ENTER] ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

保存するときは [ENTER] ボタンを、保存をやめるときは [EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

4. [ENTER] ボタンを押します。

設定が保存されます。

ご注意！

画面に「Executing...」と表示されている間は、決して電源を切らないでください。

ピアノ・パラメーター

パラメーター	設定範囲	解説
(トーン名)	—	トーンを選びます。
Stereo Width	CENTER、L01-01R～L63-63R	値が大きいほど音の広がりが増します。
Nuance	TYPE1、2、3	左右の音の位相を変化させることで、音色の微妙なニュアンスを変えます。 ※ ヘッドホンをご使用の場合は、効果がわかりにくくなります。
Lid	1～7	グランドピアノの大屋根の開き具合による音の明るさを再現します。 値が大きいほど屋根が開き、明るい音になります。
Damper Noise	0～127	アコースティック・ピアノのダンパー・ノイズ（ダンパー・ペダルを踏んで、弦が開放されたときに鳴る音）を調節します。 値が大きいほど弦が開放されたときに鳴る音が大きくなります。
Duplex Scale	0～127	アコースティック・ピアノのアリコートで共振した音を調節します。 値が大きくなるほど共鳴音が大きくなります。
		<p>アリコートとは？</p> <p>アリコートとは、弦の手前側と奥側の部分を共振させる方針をいいいます。弦の倍音を響かせることで、豊かで輝かしい音を得ることができます。弦の手前側と奥側の部分にはダンパー（音を止める機構）がないため、鍵盤を弾いた後指を上げて弦の音を止めても、共振した音は残ることになります。</p>
String Resonance	OFF、1～127	アコースティック・ピアノでは、鍵盤を弾くと、すでに押さえている鍵の弦が共鳴します。この共鳴を再現する機能を「ストリング・レゾナンス」といいます。 値が大きいほど効果のかかり具合が大きくなります。
Key Off Resonance	OFF、1～127	アコースティック・ピアノのキー・オフ音（鍵盤を離したときの微妙な音）などの共鳴音を調節します。 値が大きくなるほど共鳴音が大きくなります。
Hammer Noise	-2～0～+2	アコースティック・ピアノを弾いたときの、ハンマーが弦を叩く音を調節します。 値が大きいほどハンマーが弦を叩く音が大きくなります。
Tone Character	-5～0～+5	値が大きいほど硬い音になり、小さくすると柔らかい音になります。
Sound Lift	0～127	鍵盤を弱く弾いたときの音の出かたを変えます。ソロ演奏に適した設定にしたり、バンド演奏でも音が埋もれないように調節することができます。 値を大きくすると、弱いタッチでもある程度大きな音で鳴るため、バンド演奏でも音が埋もれにくくなります。 ※ 値を変えて音色変化は大きいままで。

鍵盤のタッチ感を設定する

鍵盤を弾くタッチ感などを調節します。

この設定を変えると、エディットの Key Touch の設定も変わります（P.63）。

パラメーター	設定範囲	解説
Key Touch	SPR LIGHT	LIGHT よりもさらに軽い設定です。
	LIGHT	鍵盤のタッチ感を軽めの設定にします。MEDIUM より弱いタッチでフルティッシュモ（ff）が出来せるので、鍵盤が軽くなつたように感じられます。力の弱いかたでも、演奏しやすい設定です。
	MEDIUM	鍵盤のタッチ感を標準設定にします。最も自然なタッチで弾けます。アコースティック・ピアノに一番近いタッチです。
	HEAVY	鍵盤のタッチ感を重めの設定にします。MEDIUM より強いタッチで弾かないとフルティッシュモ（ff）が出来なくなるので、鍵盤が重くなつたように感じられます。ダイナミックに弾くとき、さらに感情がこめられます。
	SPR HEAVY	HEAVY よりさらに重い設定です。
Key Touch Offset	-10 ~ +9	鍵盤のタッチ感を Key Touch の設定よりさらに細かく調節します。Key Touch の設定値間をさらに細かく設定することができます。 値が大きいほどタッチ感が重くなります。 この設定値が上限または下限を超えると、その値に合わせて Key Touch の 5 段階の値も自動的に切り替わります。

パラメーター	設定範囲	解説
Velocity	REAL	鍵盤を弾く強さによって音量や音の鳴りかたが変化します。
	1 ~ 127	鍵盤を弾く強さに関わらず、音量や音の鳴りかたが設定した値で一定になります。
Velo Delay Sens (Velocity Delay Sensitivity)	-63 ~ +63	鍵盤を押した瞬間から発音するまでのタイミングを設定します。 値がマイナスのときは、強く弾いたときの発音のタイミングが遅くなります。値がプラスのときは、弱く弾いたときの発音のタイミングが遅くなります。
Velo Keyflw Sens (Velocity Keyfollow Sensitivity)	-63 ~ +63	鍵域による鍵盤のタッチ感を設定します。 値が大きいほど、鍵域の高い鍵はより重く、鍵域の低い鍵はより軽い設定になります。
Key Off Position	STND (STANDARD) DEEP	通常のピアノの深さでノート・オフします。 深い位置でノート・オフします。エレクトリック・ピアノなどの音色に適しています。

チューニングを微調整する

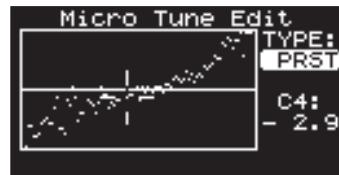
鍵盤をひとつずつ選んで、チューニングの微調整をします。

0.1 セント単位で、-50.0 から +50.0 セントの範囲で設定できます。（1 半音 = 100 セント）

パラメーター	設定値
Type	OFF, PRST (PRESET), USER

1. ピアノ音色の詳細設定の（P.42）の操作 3 で、「2. Micro Tune Edit」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

Micro Tune Edit 画面が表示されます。



[EXIT/SHIFT] ボタンを押すと、ひとつ前の画面に戻ります。

2. カーソル [▲] ボタンを押して、「TYPE」の設定値にカーソルを移動します。
3. [DEC] [INC] ボタンで、タイプを選びます。
4. カーソル [▼] ボタンを押して、数値にカーソルを移動します。
5. 調節したい鍵を押して、指定します。
6. [DEC] [INC] ボタンで、値を設定します。

ペダルを踏んだときの共鳴音を変える

ダンパー・ペダルを踏んだときの共鳴音（シンパセティック・レゾナンス）を調節します。

アコースティック・ピアノでは、ダンパー・ペダルを踏んだときに、弾いた鍵盤の音が他の弦に共鳴して、豊かな響きと広がりが加わります。この共鳴音を再現します。

パラメーター	設定値	解説
SW	OFF, ON	ON にすると効果がかかります。
Depth	0 ~ 127	効果の深さ
Damper	0 ~ 127	ダンパー・ペダルの踏み込み量（レゾナンス音を制御します）
Pre LPF	16 ~ 15000 Hz, BYPASS	入力音の高域成分をカットするフィルターの基準周波数（BYPASS : カットしない）
Pre HPF	BYPASS, 16 ~ 15000 Hz	入力音の低域成分をカットするフィルターの基準周波数（BYPASS : カットしない）
Peaking Freq	200 ~ 8000 Hz	入力音の特定の周波数帯を増減するフィルターの基準周波数
Peaking Gain	-15 ~ +15 dB	入力音の特定の周波数帯を増減するフィルターの増幅／減衰量
Peaking Q	0.5, 1.0, 2.0, 4.0, 8.0	Peaking Gain で増幅／減衰する周波数帯の幅（値が大きいほど幅は狭くなります）
HF Damp	16 ~ 15000 Hz, BYPASS	レゾナンス音の高域成分をカットする基準周波数（BYPASS : カットしない）

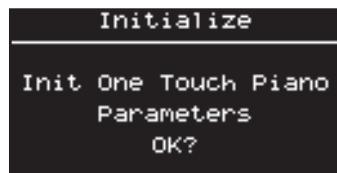
パラメーター	設定値	解説
LF Damp Freq	BYPASS、16 ~ 15000 Hz	レゾナンス音の低域成分をカットする基準周波数 (BYPASS : カットしない)
Lid	1 ~ 7	グランドピアノの大屋根の開き具合による音色変化
Level	0 ~ 127	出力音量
P-Sft Amount	0 ~ 127	うなり具合
P-Sft Level	0 ~ 127	うなり成分の音量
P-Sft LPF	16 ~ 15000 Hz, BYPASS	うなり成分の高域成分をカットするフィルターの基準周波数 (BYPASS : カットしない)
P-Sft HPF	BYPASS、16 ~ 15000 Hz	うなり成分の低域成分をカットするフィルターの基準周波数 (BYPASS : カットしない)
P-Sft to Rev	0 ~ 127	うなり成分をさらに共鳴させる量
Damper offset	0 ~ 64	ダンパーべダルを踏んでいないときの共鳴音の深さ

設定を初期状態にする

One Touch Piano の設定を、初期状態に戻します。

1. ピアノ音色の詳細設定 (P.42) の操作 3 で「5. Initialize」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

Initialize 画面が表示されます。



初期化をやめるときは [EXIT/SHIFT] ボタンを押して、EDIT MENU 画面に戻ります。

2. [ENTER] ボタンを押します。

確認の画面が表示されます。



操作を中止するときは [EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

3. もう一度 [ENTER] ボタンを押します。

[PIANO] ボタンの音色が初期化されます。

E.ピアノ音色の詳細設定

[E. PIANO] ボタン (P.26) を押したときのエレクトリック・ピアノ音色を、お好みの音色になるように詳細設定することができます。 詳細設定はバリエーションごとに保存することができます。

1. ONE TOUCH E. PIANO 画面で [DEC] [INC] で、設定するバリエーションを選びます。

2. [TONE EDIT] ボタンを押します。

音色の設定画面が表示されます。

3. カーソル [◀] [▶] ボタンで画面を切り替え、カーソル [▼] [▲] ボタンを押して設定するパラメーターにカーソルを移動します。

以下のメニューは、カーソルを移動したあと [ENTER] ボタンを押し、次の画面で保存または初期化を実行します。

1. Write

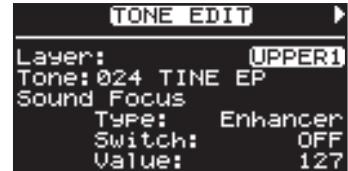
2. Initialize

4. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

パラメーターの詳細は、『音色の詳細設定をする』(P.47) をご覧ください。

5. 設定が終わったら、[EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

ONE TOUCH E. PIANO 画面に戻ります。



ご注意！

選んでいる E. ピアノ音色によっては、値を変えても効果が変わらないことがあります。

設定を保存する

One Touch E. PIANO の設定を、保存します。

1. [TONE EDIT] ボタンを押します。

音色の設定画面が表示されます。

2. カーソル [▶] ボタンで画面を最後のページに切り替えます。

3. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「1. Write」にカーソルを移動し、[ENTER] ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

保存するときは [ENTER] ボタンを、保存をやめるときは [EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

4. [ENTER] ボタンを押します。

設定が保存されます。

ご注意！

画面に「Executing...」と表示されている間は、決して電源を切らないでください。

設定を初期状態にする

One Touch E. PIANO の設定を、初期状態に戻します。

1. [TONE EDIT] ボタンを押します。

音色の設定画面が表示されます。

2. カーソル [▶] ボタンで画面を最後のページに切り替えます。

3. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「2. Initialize」にカーソルを移動し、[ENTER] ボタンを押します。

Initialize 画面が表示されます。

初期化をやめるときは [EXIT/SHIFT] ボタンを押して、EDIT MENU 画面に戻ります。

4. [ENTER] ボタンを押します。

確認の画面が表示されます。

操作を中止するときは [EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

5. もう一度 [ENTER] ボタンを押します。

[E. PIANO] ボタンの音色が初期化されます。

音色の詳細設定をする

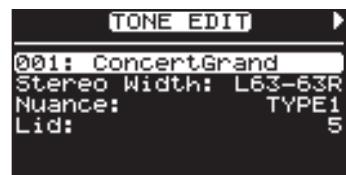
トーンの設定をする

レイヤーに割り当てられているトーンを細かく設定することができます。

選んでいるトーンによっては、変更することができないパラメーターがあります。

1. ライブ・セット画面で [TONE EDIT] ボタンを押します。

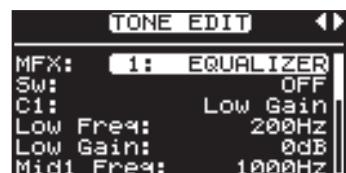
[TONE EDIT] ボタンが点灯し、TONE EDIT 画面が表示されます。



2. カーソル [◀] [▶] ボタンを押して、画面を切り替え、カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、設定するパラメーターにカーソルを移動します。

以下のメニューは、カーソルを移動した後 [ENTER] ボタンを押し、次の画面で設定するパラメーターを選びます。

Micro Tune Edit → 『チューニングを微調整する』(P.44)



3. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

4. 設定が終わったら、[TONE EDIT] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面に戻ります。

ご注意！

ピアノ音色を選んでいると、設定できない項目があります。そのような項目は設定値が「--」と表示されます。

トーン・パラメーター一覧

パラメーター	設定値	説明
Layer	UPPER1、 UPPER2、 LOWER	設定するレイヤーを選びます。
Tone	「Layer」で選んだレイヤーに割り当てられているトーンが表示されます。 LIVE SET ボタンを使ってトーンを選ぶこともできます。	
Sound Focus Type	Piano Type1	タッチの強弱により音量変化を抑えながら、ステレオ感を減らしてバンドで抜ける音にします。 この設定は SuperNATURAL Piano のみに効果がかかります。
	Piano Type2	ステレオ感を減らします。 この設定は SuperNATURAL Piano のみに効果がかかります。
	Sound Lift	タッチの強弱による音量変化を抑えます。
	Enhancer	高域の倍音成分をコントロールすることで、音ヌケをよくします。 ※ この設定は SuperNATURAL Piano には効果がかかりません。
	Mid Boost	中域を持ち上げます。 ※ この設定は SuperNATURAL Piano には効果がかかりません。
Sound Focus Switch	OFF、ON	サウンド・フォーカスをオン／オフします。[SOUND FOCUS] ボタンを押すとこの設定が切り替わります。 音色によっては意図した効果が得られない場合があります。
Sound Focus Value	0 ~ 127	効果の深さを設定します。[SOUND FOCUS] ボタンを押しながら、[INC] [DEC] ボタンを押すとこの値が変化します。 音色によっては意図した効果が得られない場合があります。
MFX	—	トーンにかけるマルチ・エフェクトを設定します。 マルチ・エフェクトは、音そのものを変化させて、まったく違う種類の音に変える汎用のエフェクトです。78種類のタイプを持ち、その中から目的にあったものを選んで使います。 ディストーション、フランジャーなどの単一のエフェクトで構成されたもの以外に、それらを直列や並列につないだものまで、さまざまなタイプが用意されています。また、マルチ・エフェクトのタイプの中にもリバーブ、コーラスがありますが、後述のリバーブ (P.66) やコーラス (P.66) とは別系統で扱います。
Coarse Tune	-48 ~ +48 (+/- 4 オクターブ)	トーンの音の高さ（ピッチ）を設定します。 音の高さを半音単位で設定します。
Fine Tune	-50 ~ +50 (+/- 50 セント)	トーンの音の高さ（ピッチ）を設定します。 音の高さを 1 セント単位で設定します。

音色の詳細設定をする

パラメーター	設定値	説明
Mono/Poly		トーンの鳴らしかたをポリフォニック (POLY) にするか、モノフォニック (MONO) にするかを設定します。 単音楽器（サックスやフルートなど）のトーンを使うときは、「MONO」にすると効果的です。 また、「MONO LEGATO」に設定すると、モノフォニックで演奏するときにレガートをかけることができます。レガートとは、音と音の間をなめらかに切れ目を感じさせないように演奏する方法です。ギターのハンマリング・オンやブリング・オフのような効果が得られます。
	MONO	1 音ずつ最後に押した鍵の音だけが鳴ります。
	POLY	複数の音が同時に鳴ります。
	MONO LEGATO	モノフォニックでレガートをかけます。
Portamento SW	ON, OFF	はじめに弾いた鍵と次に弾いた鍵との間の音程をなめらかに変化させる効果のことを「ポルタメント」といいます。Mono/Poly の値を MONO に設定したときにポルタメントをかけると、バイオリンなどのスライド奏法のような効果が得られます。
Portamento Time	0 ~ 127	ポルタメント効果をかけた音の高さが変化する時間を設定します。値が大きくなるほど、次の音の高さに移動する時間が長くなります。
Bend Range	0 ~ 24 (半音単位)	ピッチ・ベンド・レバーを動かしたときのピッチの変化量を半音単位で設定します (2 オクターブ)。
Attack Time (Offset)	-64 ~ +63	キーを押されてから、音が立ち上がるまでの時間です。 値を大きくすると立ち上がりがゆるやかに、小さくすると立ち上がりが鋭くなります。 ※ この設定を変えても、トーンによっては、思ったような効果が得られないことがあります。
Release Time (Offset)		キーを離してから、音が消えるまでの時間です。 値を大きくすると余韻の長い音になり、小さくすると歯切れの良い音になります。 ※ この設定を変えても、トーンによっては、思ったような効果が得られないことがあります。
Cutoff (Offset)		フィルターの開き具合を調節します。 値を大きくすると音が明るくなり、小さくすると暗くなります。 ※ この設定を変えても、トーンによっては、思ったような効果が得られないことがあります。
Resonance (Offset)		カットオフ周波数付近の音の成分を強調し、音にクセをつけます。設定値を上げすぎると発振して音がひずむことがあります。 値が大きくなるとクセが強くなり、小さくすると弱くなります。 ※ この設定を変えても、トーンによっては、思ったような効果が得られないことがあります。
Decay Time (Offset)		音が立ち上がってから、音量が下がっていくまでの時間です。 値を大きくすると音量が下がるまでの時間が長くなり、小さくすると短くなります。 ※ この設定を変えても、トーンによっては、思ったような効果が得られないことがあります。

ピアノ・カテゴリーの音色を選んでいるときは、以下のパラメーターを調節できます。

- Stereo Width (P.43)
- Nuance (P.43)
- Damper Noise (P.43)
- Duplex Scale (P.43)
- String Resonance (P.43)
- Key Off Resonance (P.43)
- Hammer Noise (P.43)
- Tone Character (P.43)
- Sound Lift (P.43)
- Micro Tune (P.44)

また、ピアノ・カテゴリーの音色を選んでいるときは、以下のパラメーターは表示されません。

- Attack Time
- Release Time
- Cutoff
- Resonance
- Decay Time

ご注意！

Sound Focus Type、Sound Focus Switch、Sound Focus Value、MFX、Damper Noise、Duplex Scale は UPPER1 のみに効くため、Layer で UPPER1 を選んだときだけ表示されます。

レイヤーの設定をする

RD-300NX は、内部パートを本体のボタンと鍵盤で自由にコントロールするための 3 つのパート (UPPER 1、UPPER 2、LOWER) を持っています。

内部パートをコントロールするこの 3 つのパートをレイヤー (Layer) といいます。

レイヤーは RD-300NX の鍵盤でスプリット (P.28) などの操作も簡単にでき、レイヤーごとにより細かい設定が可能です。

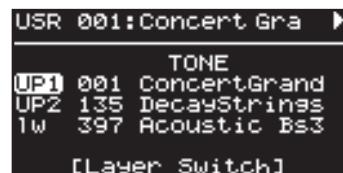
ご注意！

選んでいるトーンによっては、変更することができないパラメーターがあります。

1. [LAYER EDIT] ボタンを押します。

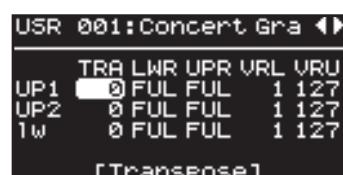
[LAYER EDIT] ボタンが点灯し、LAYER EDIT 画面が表示されます。

レイヤー・スイッチがオフのレイヤーは、小文字で表示されます。



2. カーソル [◀] [▶] ボタンを押して、画面を切り替えます。

3. カーソル [▼] [▲] [◀] [▶] ボタンを押して、設定するパラメーターにカーソルを移動します。



4. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

[DEC] ボタンと [INC] ボタンを同時に押すと、設定値は基準値になります。

5. 設定が終わったら、[LAYER EDIT] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面に戻ります。

レイヤー・パラメーター一覧

パラメーター	設定値	説明
TONE		レイヤーに割り当てられているトーンが表示されます。 ONE TOUCH ボタンと LIVE SET ボタンを使ってトーンを選ぶこともできます。
VOL (Volume)	0 ~ 127	各レイヤーの音量を設定します。 音量の設定は、主に複数のトーンを鳴らしているときに、レイヤー間の音量バランスをとるために使います。
PAN	L64 ~ 0 ~ R63	パンの設定は、ステレオ出力するときの、各レイヤーの音像の定位です。L の数字が大きくなるほど左から音が聞こえます。R の数字が大きくなるほど、右から音が聞こえます。0 にすると、中央から音が聞こえます。
REV (Reverb Amount)	0 ~ 127	リバーブ効果、コーラス効果の深さを設定します。
CHO (Chorus Amount)		この設定値が「0」になっていると、[REVERB] ボタン、または [CHORUS] ボタンを押しながら [INC] [DEC] ボタンを押しても、効果がかかりません。
TRA (Transpose)	-48 ~ 0 ~ +48	各レイヤーを、それぞれ異なる音の高さに移調（トランスポーズ）させて演奏することができます。 複数のレイヤーを鳴らしているときに、一方のトーンをオクターブ違いに設定すると、厚みのあるトーンを作ることができます。また、スプリット (P.29) にして、ローでベースのトーンを鳴らすような場合に、より低い音で鳴らすことができます。 [TRANSPOSE] ボタンで、全レイヤーに同じトランスポーズ量を設定することもできます。詳しくは、『鍵盤の音の高さを変える (TRANSPOSE)』(P.31) をご覧ください。
LWR (Key Range Lower)	A0 ~ C8	通常の演奏状態で [SPLIT] ボタンを押すと、スプリット・ポイントで鍵域が分かれ、1 つの鍵盤で 2 つのトーンを鳴らすことができます。 Key Range を使うと、さらに鍵域を細かく設定できます。
UPR (Key Range Upper)		各レイヤーの鍵域の下限と上限を設定します。鍵域の下限を上限より上げたり、上限を下限より下げることはできません。
		設定するパラメーターにカーソルを移動したら、指定する鍵を押し、[ENTER] ボタンを押して設定することもできます。 キー・レンジの設定は、[SPLIT] ボタンがオン (P.28) のときだけ有効です。 [SPLIT] ボタンがオフのときは、「FUL」と表示されます。このとき、[DEC] [INC] ボタンで「FUL」以外に値を変えると、自動的に [SPLIT] ボタンがオンになります。 スプリット・ポイント (P.29) を変更すると、キー・レンジの値も変わります。

音色の詳細設定をする

パラメーター	設定値	説明
VRL (Velocity Range Lower)	1 ~ 127	鍵盤を弾く強さによるトーンの鳴る範囲の下限 (VRL) と、上限 (VRU) を設定します。
VRU (Velocity Range Upper)	1 ~ 127	鍵盤を弾く強さでトーンを鳴らし分けたいときに設定します。 トーンによって、この設定が無効なものがあります。
Sns (Velocity Sense)	-63 ~ +63	ペロシティーに対する音量の変化のしかたを設定します。 設定値が+（プラス）のときは、鍵盤を強く弾くほど音量が大きくなり、-（マイナス）のときは、強く弾くほど小さくなります。 トーンによって、この設定が無効なものがあります。
MAX (Velocity Max)	1 ~ 127	鍵盤を弾いたときのペロシティーの最大値を設定します。 値を小さくすると、鍵盤を強く弾いても音量があまり大きくなりません。 トーンによって、この設定が無効なものがあります。
V.Reserve (Voice Reserve)	0 ~ 64	128 ボイスを超える発音数で演奏された場合に、各レイヤーが確保するボイス数を設定します。
Dp	ON, OFF	ダンパー・ペダルで、各レイヤーをコントロールするか (ON)、しないか (OFF) を設定します。
F1		FC1 端子に接続したペダルで、各レイヤーをコントロールするか (ON)、しないか (OFF) を設定します。
F2		FC2 端子に接続したペダルで、各レイヤーをコントロールするか (ON)、しないか (OFF) を設定します。
PB		ピッチ・ベンド・レバーで、各レイヤーをコントロールするか (ON)、しないか (OFF) を設定します。
Md		モジュレーション・レバーで、各レイヤーをコントロールするか (ON)、しないか (OFF) を設定します。
S1		[S1] ボタンで、各レイヤーをコントロールするか (ON)、しないか (OFF) を設定します。
S2		[S2] ボタンで、各レイヤーをコントロールするか (ON)、しないか (OFF) を設定します。

RD-300NX をマスター・キーボードにする

RD-300NX から外部 MIDI 機器をコントロールできます。

通常、RD-300NX は、ノート情報を MIDI OUT 端子から送信していますが、[MIDI] ボタンを押して点灯させると、ノート情報だけでなく、外部 MIDI 機器のさまざまな設定をコントロールすることができます。

内部音源と外部音源は独立してコントロールすることができます。

[MIDI] ボタンを押して点灯させると、RD-300NX で外部 MIDI 音源 (EXTERNAL レイヤー) をコントロールする状態になります。[MIDI] ボタンを押してレイヤーをコントロールするか、EXTERNAL レイヤーをコントロールするかを切り替えます。

また、外部音源に送信する MIDI 情報の詳細設定をすることができます。

MIDIとは

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) とは、電子楽器やパソコンの間で演奏などの情報をやりとりできる統一規格です。MIDI 端子を持つ機器同士を MIDI ケーブルで接続すると、1台の MIDI キーボードで複数の楽器を鳴らす、複数の MIDI 楽器をアンサンブルで演奏する、曲の演奏の進行に合わせて自動的に設定を変える、などができるようになります。

MIDI 端子について

RD-300NX の MIDI 端子には次の 2 種類があり、それぞれはたらきが異なります。

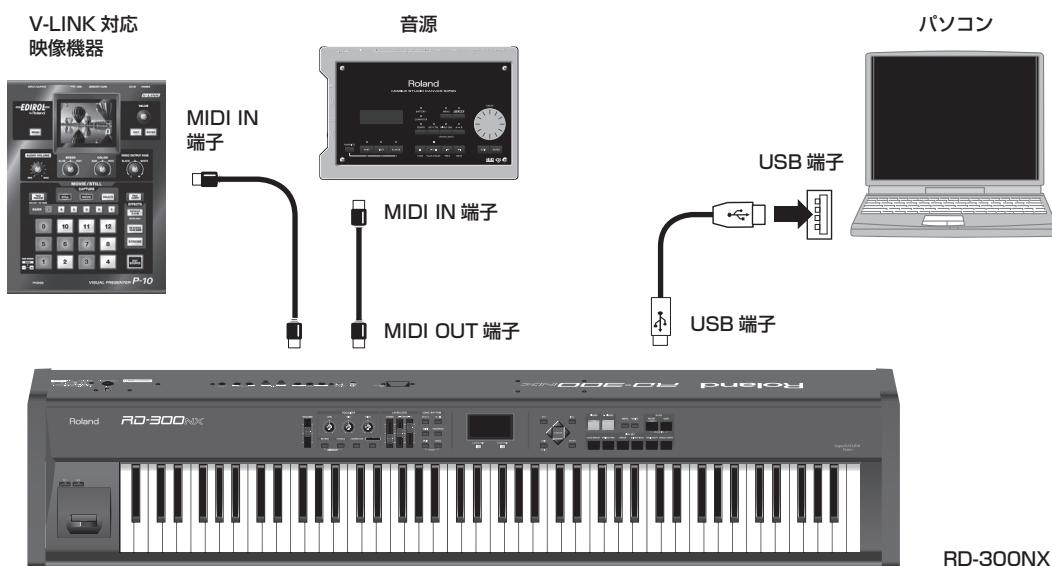


MIDI IN 端子

外部の MIDI 機器から送られてくる MIDI 情報を受信します。MIDI 情報を受信した RD-300NX は、音を出す、音色を切り替えるなどの動作をします。

MIDI OUT 端子

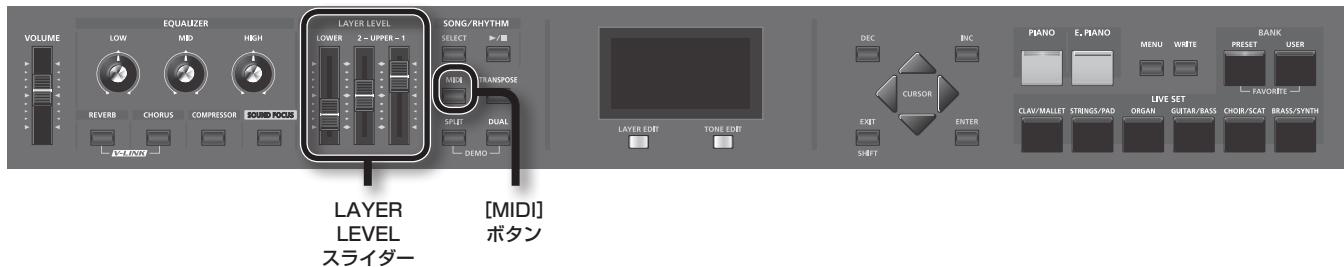
外部の MIDI 機器に対して MIDI 情報を送信します。RD-300NX では、MIDI OUT 端子からコントローラー部の演奏情報を送信するときに使います。



ご注意！

USB ケーブルは 5m 以内のものをお使いください。

レイヤーごとに音量を調節する



[MIDI] ボタンが点灯しているときは、レイヤー (P.21) と同じように LAYER LEVEL スライダーで EXTERNAL レイヤーをコントロールすることができます。

AYER LEVEL スライダー

[MIDI] ボタンが点灯しているときは、EXTERNAL レイヤーの音量を調節します。

音を鳴らすレイヤーを選ぶ（レイヤー・スイッチ）

レイヤーごとオン／オフを設定することができます（レイヤー・スイッチ）。

1. [MIDI] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

MIDI 画面が表示されます。

2. カーソル [▼] [▲] [◀] ボタンを押して、1 ページ目の一一番左のレイヤー名「UP1」「UP2」「LW」(OFF の場合は小文字) にカーソルを移動します。

選んだレイヤー名が反転表示されます。

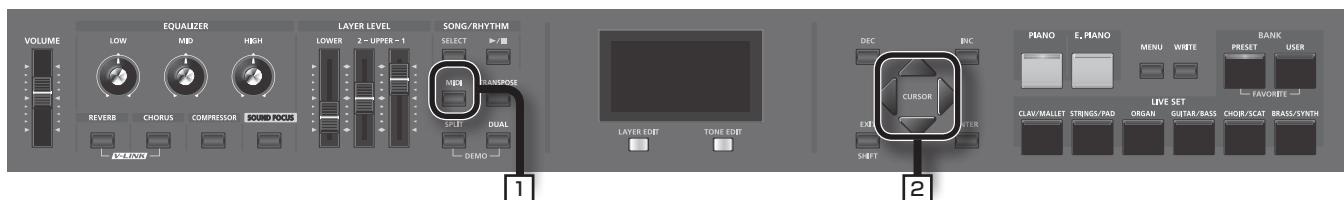
3. [INC] [DEC] ボタンでオン／オフを切り替えます。

レイヤー・スイッチがオフのレイヤーは、レイヤー名が小文字で表示されます。

出力するMIDI端子を選ぶ

RD-300NX には、MIDI 端子と USB MIDI 端子があります。

レイヤーごとに、出力する MIDI OUT 端子または USB MIDI 端子を選ぶことができます。



1. [MIDI] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

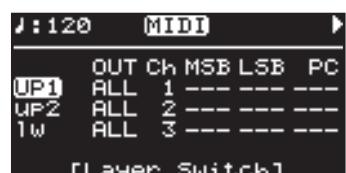
MIDI 画面が表示されます。

MIDI 画面が表示されていないときは、カーソル [◀] ボタンを数回押して、MIDI 画面を表示させます。

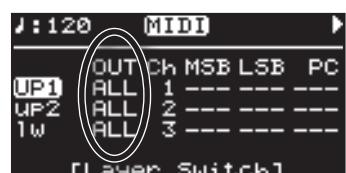
ご注意！

エディットの Utility 内、Rec Setting の設定で、Rec Mode が「ON」になっていると、図のような MIDI 画面は表示されません。MIDI 送信チャンネルを設定するときは、Rec Mode を「OFF」にしてください (P.77)。

2. カーソル [◀] [▶] [▼] [▲] ボタンでカーソルを動かし、[DEC] [INC] ボタンで各端子の MIDI 情報を出力する端子を設定します。

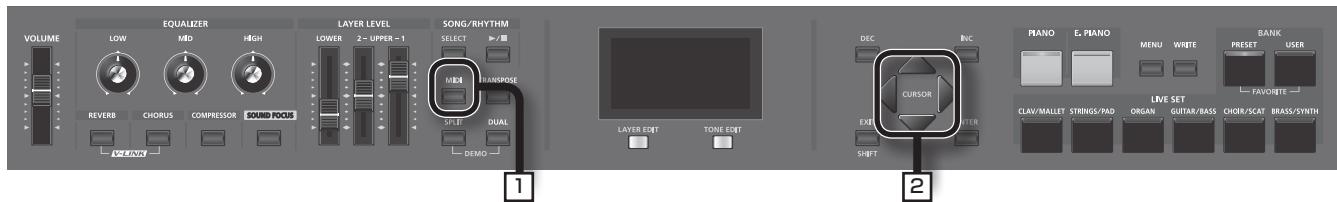


レイヤー	パラメータ名	設定値	解説
UP 1 (UPPER 1)	OUT (MIDI OUT Port)	ALL, MIDI, USB	
UP 2 (UPPER 2)			
LW (LOWER)			選んだ端子から RD-300NX の演奏情報が送信されます。



MIDI送信チャンネルを設定する

外部 MIDI 音源との接続が終わったら、鍵盤の送信チャンネルと外部 MIDI 音源の各パートの受信チャンネルを合わせます。送信側（RD-300NX）と受信側（外部 MIDI 音源）の MIDI チャンネルを同じチャンネルに合わせると音が鳴ります。



1. [MIDI] ボタンを押して、「MIDI」インジケーターを点灯させます。

MIDI 画面が表示されます。

画面に「Ch」が表示されていないときは、カーソル [◀] ボタンを数回押して、右のような画面を表示させます。

ご注意！

エディットの Utility 内、Rec Setting の設定で、Rec Mode が「ON」になっていると、上図のような MIDI 画面は表示されません。MIDI 送信チャンネルを設定するときは、Rec Mode を「OFF」にしてください (P.77)。



メモ

外部 MIDI 機器の各パートの受信チャンネルの設定のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

2. カーソル [◀] [▶] [▼] [▲] ボタンでカーソルを動かし、[DEC] [INC] ボタンで各レイヤーの送信チャンネル (Ch) を設定します。

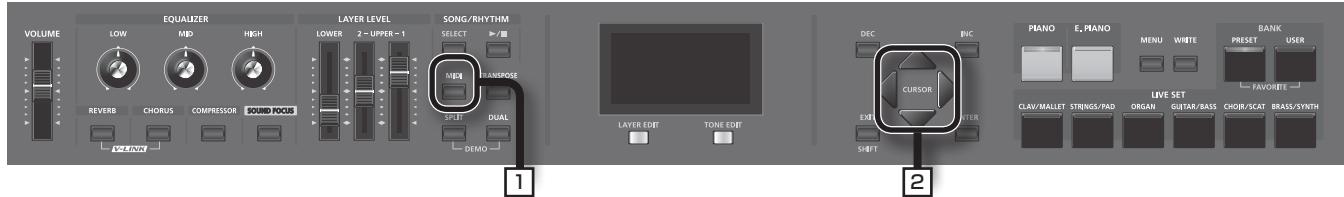
レイヤー	パラメーター名	設定値	解説
UP 1 (UPPER 1)	Ch (MIDI OUT Channel)	1 ~ 16	選んだチャンネルで RD-300NX の演奏情報が送信されます。
UP 2 (UPPER 2)			
LW (LOWER)			

メモ

- レイヤー・スイッチがオフのレイヤーは、レイヤー名が小文字で表示されます。
- レイヤー・スイッチがオフになっているレイヤーの MIDI 情報は送信されません。

外部MIDI音源の音色を切り替える

外部 MIDI 機器の音色の切り替えは、RD-300NX でプログラム・ナンバーやバンク・セレクト MSB／ LSB を数値で入力します。



- [MIDI] ボタンを押して、「MIDI」インジケーターを点灯させます。

MIDI 画面が表示されます。

画面に「MSB」が表示されていないときは、カーソル [◀] [▶] ボタンを数回押して、右のような画面を表示させます。

ご注意！

エディットの Utility 内、Rec Setting の設定で Rec Mode が「ON」になっていると、図のような MIDI 画面は表示されません。MIDI 送信チャンネルを設定するときは、Rec Mode を「OFF」にしてください (P.77)。

- カーソル [◀] [▶] [▼] [▲] ボタンでカーソルを動かし、[DEC] [INC] ボタンで各レイヤーの MSB、LSB、PC を設定します。

[DEC] [INC] ボタンを同時に押すと、設定値は「--」(オフ)になります。
「--」(オフ)にすると、プログラム・チェンジやバンク・セレクトは送信されません。



パラメーター	設定値
MSB (Bank Select MSB : CC00)	0 ~ 127、-- (オフ)
LSB (Bank Select LSB : CC32)	0 ~ 127、-- (オフ)
PC (Program Change)	1 ~ 128、-- (オフ)

ご注意！

- 外部 MIDI 音源に、音色が配置されていないプログラム・ナンバーやバンク・ナンバーを送信すると、代わりの音色が選ばれたり、場合によっては音が鳴らないこともあります。
- プログラム・チェンジやバンク・セレクトを送信したくないときは、上記の操作 2 で MSB／ LSB／ Program Change の設定を「--」(オフ)にしてください。
- 「--」に設定されているときは、ライブ・セットを切り替えて、音色切り替えの情報は送信されません。

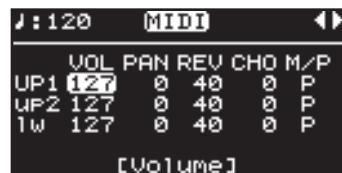
MIDI送信パートの詳細設定をする

1. [MIDI] ボタンを押して、「MIDI」インジケーターを点灯させます。

RD-300NX で外部 MIDI 機器をコントロールする設定になります。

ご注意！

エディットの Utility 内、Rec Setting の設定で、Rec Mode が「ON」になっていると、図のような MIDI 画面は表示されません。MIDI 送信チャンネルを設定するときは、Rec Mode を「OFF」にしてください (P.77)。



2. カーソル [◀] [▶] [▼] [▲] ボタンを押して、設定する項目にカーソルを移動させます。

動かしたい方向のカーソル・ボタンを押しながら、逆方向のカーソル・ボタンを押すと、カーソルを速く移動することができます。

3. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

[DEC] ボタンと [INC] ボタンを同時に押すと、設定値は「--」(オフ) または基準値になります。「--」(オフ) にすると、設定値は送信されません。

音量／パンを設定する (Volume / Pan)

各レイヤーの音量と定位（パン）を設定します。

音量の設定は、主に複数のトーンを鳴らしているときに、レイヤー間の音量バランスをとるために使います。

パンの設定は、ステレオ出力するときの、各レイヤーの音像の定位です。L の数字が大きくなるほど左から音が聞こえます。R の数字が大きくなるほど、右から音が聞こえます。0 にすると、中央から音が聞こえます。

パラメーター	TX CC#	設定値
VOL (Volume)	CC07	-- (オフ)、0 ~ 127
PAN (Pan)	CC10	L64 ~ 0 ~ R63、-- (オフ)

レイヤーごとに移調の設定をする (Transpose)

各レイヤーを、それぞれ異なる音の高さに移調（トランスポーズ）させて演奏することができます。

複数のレイヤーがオンのときに、ひとつのトーンをオクターブ違いに設定すると、厚みのあるトーンを作ることができます。また、スプリット (P.28) にして、ローでベースのトーンを鳴らすような場合に、より低い音で鳴らすことができます。

パラメーター	設定値
TRA (Transpose)	-48 ~ 0 ~ +48

リバーブ／コーラスのレベルを設定する (Reverb / Chorus)

リバーブ効果、コーラス効果の深さを設定します。

パラメーター	TX CC#	設定値
REV (Reverb)	CC91	-- (オフ)、0 ~ 127
CHO (Chorus)	CC93	-- (オフ)、0 ~ 127

レイヤーごとの鍵域を設定する (Key Range)

各レイヤーの鍵域（キー・レンジ）を設定します。

鍵域によってトーンを弾き分けるときなどに設定します。

設定する鍵域の下限 (LWR) と、上限 (UPR) を指定します。指定する鍵を押し、[ENTER] ボタンを押して設定することもできます。

パラメーター	設定値
LWR (Key Range Lower)	A0 ~ C8
UPR (Key Range Upper)	A0 ~ C8

ご注意！

- キー・レンジの設定は、[SPLIT] ボタンがオン (P.28) のときだけ有効です。
- 鍵域の下限を上限より上げたり、上限を下限より下げることはできません。

メモ

- [SPLIT] ボタンがオフのときは、「FUL」と表示されます。このとき、[DEC] [INC] ボタンで「FUL」以外に値を変えると、自動的に [SPLIT] ボタンがオンになります。
- MIDI のノート情報を送信する／しないは、レイヤー・スイッチでレイヤーごとに設定することができます (P.52)。

単音で発音させる (Mono/Poly)

トーンの鳴らしかたをポリフォニック (Poly) にするか、モノフォニック (Mono) にするかを設定します。

単音楽器（サックスやフルートなど）のトーンを使うときは、Mono にすると効果的です。

パラメーター	設定値
M/P (Mono/Poly)	-- (オフ)、M (Mono, CC126)、P (Poly, CC127)

鍵盤を弾く強さによって鳴る鍵域を変える (Velocity Range)

鍵盤を弾く強さによってトーンの鳴る範囲の下限 (LWR) と、上限 (UPR) を指定します。キーを弾く強さでトーンを鳴らし分けたいときに設定します。

パラメーター	設定値
VRL (Velocity Range Lower)	
VRU (Velocity Range Upper)	1 ~ 127

ご注意!

キーを弾く強さの下限を上限より上げたり、上限を下限より下げたりしようとすると、もう一方の設定が同じ値で変化します。

トーンの要素を変化させる (ATK / DCY / REL / COF / RES)

トーンの次の5つの要素を設定することで、トーンに変化を与えることができます。

ATK (Attack Time Offset : アタック・タイム・オフセット) : キーを押されてから、音が立ち上がるまでの時間です。

DCY (Decay Time Offset : ディケイ・タイム・オフセット) : 音が立ち上がってから、音量が下がっていくまでの時間です。

REL (Release Time Offset : リリース・タイム・オフセット) : キーを離してから、音が消えるまでの時間です。

COF (Cutoff Offset : カットオフ・オフセット) : フィルターの開き具合を調節します。

RES (Resonance Offset : レゾナンス・オフセット) : カットオフ周波数付近の音の成分を強調し、音にクセをつけます。設定値を上げすぎると発振して音がひずむことがあります。

パラメーター	TX CC#	設定値	解説
ATK	CC73		値を大きくすると立ち上がりがゆるやかに、小さくすると立ち上がりが鋭くなります。
DCY	CC75		値を大きくすると音量が下がるまでの時間が長くなり、小さくすると短くなります。
REL	CC72	-- (オフ)、-64 ~ +63	値を大きくすると余韻の長い音になり、小さくすると歯切れの良い音になります。
COF	CC74		値を大きくすると音が明るくなり、小さくすると暗くなります。
RES	CC71		値が大きくなるとクセが強くなり、小さくすると弱くなります。

音をなめらかに変化させる (Portamento)

はじめに弾いた鍵と次に弾いた鍵との間の音程をなめらかに変化させる効果のことを「ポルタメント」といいます。

ポルタメント・タイムは、ポルタメント効果をかけた音の高さが変化する時間を設定します。値が大きくなるほど、次の音の高さに移動する時間が長くなります。

パラメーター	TX CC#	設定値
POR (Portamento Switch)	CC65	--、OFF、ON
P.T (Portamento Time)	CC5	--、0 ~ 127

鍵盤を弾く強さによる音量変化を設定する (Velocity Sense/Max)

鍵盤を弾く強さ (ベロシティー) に対する音量の変化のしかたと、変化の最大値を設定します。

Sns (Velocity Sense : ベロシティー・センス) : ベロシティーに対する音量の変化のしかたを設定します。

MAX (Velocity Max : ベロシティー・マックス) : 鍵盤を弾いたときのベロシティーの最大値を設定します。

パラメーター	設定値	解説
Sns (Velocity Sense)	-63 ~ +63	設定値が+のときは、鍵盤を強く弾くほど音量が大きくなり、-のときは、鍵盤を強く弾くほど音量が小さくなります。設定値が0のときは、弾く強さに関わらず、音量は一定になります。
MAX (Velocity Max)	1 ~ 127	値を小さくすると、鍵盤を強く弾いても音量があまり大きくなりません。

音の高さを変える (Coarse Tune / Fine Tune)

トーンの音の高さ (ピッチ) を設定します。

パラメーター	RPN	解説	設定値
C.T (Coarse Tune)	00H/02H	音の高さを半音単位で設定します。	-- (オフ)、-48 ~ +48 (+/-4 オクターブ)
F.T (Fine Tune)	00H/01H	音の高さを1セント単位で設定します。	-- (オフ)、-50 ~ +50 (+/-50 セント)

メモ

1 セント = 半音の 100 分の 1

ピッチ・ベンド・レバーによるピッチ変化の幅を設定する (Bend Range)

ピッチ・ベンド・レバーを動かしたときのピッチの変化量を半音単位で設定します (4 オクターブ)。

パラメーター	RPN	設定値
B.R (Bend Range)	00H/00H	--- (オフ)、 0 ~ 48 (半音単位)

モジュレーションのかかり具合を設定する (Modulation Depth)

モジュレーション・レバーを倒したときの効果のかかりかたを設定します。

パラメーター	RPN	設定値
M.D (Modulation Depth)	00H/05H	--- (オフ)、 0 ~ 127

各コントローラーのオン／オフを設定する

各 PEDAL 端子に接続したペダル、スライダー、モジュレーション・レバー、ピッチ・ベンド・レバー、[S1] [S2] ボタンで外部 MIDI 機器をコントロールするか (ON)、しないか (OFF) を設定します。

パラメーター	解説	設定値
Dp	ダンパー・ペダル	ON, OFF
F1	FC1 端子に接続したペダル	
F2	FC2 端子に接続したペダル	
PB	ピッチ・ベンド・レバー	
Md	モジュレーション・レバー	
S1	[S1] ボタン	
S2	[S2] ボタン	

コントロール・チェンジを送信する (User CC)

2種類のコントロール・チェンジ・メッセージを指定して送信することができます。

パラメーター	設定値
CC1 (User CC1 Number)	--- (オフ)、0 ~ 127
Value (User CC1 Value)	
CC2 (User CC2 Number)	--- (オフ)、0 ~ 127
Value (User CC2 Value)	

各機能の詳細設定をする

[MENU] ボタンではさまざまな設定ができます。

パラメーターの選びかた



メモ

以下の設定は、エディットの各設定画面で [LAYER EDIT] (WRITE) ボタンを押すと RD-300NX に共通の設定として記憶されます。

- 0. System
- 4. Compressor
- 7. V-LINK

ただし、以下の設定は記憶されません。

- V-LINK のオン／オフの状態

設定できる項目

メニュー	パラメーター	ページ
0. System	Master Tune	P.60
	Master Volume	P.60
	Pedal Mode	P.60
	Tone Remain	P.60
	S1/S2 Mode	P.60
	LIVE SET Control Channel	P.61
	USB Driver	P.61
	USB Memory Mode	P.61
	Damper Polarity	P.61
	FC1 Polarity	P.61
	FC2 Polarity	P.61
	Part Mode	P.62
	Temperament	P.62
	Temperament Key	P.62
1. Key Touch	Rx. GM/GM2 System ON	P.62
	Rx. GS Reset	P.62
	Clock Out	P.62
	Key Touch	P.63
	Key Touch Offset	P.63
	Velocity	P.63
	Velocity Delay Sensitivity	P.64
	Velocity Keyfollow Sensitivity	P.64
	Key Off Position	P.64
	FC1 Pedal Assign	P.65
2. Control	FC2 Pedal Assign	P.65
	S1 Assign	P.65
	S2 Assign	P.65
	Reverb Type	P.66
3. Effects	Reverb Parameters	P.66
	Chorus Type	P.66
	Chorus Parameters	P.66

メニュー	パラメーター	ページ
4. Compressor	Type	P.67
	Split Frequency L	P.67
	Split Frequency H	P.67
	Depth	P.67
	Level	P.67
	Attack Time	P.67
	Release Time	P.67
	Threshold	P.67
5. File	Ratio	P.67
	LIVE SET Save	P.68
	LIVE SET Load	P.69
	LIVE SET Delete	P.69
	LIVE SET Copy	P.70
	SONG Delete	P.71
	SONG Copy	P.71
	Format	P.72
6. Rhythm	Tempo	P.73
	Rhythm Volume	P.73
	Rhythm Pattern	P.73
	Rhythm Set	P.73
	MIDI Out Port	P.73
	MIDI Out Channel	P.73
7. V-LINK	V-LINK Mode	P.74
	V-LINK Tx. Channel	P.74
	V-LINK Out Port	P.74
	Key Range	P.74
	Lowest No.	P.74
	Local ON/OFF	P.74
8. Utility	Song Function	P.75
	Rec Setting	P.77
	Factory Reset Current	P.76
	Factory Reset All	P.76

システムの設定

RD-300NX 全体の動作環境に関する機能をシステム機能といいます。

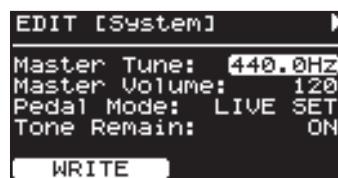
1. [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



2. カーソル [▲] ボタンを押して、「0. System」を選びます。

3. [ENTER] ボタンを押して、EDIT 画面を表示します。



4. カーソル [◀] [▶] ボタンで画面を切り替え、カーソル [▼] [▲] ボタンを押して設定するパラメーターにカーソルを移動します。

5. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

[DEC] ボタンと [INC] ボタンを同時に押すと、設定値は基準値になります。

6. 設定が終わったら、[MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

メモ

設定を保存したいときは、[LAYER EDIT] (WRITE) ボタンを押します。保存された設定は、電源を切っても失われません。

他の楽器と音の高さを合わせる (Master Tune)

他の楽器と一緒に演奏するときには、きれいな演奏にするために基準となる音の高さを合わせておきます。一般には、中央の A（中央のラ）の音の高さが何ヘルツ (Hz) かを基準にして、他の楽器と音の高さを合わせます。

パラメーター	設定値
Master Tune	415.3 ~ 440.0 ~ 466.2

全体の音量を設定する (Master Volume)

RD-300NX 全体の音量を設定します。

パラメーター	設定値
Master Volume	0 ~ 127

ペダルの設定が切り替わらないようにする (Pedal Mode)

ペダルの設定 (P.65) は、ライブ・セット (P.40) ごとに記憶することができます。

ライブ・セットを切り替えたときに、ペダルの設定をライブ・セットに記憶されている値に変えるか、変えないかを設定します。

パラメーター	設定値	解説
Pedal Mode	LIVE SET	ライブ・セットを切り替えると、ペダルの設定も変わります。
	SYSTEM	ライブ・セットを切り替えても、ペダルの設定は変わりません。

Pedal Mode が「SYSTEM」のときのペダルの機能を割り当てる

Pedal Mode の設定を「SYSTEM」にすると、画面の右下に「Pedal Setting」と表示されます。ここで [TONE EDIT] (Pedal Setting) ボタンを押すと、ペダルに割り当てる機能の設定画面が表示されます。

パラメーター	設定値	機能／変化する設定項目
FC1 FC2	00: OFF	コントロールしません。
	CC00 ~ CC127	コントローラー・ナンバー 0 ~ 127
	129: BEND UP	ピッチ・ベンド・レバーを右に倒したときと同様にピッチが上がります。
	130: BEND DOWN	ピッチ・ベンド・レバーを左に倒したときと同様にピッチが下がります。
	131: AFTERTOUCH	アフタータッチをコントロールします。
	132: OCTAVE UP	ペダルを踏むごとに、鍵域がオクターブ単位で上がります (最大 4 オクターブ)。

パラメーター	設定値	機能／変化する設定項目
FC1	133: OCTAVE DOWN	ペダルを踏むごとに、鍵域がオクターブ単位で下がります (最大 4 オクターブ)。
FC2	134: START/STOP	外部シーケンサーをスタート／ストップします。
	135: TAP TEMPO	ペダルを踏む間隔でテンポを設定します。
	136: RHY PLY/STP	リズム (P.36) をスタート／ストップします。
	137: SONG PLY/STP	曲 (P.37) をスタート／ストップします。
	138: SONG RESET	曲の先頭に戻ります。
	139: MFX SW	マルチ・エフェクト (P.39) をオン／オフします。
	140: MFX CTRL	マルチ・エフェクトのかかり具合 (P.39) を調節します。
	141: ROTARY SPEED	ロータリー効果を使用している場合にロータリー効果の速い／遅いを切り替えます。
	142: SOUND FOCUS	サウンド・フォーカスの効果の深さを調整します。
	143: LIVE SET UP	ライブ・セットを昇順に切り替えます。
	144: LIVE SET DOWN	ライブ・セットを降順に切り替えます。

トーンを変えても発音中の音を残す (Tone Remain)

他のトーンを選んだときに、発音中の音を残すか (ON)、残さないか (OFF) を設定します。

パラメーター	設定値
Tone Remain	OFF, ON

ご注意！

- エフェクトの設定は、Tone Remain の設定に関わらず、トーンの切り替えと同時に切り替わります。したがって、Tone Remain を ON に設定していても、エフェクトの設定によっては発音中の音が残らない場合があります。

[S1] [S2] ボタンの設定が切り替わらないようにする (S1/S2 Mode)

[S1] ボタンと [S2] ボタンの設定は、ライブ・セット (P.40) ごとに記憶することができます。

ライブ・セットを切り替えたときに、[S1] ボタンと [S2] ボタンの設定をライブ・セットに記憶されている値に変えるか、変えないかを設定します。

パラメーター	設定値	解説
S1/S2 Mode	LIVE SET	ライブ・セットを切り替えると、[S1] ボタンと [S2] ボタンの設定も変わります。
	SYSTEM	ライブ・セットを切り替えても、[S1] ボタンと [S2] ボタンの設定は変わりません。

S1/S2 Mode が「SYSTEM」のときの [S1] [S2] ボタンの機能を割り当てる

S1/S2 Mode の設定を「SYSTEM」にすると、画面の右下に「S1/S2 Setting」と表示されます。ここで[TONE EDIT] (S1/S2 Setting) ボタンを押すと、[S1] ボタンと [S2] ボタンに割り当てる機能の設定画面が表示されます。

パラメーター	設定値	機能／変化する設定項目
00: OFF		コントロールしません。
01: COUPLE +1OCT		鍵を弾くと 1 オクターブ上の音も一緒に鳴ります。
02: COUPLE -1OCT		鍵を弾くと 1 オクターブ下の音も一緒に鳴ります。
03: COUPLE +2OCT		鍵を弾くと 2 オクターブ上の音も一緒に鳴ります。
04: COUPLE -2OCT		鍵を弾くと 2 オクターブ下の音も一緒に鳴ります。
05: COUPLE +5TH		鍵を弾くと 5 度（7 半音）上の音も一緒に鳴ります。
06: COUPLE -4TH		鍵を弾くと 4 度（5 半音）下の音も一緒に鳴ります。
07: OCTAVE UP		ボタンを押すたびに、鍵域がオクターブ単位で上がります（最大 4 オクターブ）。
08: OCTAVE DOWN		ボタンを押すたびに、鍵域がオクターブ単位で下がります（最大 4 オクターブ）。
09: START/STOP		外部シーケンサーをスタート／ストップします。
10: TAP TEMPO		ボタンを押す間隔でテンポを設定します。
11: SONG PLY/STP		曲(P.37)をスタート／ストップします。
12: SONG RESET		曲の先頭に戻ります。
13: SONG BWD		曲を巻き戻します。
14: SONG FWD		曲を早送りします。
15: MFX SW		マルチ・エフェクト(P.39)をオン／オフします。
16: ROTARY SPEED		ロータリー効果を使用している場合にロータリー効果の速い／遅いを切り替えます。
17: LIVE SET UP		ライブ・セットを昇順に切り替えます。
18: LIVE SET DOWN		ライブ・セットを降順に切り替えます。
19: PANEL LOCK		パネル・ロック(P.35)をオン／オフします。

S1/S2

プログラム・チェンジ情報でライブ・セットを切り替える (LIVE SET Ctrl Ch)

外部 MIDI 機器の MIDI メッセージで RD-300NX のライブ・セットを切り替えることができます。

パラメーター	設定値	解説
LIVE SET Ctrl Ch (LIVE SET Control Channel)	1 ~ 16	外部 MIDI 機器から MIDI メッセージ（パンク・セレクトとプログラム・チェンジ）を受信して、ライブ・セットを切り替えるときの MIDI 受信チャネルを設定します。
	OFF	外部 MIDI 機器からライブ・セットを切り替えないときは OFF に設定します。

ご注意！

LIVE SET Control Channel の設定が、パートの MIDI 受信チャンネルと重なったときは、音色替えよりもライブ・セットの切り替えが優先されます。

MIDI に関する資料は、ローランドのホームページからダウンロードすることができます。

ローランドのホームページ
<http://www.roland.co.jp/>

「サポート」からたどることができます。

USB ドライバ (USB Driver)

→ 『USB ドライバの設定をする』(P.81)

USB メモリー・モード (USB Memory Mode)

→ 『USB メモリーの設定を切り替える』(P.81)

ペダルの極性を切り替える (Damper / FC1 / FC2 Polarity)

RD-300NX に接続しているペダルの極性を切り替えます。

リア・パネルの PEDAL 端子 (FC1、FC2、DAMPER) ごとに設定します。

ペダルによっては、ペダルを踏んだときと離しているときの動作が逆になるものがあります。動作が逆になるペダルを使うときは REVERSE に設定してください。

ローランドのペダル（ポラリティー・スイッチが付いていない）を使うときは STANDARD にします。

パラメーター	設定値
Damper Polarity	
FC1 Polarity	STND (STANDARD)、REV (REVERSE)
FC2 Polarity	

パート数を選ぶ (Part Mode)

RD-300NX のパート数を選びます。

パラメーター	設定値	解説
Part Mode	16PART	<p>自分で演奏する鍵盤パートは曲データと同じパートを使うことができるため、曲データにプログラム・エンジやパンク・セレクトを設定して、自動で鍵盤パートの音色を切り替えることができます。</p> <p>各レイヤーの MIDI 受信チャンネルは以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> UPPER1 : Ch.1 UPPER2 : Ch.2 LOWER : Ch.3
	16PART+PERF (Performance)	鍵盤の演奏は MIDI IN 端子から受信する MIDI 情報や曲データの影響を受けません。曲データを RD-300NX で鳴らしながら、鍵盤で演奏したいときなどに便利です。

調律法を設定する (Temperament / Key)

調律法と主音を設定します。

現在では、一般に平均律を前提に作曲され、演奏されるのがあたりまえとなっていますが、古典音楽の時代にはいろいろな調律法が存在していました。当時の調律法で演奏してみると、その曲が本来持っている和音の響きをあじわうことができます。

また、平均律以外の調律法で演奏するときは、演奏する曲の調に合わせて主音（長調ならド、短調ならラに当たる音）を指定する必要があります。

平均律を選んでいる場合は、主音を選ぶ必要はありません。

パラメーター	設定値	解説
Temperament	EQUAL	平均律 オクターブを均等に 12 分割してできた調律です。どの音程も同じくらいわずかな濁りが生じます。
	JUST MAJ	純正調 [長] 5 度と 3 度の濁りをなくした調律です。メロディーの演奏には不向きで転調はできませんが、美しい和音の響きをもちます。
	JUST MIN	純正調 [短] 純正調は長調と短調で調律が異なります。長調のときと同じ効果を短調で得ることができます。
	PYTHAGORE (Pythagorean)	ピタゴラス音律 哲学者ピタゴラスによって考えられた 4 度と 5 度の濁りをなくした調律です。3 度の和音に濁りが生じますが、メロディーはきれいに聴こえます。
	KIRNBERGE (Kirnberger)	キルンベルガー 中全音律と純正調を改良し、転調の自由度を高めた調律法です。すべての調での演奏ができます（第三法）。
	MEANTONE	中全音律 純正調を一部妥協させて、転調を可能にした音律です。

パラメーター	設定値	解説
Temperament	WERCKMEIS (Werckmeister)	ベルクマイスター 中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた調律です。すべての調での演奏ができます（第一技法 第三番）。
	ARABIC	アラビア音階 アラビア音楽に適した調律です。
Temperament Key	C, C#, D, Eb, E, F, F#, G, G#, A, Bb, B	主音を設定します。

GM/GM2 システム・オン、GS リセットの受信を切り替える (Rx GM / GM2 Sys On, Rx GS Reset)

外部 MIDI 機器から GM システム・オンと GM2 システム・オン、GS リセットの MIDI 情報を受信するか(ON)、受信しないか(OFF)を設定します。

パラメーター	設定値
Rx.GM/GM2 Sys On	ON, OFF

同期情報を送る (Clock Out)

外部機器と同期するための MIDI 情報を、MIDI OUT 端子から送信するかどうかを決めます。

パラメーター	設定値
Clock Out	ON, OFF

鍵盤タッチの設定

鍵盤のタッチ感を細かく設定することができます。

- [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「1.Key Touch」を選びます。
- [ENTER] ボタンを押して、EDIT 画面を表示します。



- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、設定するパラメーターにカーソルを移動します。
- [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

[DEC] ボタンと [INC] ボタンを同時に押すと、設定値は基準値になります。

- 設定が終わったら、[MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

鍵盤のタッチ感を変える (Key Touch)

鍵盤を弾くタッチ感を調節します。

パラメーター	設定値	解説
Key Touch	SPR LIGHT	LIGHT よりもさらに軽い設定です。
	LIGHT	鍵盤のタッチ感を軽めの設定にします。MEDIUM より弱いタッチでフルティッシュモ (ff) が出来るので、鍵盤が軽くなつたように感じられます。力の弱いかたでも、演奏しやすい設定です。
	MEDIUM	鍵盤のタッチ感を標準設定にします。最も自然なタッチで弾けます。アコースティック・ピアノに一番近いタッチです。
	HEAVY	鍵盤のタッチ感を重めの設定にします。MEDIUM より強いタッチで弾かないフルティッシュモ (ff) が出来なくなるので、鍵盤が重くなったように感じられます。ダイナミックに弾くとき、さらに感情がこめられます。
	SPR HEAVY	HEAVY よりさらに重い設定です。

メモ

この設定は、次項目の Key Touch Offset の値によって、自動的に切り替わります。

鍵盤のタッチ感を微調整する (Key Touch Offset)

鍵盤のタッチ感を Key Touch の設定よりさらに細かく調節します。

Key Touch の設定値間をさらに細かく設定することができます。

パラメーター	設定値	解説
Key Touch Offset	-10 ~ +9	値が大きいほどタッチ感が重くなります。

メモ

この設定値が上限または下限を超えると、その値に合わせて Key Touch の 5 段階の値も自動的に切り替わります。

弾く強さによる音量を一定にする (Velocity)

鍵盤を弾く強さ（ベロシティー）に関わらず、一定の音量で鳴るように設定します。

パラメーター	設定値	解説
Velocity	REAL	鍵盤を弾く強さによって音量や音の鳴りかたが変化します。
	1 ~ 127	鍵盤を弾く強さに関わらず、音量や音の鳴りかたが設定した値で一定になります。

弾く強さによって発音のタイミングを変える (Velo Delay Sens)

鍵盤を押した瞬間から発音するまでの時間を設定します。

パラメーター	設定値	解説
Velo Delay Sens (Velocity Delay Sensitivity)	-63 ~ +63	値がマイナスのときは、強く弾いたときの発音のタイミングが遅くなります。値がプラスのときは、弱く弾いたときの発音のタイミングが遅くなります。

鍵域によるタッチ感を変える (Velo Keyflw Sens)

鍵域による鍵盤のタッチ感を設定します。

パラメーター	設定値	解説
Velo Keyflw Sens (Velocity Keyfollow Sensitivity)	-63 ~ +63	値が大きいほど、鍵域の高い鍵はより重く、鍵域の低い鍵はより軽い設定になります。

ノート・オフする鍵盤の深さを設定する (Key Off Position)

パラメーター	設定値	解説
Key Off Position	STND (STANDARD)	通常のピアノの深さでノート・オフします。
	DEEP	深い位置でノート・オフします。エレクトリック・ピアノなどの音色に適しています。

ペダル／[S1] [S2] ボタンの設定

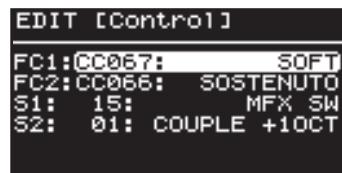
ペダルや [S1] [S2] ボタンに割り当てられている機能を変更することができます。

1. [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「2.Control」を選びます。
3. [ENTER] ボタンを押して、EDIT 画面を表示します。



4. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、設定するパラメーターにカーソルを移動します。
5. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。
6. 設定が終わったら、[MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯せます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

ペダルに機能を割り当てる (FC1 / FC2 Pedal Assign)

リア・パネルの FC1 / FC2 端子に接続したペダル・スイッチ（別売：DP シリーズ）やエクスプレッション・ペダル（別売：EV-5、EV-7）のはたらきを設定します。

パラメーター	設定値	機能／変化する設定項目
FC1 FC2	00: OFF	コントロールしません。
	CC00 ~ CC127	コントローラー・ナンバー 0 ~ 127
	129: BEND UP	ピッチ・ベンド・レバーを右に倒したときと同様にピッチが上がります。
	130: BEND DOWN	ピッチ・ベンド・レバーを左に倒したときと同様にピッチが下がります。
	131: AFTERTOUCH	アフタータッチをコントロールします。
	132: OCTAVE UP	ペダルを踏むごとに、鍵域がオクターブ単位で上がります（最大 4 オクターブ）。
	133: OCTAVE DOWN	ペダルを踏むごとに、鍵域がオクターブ単位で下がります（最大 4 オクターブ）。
	134: START/STOP	外部シーケンサーをスタート／ストップします。
	135: TAP TEMPO	ペダルを踏む間隔でテンポを設定します。
	136: RHY PLY/STP	リズム（P.36）をスタート／ストップします。
	137: SONG PLY/STP	曲（P.37）をスタート／ストップします。
	138: SONG RESET	曲の先頭に戻ります。
	139: MFX SW	マルチ・エフェクト（P.39）をオン／オフします。
	140: MFX CTRL	マルチ・エフェクトのかかり具合（P.39）を調節します。
	141: ROTARY SPEED	ロータリー効果を使用している場合にロータリー効果の速い／遅いを切り替えます。
	142: SOUND FOCUS	サウンド・フォーカスの効果の深さを調整します。

[S1] [S2] ボタンに機能を割り当てる (S1/S2 Assign)

[S1] ボタンや [S2] ボタンのはたらきを設定します。

パラメーター	設定値	機能／変化する設定項目
S1/S2	00: OFF	コントロールしません。
	01: COUPLE +1OCT	鍵を弾くと 1 オクターブ上の音も一緒に鳴ります。
	02: COUPLE -1OCT	鍵を弾くと 1 オクターブ下の音も一緒に鳴ります。
	03: COUPLE +2OCT	鍵を弾くと 2 オクターブ上の音も一緒に鳴ります。
	04: COUPLE -2OCT	鍵を弾くと 2 オクターブ下の音も一緒に鳴ります。
	05: COUPLE +5TH	鍵を弾くと 5 度（7 半音）上の音も一緒に鳴ります。
	06: COUPLE -4TH	鍵を弾くと 4 度（5 半音）下の音も一緒に鳴ります。
	07: OCTAVE UP	ボタンを押すたびに、鍵域がオクターブ単位で上がります（最大 4 オクターブ）。
	08: OCTAVE DOWN	ボタンを押すたびに、鍵域がオクターブ単位で下がります（最大 4 オクターブ）。
	09: START/STOP	外部シーケンサーをスタート／ストップします。
	10: TAP TEMPO	ボタンを押す間隔でテンポを設定します。
	11: SONG PLY/STP	曲（P.37）をスタート／ストップします。
	12: SONG RESET	曲の先頭に戻ります。
	13: SONG BWD	曲を巻き戻します。
	14: SONG FWD	曲を早送りします。
	15: MFX SW	マルチ・エフェクト（P.39）をオン／オフします。
	16: ROTARY SPEED	ロータリー効果を使用している場合にロータリー効果の速い／遅いを切り替えます。

リバーブ／コーラスの設定

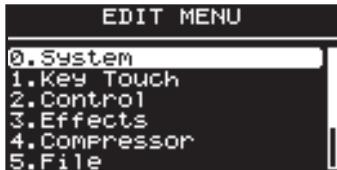
リバーブ、コーラスの設定をすることができます。

ご注意！

設定値を急激に変化させると、音がひずんだり、音が大きくなりすぎることがあります。音量に注意しながら設定してください。

1. [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

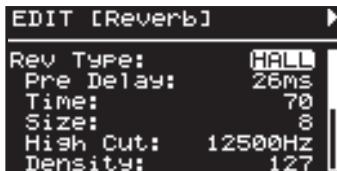
EDIT MENU 画面が表示されます。



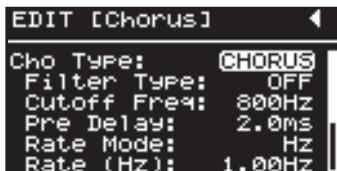
2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「3.Effects」を選びます。

3. [ENTER] ボタンを押して、EDIT 画面を表示します。

「Reverb」の設定画面



「Chorus」の設定画面



4. カーソル [◀] [▶] ボタンで画面を切り替え、カーソル [▼] [▲] ボタンを押して設定するパラメーターにカーソルを移動します。

5. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

6. 設定が終わったら、[MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

リバーブの設定をする

リバーブはホールで音を鳴らしているような響きを与えるエフェクトです。6種類のタイプを持ち、その中から目的のものを選んで使用します。

トーンごとにリバーブのかかり具合を設定することができます (P.49)。

Reverb Type

リバーブの種類を選びます。

リバーブ・タイプを変更すると、リバーブの設定項目が、自動的に最適な値に変更されます。リバーブの設定項目をひとつひとつ設定するより、リバーブ・タイプを先に設定し、その後必要な設定項目だけを変更する方が、設定が簡単にできます。

パラメーター	設定値	解説
Rev Type (Reverb Type)	OFF	リバーブを使いません。
	REVERB	基本的なリバーブです。
	ROOM	室内での残響を再現したりバーブです。きれの良い、広がりのある残響が得られます。
	HALL	ホールでの残響を再現したりバーブです。ROOMより奥行き感のある響きが得られます。
	PLATE	プレート・エコー（金属板の振動を利用したリバーブ）を再現しています。
	GM2 REVERB	GM2 のリバーブです。
	CATHEDRAL	教会での残響を再現したりバーブです。

リバーブの他の設定

リバーブをさらに細かく設定することができます。

Reverb Type を選ぶと、それに合わせて個別に設定項目が表示されます。

コーラス／ディレイの設定をする

コーラスは音に厚みや広がりを与えるエフェクトです。

コーラスとして使うか、ディレイとして使うか選ぶことができます。

トーンごとにコーラスのかかり具合を設定することができます (P.49)。

Chorus Type

コーラスの種類を選びます。

コーラス・タイプを変更すると、コーラスの設定項目が自動的に最適な値に変更されます。コーラスの設定項目をひとつひとつ設定するより、コーラス・タイプを先に設定し、その後必要な設定項目だけを変更する方が、設定が簡単にできます。

パラメーター	設定値	解説
Cho Type (Chorus Type)	OFF	コーラスを使いません。
	CHORUS	基本的なコーラスです。
	DELAY	基本的なディレイです。
	GM2 CHORUS	GM2 のコーラスです。

コーラスの他の設定

コーラス／ディレイをさらに細かく設定することができます。

Chorus Type を選ぶと、それに合わせて個別に設定項目が表示されます。

コンプレッサーの設定

最終出力にかけるステレオ・コンプレッサー（リミッター）です。高域／中域／低域ごとに独立して、指定した音量レベルよりも大きな音を圧縮し、音量のばらつきを抑えます。

- [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「4.Compressor」を選びます。
- [ENTER] ボタンを押して、EDIT 画面を表示します。



- カーソル [▲] ボタンを押して「Type」を選びます。
 - [DEC] [INC] ボタンでコンプレッサーの種類を設定します。
 - カーソル [◀] [▶] ボタンで画面を切り替え、カーソル [▼] [▲] ボタンを押して設定するパラメーターにカーソルを移動します。
- パラメーターによっては、[TONE EDIT] (L → M → H) ボタンを押して、低域／中域／高域を選びます。
- [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。
 - [LAYER EDIT] (WRITE) ボタンを押します。

確認のメッセージが表示されます。

- [ENTER] ボタンを押します。
- 設定が終わったら、[MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

コンプレッサーの種類を選ぶ (Type)

この設定値を変更すると、コンプレッサーのほかの設定項目が自動的に最適な値に変更されます。

コンプレッサー・タイプを先に設定し、その後必要な設定項目だけを変更すると、設定が楽にできます。

パラメーター	設定値	解説
Type (Compressor Type)	HARD COMP	強めのコンプレッサーをかけます。
	SOFT COMP	弱めのコンプレッサーをかけます
	LOW BOOST	低域を増強します。
	MID BOOST	中域を増強します。
	HI BOOST	高域を増強します。
	USER	保存した設定が書き込まれます。

コンプレッサーの詳細を設定する

パラメーター	設定値	解説
Split Freq L	40, 50, 63, 80, 100, 125, 160, 200, 250, 315, 400, 500, 630, 800 [Hz]	低域 (LOW) と中域 (MID) の帯域分割周波数
Split Freq H	400, 500, 630, 800, 1000, 1250, 1600, 2000, 2500, 3150, 4000, 5000, 6300, 8000 [Hz]	高域 (HIGH) と中域 (MID) の帯域分割周波数
Depth	ORIGINAL, +1 ~ +127	ORIGINAL にすると設定どおりの効果になります。値を大きくすると、より深く効果がかかります。
Level	0 ~ 24dB (1dB ステップ)	出力音量
Attack Time	0 ~ 100ms	Threshold を超える入力があったときに、音量を圧縮するまでの時間
Release Time	50 ~ 5000ms	圧縮がかかっている状態から、入力が Threshold より小さくなったときに、圧縮をやめるまでの時間
Threshold	-36dB ~ 0dB (1dB ステップ)	圧縮をはじめる音量レベル
Ratio	1:1.0, 1:1.1, 1:1.2, 1:1.4, 1:1.6, 1:1.8, 1:2.0, 1:2.5, 1:3.2, 1:4.0, 1:5.6, 1:8.0, 1:16, 1:INF	圧縮比

ファイルの管理

ライブ・セット・ファイルを保存する (LIVE SET Save)

RD-300NX に登録された 60 個のライブ・セットをまとめて 1 つのファイルにしたもの、「ライブ・セット・ファイル」といいます。

このライブ・セット・ファイルを、本体内蔵のメモリーや USB MEMORY 端子に接続した USB メモリー（別売）に保存します。

メモ

変更したシステム・パラメーター(P.69)の値も保存したいときは、[LAYER EDIT] (WRITE) ボタンを押して保存してからライブ・セット・ファイルを保存してください。

1. [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「5.File」を選び [ENTER] ボタンを押します。

EDIT 画面が表示されます。



3. カーソル [▲] ボタンを押して「0. LIVE SET Save」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。



4. [LAYER EDIT] (MEDIA) ボタンを押して、ライブ・セット・ファイルの保存先を選びます。

設定値	解説
INT	RD-300NX 内蔵のメモリーに保存します。
USB	リア・パネルの USB MEMORY 端子に接続した USB メモリーに保存します。

5. カーソル [◀] [▶] ボタンで文字を入力したい位置にカーソルを動かします。



6. [DEC] [INC] ボタンで、名前を入力します。

名前は 16 文字以内で入力することができます。

選べる文字は以下の通りです。

スペース、! # \$ % & ' () + , - . 0 ~ 9 ; = @ A ~ Z [] ^ _ ` a ~ z { } ^

また、[TONE EDIT] (DELETE) ボタンを押すと 1 文字削除され、[SHIFT] ボタンを押しながら [TONE EDIT] (INSERT) ボタンを押すと 1 文字空白が入ります。

ご注意！

「.(ドット)」から始まるライブ・セット・ファイルは保存できません。名前の頭に「.(ドット)」を使わないでください。

7. 操作 5 から 6 を繰り返して、名前を入力します。

8. ファイル名の入力が終わったら、[ENTER] ボタンを押します。

ライブ・セット・ファイルが保存されます。

ご注意！

保存している間は「Executing...」と表示されます。決して電源を切らないでください。

メモ

すでに同じ名前のファイルが保存されているときは、「Overwrite OK?」と確認のメッセージが表示されます。ライブ・セット・ファイルを上書きするときは [ENTER] ボタンを、違うファイル名で保存し直すときは [EXIT/SHIFT] ボタンを押してください。

9. [MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

ライブ・セット・ファイルを呼び出す (LIVE SET Load)

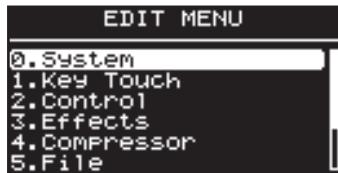
保存したライブ・セット・ファイルを呼び出します。

ご注意！

ライブ・セット・ファイルを呼び出すと、現在のライブ・セットは消えてしまいます。
残しておきたい設定は、あらかじめメモリーに保存してください（P.68）。

- [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



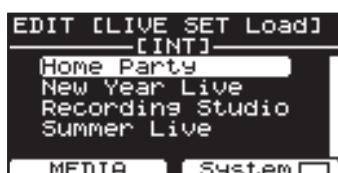
- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「5.File」を選び [ENTER] ボタンを押します。

EDIT 画面が表示されます。



- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「1. LIVE SET Load」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。



- [LAYER EDIT] (MEDIA) ボタンを押して、呼び出し先のメモリーを選びます。
- システムパラメーターの設定も読み込むときは、[TONE EDIT] (System) ボタンを押してチェック・ボックスにチェックします。

メモ

システムパラメーターとは

- エディットの「1. System」の設定 (P.59)
- エディットの「7. V-LINK」の設定 (P.74)
- フェイバリット・ライブ・セットの設定 (P.40)
- ワンタッチ・ピアノ、ワンタッチ・E.ピアノの設定 (P.42, P.45)
- Pedal Mode を SYSTEM にしているときのペダルの設定 (P.60)
- コンプレッサーの設定 (P.67)

- カーソル [▼] [▲] ボタンで呼び出したいファイルを選び、[ENTER] ボタンを押します。

確認のメッセージが表示されます。



ファイルの呼び出しをやめるときは、[EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

- もう一度 [ENTER] ボタンを押して、ファイルを呼び出します。

ライブ・セット・ファイルが RD-300NX に読み込まれます。

ご注意！

ファイルの呼び出し中は、決して電源を切らないでください。

メモ

RD-300NX では表示できない文字が使われているファイルを読み込むと、「?」と表示されます。

- [MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

ライブ・セット・ファイルを削除する (LIVE SET Delete)

保存されたライブ・セット・ファイルを削除します。

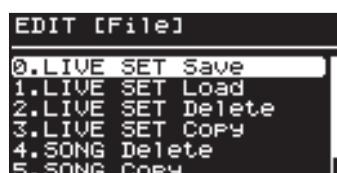
- [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



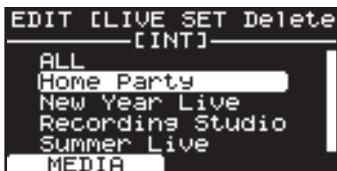
- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「5.File」を選び [ENTER] ボタンを押します。

EDIT 画面が表示されます。



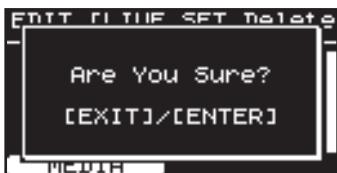
3. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「2. LIVE SET Delete」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。



4. [LAYER EDIT] (MEDIA) ボタンを押して、ライブ・セット・ファイルを削除するメモリーを選びます。
5. カーソル [▼] [▲] ボタンで削除したいライブ・セット・ファイルを選び、[ENTER] ボタンを押します。

確認のメッセージが表示されます。



ライブ・セット・ファイルの削除をやめるときは、[EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

メモ

「ALL」を選ぶと、すべてのライブ・セット・ファイルが削除されます。

6. [ENTER] ボタンを押して、ライブ・セット・ファイルを削除します。

ご注意！

削除の途中では、決して電源を切らないでください。

7. [MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

ライブ・セット・ファイルをコピーする (LIVE SET Copy)

本体メモリーに保存したライブ・セット・ファイルをUSBメモリー（別売）にコピーすることができます。

また、USBメモリーに保存したライブ・セット・ファイルを本体メモリーにコピーすることもできます。

1. [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



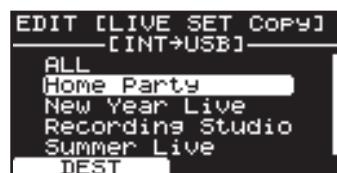
2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「5.File」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

EDIT 画面が表示されます。



3. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「3. LIVE SET Copy」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。



4. [LAYER EDIT] (DEST) ボタンを押して、コピーの種類を選びます。

パラメーター	解説
INT → USB	RD-300NX 本体内蔵のメモリーからUSBメモリーにコピーします。
USB → INT	USBメモリーからRD-300NX 本体内蔵のメモリーにコピーします。

5. カーソル [▼] [▲] ボタンでコピーするライブ・セット・ファイルを選びます。

ファイルのコピーをやめるときは、[EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

メモ

「ALL」を選ぶと、すべてのライブ・セット・ファイルがコピーされます。

6. [ENTER] ボタンを押して、ライブ・セット・ファイルをコピーします。

ご注意！

コピーの途中では、決して電源を切らないでください。

メモ

すでに同じ名前のファイルが保存されているときは、「Overwrite OK?」と確認のメッセージが表示されます。ライブ・セット・ファイルを上書きするときは [ENTER] ボタンを、上書きしないときは [EXIT/SHIFT] ボタンを押してください。

7. [MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

曲を削除する (SONG Delete)

保存された曲を削除します。

- [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



- カーソル [▼] [▲] ボタンで「5.File」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

EDIT 画面が表示されます。



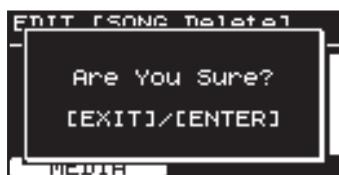
- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「4. SONG Delete」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。



- [LAYER EDIT] (MEDIA) ボタンを押して、曲を削除するメモリーを選びます。
- カーソル [▼] [▲] ボタンで削除したい曲を選び、[ENTER] ボタンを押します。

確認のメッセージが表示されます。



曲の削除をやめるときは、[EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

メモ

「ALL」を選ぶと、すべての曲が削除されます。

- [ENTER] ボタンを押して、曲を削除します。

ご注意！

削除の途中では、決して電源を切らないでください。

- [MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

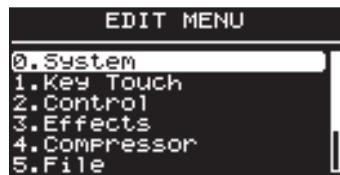
曲をコピーする (SONG Copy)

本体メモリーに保存した SMF ミュージックデータを USB メモリーに保存することができます。

また、USB メモリーに保存した SMF ミュージックデータを本体メモリーに保存することもできます。

- [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



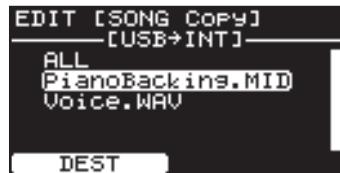
- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「5.File」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

EDIT 画面が表示されます。



- カーソル [▼] [▲] ボタンで「5. SONG Copy」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。



- [LAYER EDIT] (DEST) ボタンを押して、コピーの種類を選びます。

パラメーター	解説
INT → USB	RD-300NX 本体内蔵のメモリーから USB メモリーにコピーします。
USB → INT	USB メモリーから RD-300NX 本体内蔵のメモリーにコピーします。

- カーソル [▼] [▲] ボタンでコピーする曲を選ます。

曲のコピーをやめるときは、[EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

メモ

「ALL」を選ぶと、すべての曲がコピーされます。

- [ENTER] ボタンを押して、曲をコピーします。

ご注意！

コピーの途中では、決して電源を切らないでください。

すでに同じ名前のファイルが保存されているときは、「Overwrite OK?」と確認のメッセージが表示されます。曲を上書きするときは [ENTER] ボタンを、上書きしないときは [EXIT/SHIFT] ボタンを押してください。

7. [MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。 5. [ENTER] ボタンを押します。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

メモリーを初期化する (Format)

本体メモリーを製品出荷時の設定に戻したり、USB メモリーを RD-300NX で使用できるようにすることを、「初期化(フォーマット)」といいます。

USB メモリーは RD-300NX の形式に合っていないと、RD-300NX で使用することはできません。

新しいUSB メモリーを使う場合は、まず RD-300NX で初期化(フォーマット)をしてください。

ご注意！

初期化すると、USB メモリーに保存されている内容はすべて消えてしまいます。初期化する前に必ず、USB メモリーに残しておきたいデータが入っていないか確認してください。

1. [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「5.File」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

EDIT 画面が表示されます。



3. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「6. Format」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。



4. [LAYER EDIT] (MEDIA) ボタンを押して、初期化するメディアを選びます。

確認のメッセージが表示されます。



フォーマットを中止するときは、[EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

6. もう一度 [ENTER] ボタンを押して、フォーマットを実行します。

メモリーの内容がすべて消去されます。

7. [MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

ご注意！

- 画面に「Executing..」と表示されている間は、決して電源を切らないでください。

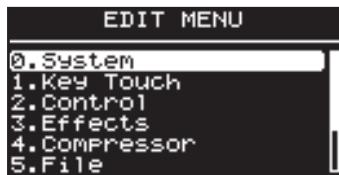
- 初期化が終わるまでは、USB メモリーを抜かないでください。

リズムの設定

RD-300NX には、ジャズやロックなどさまざまな音楽ジャンルのドラム・パターンを内蔵しています。このドラム・パターンのことを「リズム」といいます。

- [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「6.Rhythm」を選びます。
- [ENTER] ボタンを押して、EDIT 画面を表示します。



- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、設定するパラメーターにカーソルを移動します。
- [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。
- 設定が終わったら、[MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

テンポを変える (Tempo)

リズムのテンポを設定します。

パラメーター	設定値
Tempo	10 ~ 500

メモ

リズムのパターンによっては、鳴りかたとテンポ表示が異なる場合があります。

パターンを変える (Pattern)

リズムのパターンを設定します。200 種類の中から選びます。

メモ

リズムのパターンは、「RHYTHM 画面」でも変更することができます (P.36)。

リズム・セットを変える (Rhy Set)

リズムのリズム・セット（ドラムやパーカッションの音色セット）を変えることができます。

メモ

この設定を変えると、パート 10 のトーンも変わります。

ご注意！

選ぶリズム・セットによっては、リズムが正しく鳴らないことがあります。

MIDI 出力する端子を選ぶ (MIDI OUT Port)

リズム・パートをどの端子から出力するかを設定します。

パラメーター	設定値
MIDI OUT Port	ALL、INT (INTERNAL)、MIDI、USB

MIDI 出力するチャンネルを選ぶ (MIDI Channel)

リズム・パートを MIDI 出力するときのチャンネルを設定します。

パラメーター	設定値
MIDI Channel (MIDI Out Channel)	OFF、1 ~ 16

音量を設定する (Volume)

リズムの音量を設定します。

パラメーター	設定値
Volume	0 ~ 127

V-LINKを使う

V-LINK (**V-LINK**) は、音楽と映像を演奏するための機能です。V-LINK 対応のビデオ機器を使うことにより、演奏表現に連動したさまざまな映像効果が簡単に楽しめます。

たとえば、RD-300NX と P-10 との組み合わせでは、音楽と映像の同期演奏が楽しめます。



RD-300NX と P-10 で V-LINK を楽しむには、接続に MIDI ケーブル（別売）が必要です。

接続例

ここでは、P-10 との接続を例に説明します。RD-300NX の MIDI OUT 端子と P-10 の MIDI IN 端子を MIDI ケーブルで接続します。

ご注意！

接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、電源を切った状態で行ってください。

P-10



RD-300NX

V-LINKをオン／オフする

1. [REVERB] ボタンを押しながら [CHORUS] ボタンを押します。

ワンタッチ画面またはライブ・セット画面に V-LINK マークが表示されます。V-LINK の設定がオンになります。

V-LINK オンの状態で、RD-300NX の鍵盤を弾くと、演奏に合わせて映像をコントロールすることができます。

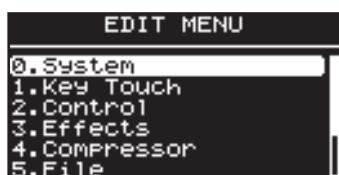
2. もう一度 [REVERB] ボタンを押しながら [CHORUS] ボタンを押します。

画面の V-LINK マークが消え、V-LINK の設定がオフになります。

V-LINKの設定

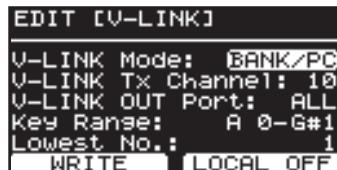
1. [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。



2. カーソル [▼] [▲] ボタンで、「7.V-LINK」を選びます。

3. [ENTER] ボタンを押して、EDIT 画面を表示します。



4. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、設定するパラメーターにカーソルを移動します。

5. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

6. 設定が終わったら、[MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

元の画面に戻ります。



設定を保存したいときは、[LAYER EDIT] (WRITE) ボタンを押します。保存された設定は、電源を切っても失われません。

V-LINKの詳細を設定する

パラメーター	設定値	解説
V-LINK Mode	BANK/PC	白鍵で PC (Clip)、黒鍵で Bank Select (Pallet) を出力します。
	NOTE	NOTE 情報を出力します。
V-LINK Tx Channel	1 ~ 16	出力するメッセージの MIDI チャンネルを選びます。
V-LINK OUT Port	ALL、MIDI、USB	メッセージを出力する端子を選びます。
Key Range	A0 ~ C8	V-LINK のコントローラーとして使う鍵盤の範囲を選びます。
Lowest No.	Key Range で設定した範囲のうち、最も低い鍵盤を押したときに出力される番号を指定します。	
	1 ~ 128	V-LINK Mode が BANK/PC のときに出力される番号
	0 ~ 127	V-LINK Mode が NOTE のときに出力される番号

Local ON/OFF

Key Range で設定した範囲の鍵盤を押したときに、RD-300NX の音が鳴るか鳴らないかを設定します。

V-LINK の EDIT 画面で [TONE EDIT] ボタンを押すたびにオン、オフが切り替わります。

パラメーター	設定値	解説
Local ON/OFF	LOCAL OFF	Key Range で設定した範囲の鍵盤を押しても、音が鳴りません。
	LOCAL ON	Key Range で設定した範囲の鍵盤を押すと、音が鳴ります。

曲の再生の設定を変える

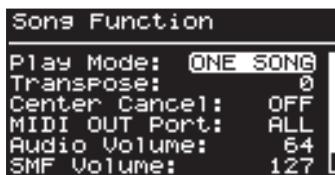
曲を再生するときの、さまざまな設定を変えることができます。

1. [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。
EDIT MENU 画面が表示されます。
2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「8.Utility」を選び、[ENTER] ボタンを押して EDIT 画面を表示します。



3. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「0. Song Function」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

以下のような画面が表示されます。



4. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して設定するパラメーターにカーソルを移動します。
5. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。
[DEC] ボタンと [INC] ボタンを同時に押すと、設定値は基準値になります。
6. 設定が終わったら、[MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

パラメーター	設定値	解説
Play Mode	ONE SONG	曲を再生すると、1曲だけ再生されて、再生が終わると停止します。
	ALL SONG	本体メモリー、またはUSBメモリーの曲が連続して再生されます。
Transpose	-6 ~ 0 ~ +5	曲の調を半音単位で変えて再生することができます。
Center Cancel	OFF, ON	オーディオ・データを再生しているときに、中央で鳴っている音（ボーカルや、メロディー楽器の音など）を小さくして再生することができます。
MIDI OUT Port	ALL, INT, MIDI, USB	曲をどの端子から出力するかを設定します。
Audio Volume	0 ~ 127	オーディオ・ファイルの再生中の音量を設定します。
SMF Volume	0 ~ 127	SMFミュージック・データの再生中の音量を設定します。 Part Mode (P.62) が16PARTのときは音量が変わりません。

ご注意！

曲によっては、センター・キャンセルを使うと音質が変わることがあります。

音を鳴らすパートを選ぶ

1. [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

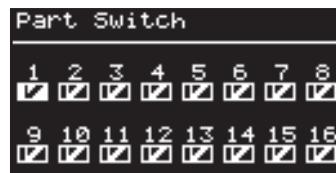
EDIT MENU 画面が表示されます。

2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「8.Utility」を選び、[ENTER] ボタンを押して EDIT 画面を表示します。



3. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「0. Song Function」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
4. 「Part Switch」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

Part Switch 画面が表示されます。



5. カーソル [◀] [▶] ボタンでパートを選び、[DEC] [INC] ボタンでオン／オフを設定します。
6. 設定が終わったら、[MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

パラメーター	設定値	解説
Part Switch	OFF, ON	曲を再生するときのパートのオン／オフを設定します。

ご注意！

パートを選ぶ機能は、Part Mode が16PARTのときは無効になります。オフにすることはできません。

製品出荷時の設定に戻す

RD-300NX に記憶した設定を製品出荷時の設定に戻すことができます。

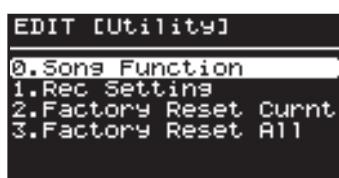
ご注意！

- 「Factory Reset All」を実行すると、ライブ・セット（P.40）の設定が失われます。記憶させた内容を残しておきたい場合は、ライブ・セット・ファイルを USB メモリー（別売）に保存してください（P.68）。
- USB 接続をしている場合は、必ず USB ケーブルを抜いてから実行してください。

1. [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

EDIT MENU 画面が表示されます。

2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「8.Utility」を選び、[ENTER] ボタンを押して EDIT 画面を表示します。



3. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「2. Factory Reset Curnt」または「3. Factory Reset All」を選びます。

パラメーター	解説
Factory Reset Curnt (Current)	現在選んでいるライブ・セットを製品出荷時の設定に戻します。
Factory Reset All	RD-300NX のすべての設定を製品出荷時の設定に戻します。

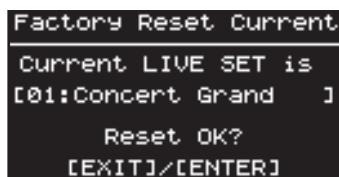
ご注意！

Factory Reset の操作中は鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。また、演奏中のリズムも止まります。

Factory Reset Current

4. [ENTER] ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。

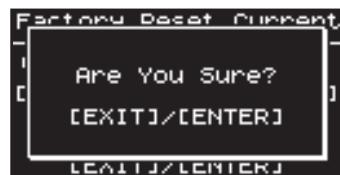


ご注意！

One Touch 音色を選んでいるときは、[PIANO] ボタンと [E.PIANO] ボタンの設定を初期状態にします。

5. [ENTER] ボタンを押します。

確認のメッセージが表示されます。



ファクトリー・リセットを中止するときは、[EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

6. もう一度 [ENTER] ボタンを押すと、ファクトリー・リセットが実行されます。

ご注意！

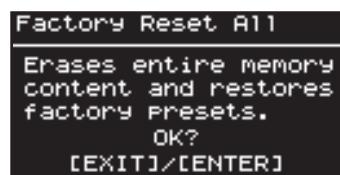
実行中は「Executing... Don't Power OFF」と表示されます。決して電源を切らないでください。

ファクトリー・リセットが終わると、ユーティリティー画面に戻ります。

Factory Reset All

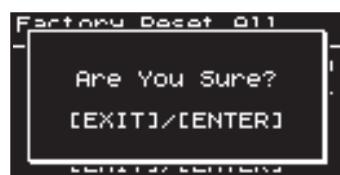
4. [ENTER] ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。



5. [ENTER] ボタンを押します。

確認のメッセージが表示されます。



ファクトリー・リセットを中止するときは、[EXIT/SHIFT] ボタンを押します。

6. もう一度 [ENTER] ボタンを押すと、ファクトリー・リセットが実行されます。

ご注意！

実行中は「Executing... Don't Power OFF」と表示されます。決して電源を切らないでください。

7. RD-300NX の電源を入れ直します。

外部 MIDI 機器との接続

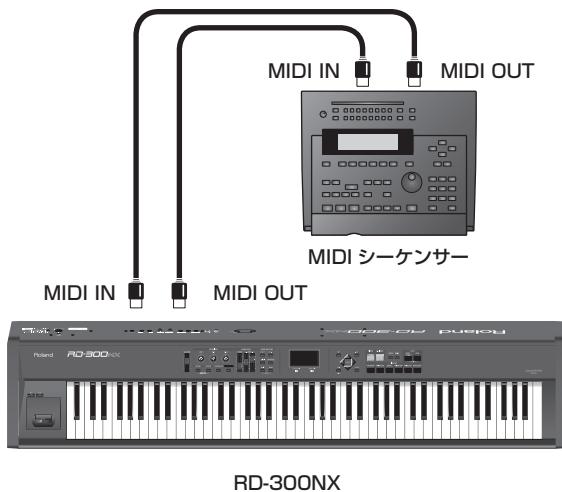
RD-300NXの演奏を外部MIDIシーケンサーに録音する

外部シーケンサーを使って、複数のトラックに演奏を重ねて録音したり、録音した演奏を再生してみましょう。

外部シーケンサーと接続する

ご注意！

他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切つてください。



- 接続を始める前に、すべての機器の電源がオフになっていることを確認します。
- 『外部機器と接続する』(P.15)の手順に従って、オーディオ機器またはヘッドホンなどを接続します。
- 図のように、RD-300NX と外部 MIDI 機器を MIDI ケーブルで接続します。
- 『電源を入れる』(P.17)の手順に従って、各機器の電源を入れます。

録音するときの設定をする

外部シーケンサーに録音するときは、Rec Mode 機能を使うと便利です。

Rec Mode 機能を使うと、パートやチャンネルの各設定を行わなくても、RD-300NX を外部シーケンサーに録音するのに最適な設定することができます。

- [MENU] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

エディット・EDIT MENU 画面が表示されます。

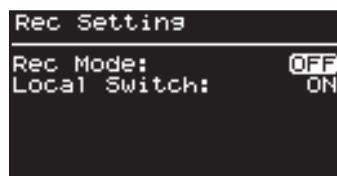


- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「8.Utility」を選びます。

- [ENTER] ボタンを押して、EDIT 画面を表示します。



- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「1. Rec Setting」を選びます。
- [ENTER] ボタンを押すと、次のような画面が表示されます。



パラメーター	設定値	解説
Rec Mode		通常は OFF にしておきます。ON にすると、レイヤーの設定に関わらず、MIDI OUT 端子からの出力が録音に適した設定になります。
Local Switch	ON, OFF	ローカル・スイッチのオン／オフを切り替えます。通常は ON にしておきますが、録音するときは、OFF にするとよいでしょう。 詳しくは『ローカル・スイッチについて』(P.78)をご覧ください。

- カーソル [▼] [▲] ボタンを押して設定するパラメーターを選び、[DEC] [INC] ボタンまたは VALUE ダイヤルで値を設定します。
- 設定が終わったら、[MENU] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

ライブ・セット画面またはワンタッチ画面に戻ります。

ご注意！

Rec Mode が ON になっているときは、EXTERNAL レイヤーの設定 (P.51) を変えることはできません。

[MIDI] ボタンを押しても、MIDI 画面は表示されません。

演奏を録音する

外部シーケンサーに録音するときは、次の手順で行ってください。

- 外部シーケンサーのスルー機能をオンにします。
詳しくは、次項の「ローカル・スイッチについて」をご覧ください。
操作については、お使いになるシーケンサーの取扱説明書をご覧ください。
- 録音する演奏のライブ・セットを選びます。
ライブ・セットの選びかたは『いろいろな音色（ライブ・セット）で演奏する』(P.27) をご覧ください。

3. Rec Setting の設定をします。

前項の「録音するときの設定」の操作に従って、以下のように設定してください。

パラメーター	設定値
Rec Mode	ON
Local Switch	OFF

4. 外部シーケンサーの録音を開始します。

5. RD-300NX で演奏します。

6. 演奏が終わったら外部シーケンサーの録音を止めます。

録音が終わりました。

外部シーケンサーを再生すると、録音した演奏を聞くことができます。

Rec Mode を解除する

Rec Mode が ON に設定されていると、MIDI の設定を変えることができません。演奏の録音が終わったら、前項の「録音するときの設定」の操作に従って Rec Mode を OFF にしてください。

ご注意！

Rec Setting の設定を記憶することはできません。

Rec Setting は、電源投入後、以下の設定になります。

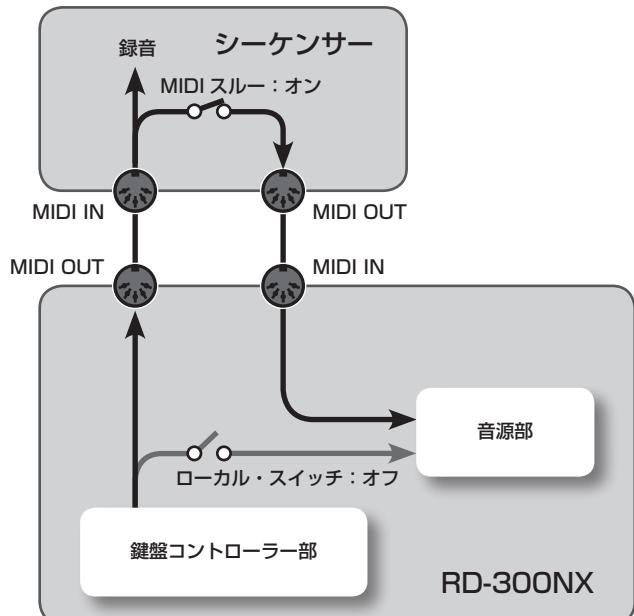
パラメーター	設定値
Rec Mode	OFF
Local Switch	ON

MIDI インジケーターが点灯しているときは Rec Mode を ON にすることはできません。

ローカル・スイッチについて

コントローラー部と音源部(P.20)の間のMIDI接続を切り離したり、つないだりするスイッチをローカル・スイッチといいます。ローカル・スイッチをオフにすると、コントローラー部から音源部に演奏情報が伝わらなくなりますので、通常、ローカル・スイッチはオンの状態で使用します。

ただし、演奏しながらその演奏情報を MIDI メッセージとして外部シーケンサーに録音するような場合は、外部に接続したシーケンサーを MIDI スルー（MIDI IN で受信した情報をそのまま MIDI OUT から送信する）の状態にし、RD-300NX のローカル・スイッチをオフにして演奏します。



このとき、ローカル・スイッチをオンにして演奏すると、コントローラー部から音源部へ直接伝達される情報と、コントローラー部から外部シーケンサーを経由して音源部へ伝達される情報の2つの情報が同時に音源部に送られてしまいます。このため、たとえば「ド」の鍵を1回押したときでも、音源部では2回「ド」の音を鳴らそうとして正しく発音できなくなります。

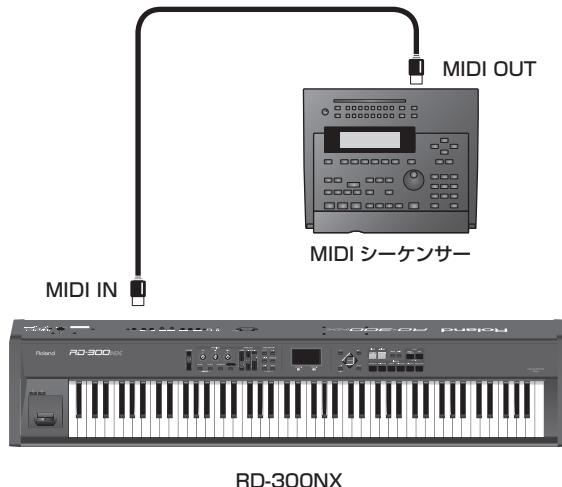
外部 MIDI 機器から RD-300NX の音源部を鳴らす

外部 MIDI 機器から RD-300NX を鳴らしてみましょう。

接続のしかた

ご注意！

他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切つてください。



- 接続を始める前に、すべての機器の電源がオフになっていることを確認します。
- 『外部機器と接続する』(P.15)の手順に従って、オーディオ機器またはヘッドホンなどを接続します。
- 図のように、RD-300NX と外部 MIDI 機器を MIDI ケーブルで接続します。
- 『電源を入れる』(P.17)の手順に従って、RD-300NX と外部 MIDI 機器の電源を入れます。

外部 MIDI 機器から RD-300NX の音色を切り替える

外部 MIDI 機器から RD-300NX にバンク・セレクト（コントローラー・ナンバー 0、32）とプログラム・チェンジを送信することで、ライブ・セットやトーンを切り替えることができます。

MIDIに関する資料は、ローランドのホームページからダウンロードすることができます。

ローランドのホームページ
<http://www.roland.co.jp/>

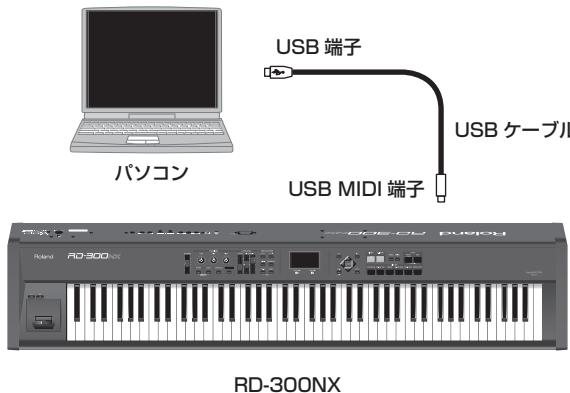
「サポート」からたどることができます。

パソコンと接続する

USB MIDI端子を使ってパソコンと接続する

市販のUSBケーブルを使用して、RD-300NXの背面にあるUSB MIDI端子とお使いのパソコンのUSB端子を接続すると、以下のようなことができます。

- MIDIに対応したソフトウェアで再生したSMFミュージックデータをRD-300NXで鳴らすことができます。
- シーケンサー・ソフトウェアとの間でMIDI情報をやりとりして、より高度な音楽制作、編集などを行うことができます。



ご注意！

動作条件については、ローランドのホームページをご覧ください。

ローランドのホームページ
<http://www.roland.co.jp/>

「サポート」からたどることができます。

パソコンの機種によっては、正しく動作しないことがあります。対応OSについては、ローランドのホームページをご覧ください。

ご注意

- 他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。
- USBを使って送受信できるのは、MIDIデータのみです。
- USBケーブルは付属していません。ご購入の際には、RD-300NXをお求めになった販売店にお問い合わせください。
- RD-300NXの電源を入れてから、パソコンのMIDIアプリケーションを起動してください。また、MIDIアプリケーションを起動した状態で、RD-300NXの電源のオン／オフはしないでください。

オリジナルのドライバは、ローランドのホームページからダウンロードすることができます。

ローランドのホームページ
<http://www.roland.co.jp/>

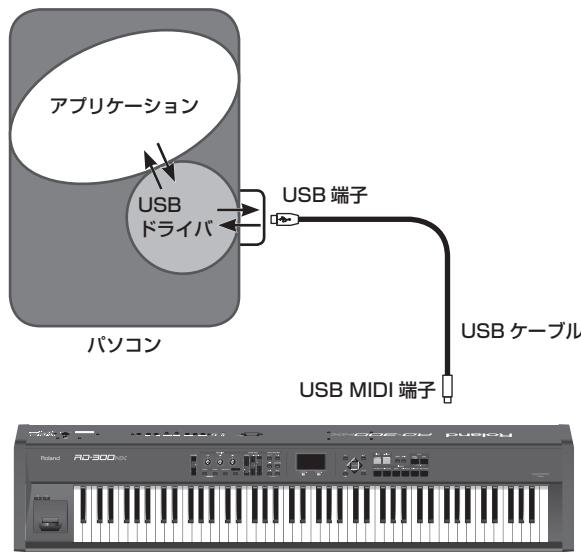
「サポート」からたどることができます。

まず、使用するUSBドライバの設定をした後、ドライバをインストールしてください。詳しくは『USBドライバの設定をする』(P.81)をご覧ください。

USB MIDI ドライバとは？

パソコンとRD-300NXがUSBケーブルで接続されているとき、パソコン上のアプリケーション（シーケンス・ソフトウェア等）とRD-300NXとの間でデータの仲介役をするソフトウェアです。

USBドライバは、アプリケーションからのデータをRD-300NXに送ったり、逆にRD-300NXからの情報をアプリケーションに渡したりします。



RD-300NX

USBドライバの設定をする

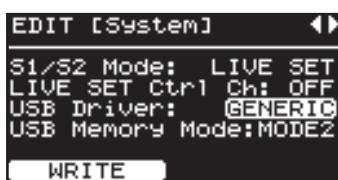
USB 端子を使ってパソコンと接続するときに、使用する USB ドライバを設定します。

1. [MENU] ボタンを押します。

EDIT MENU 画面が表示されます。

2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「O. SYSTEM」を選びます。

3. [ENTER] ボタンを押して EDIT 画面を表示します。



4. カーソル [◀] [▶] ボタンで画面を切り替え、カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「USB Driver」にカーソルを移動します。

5. [DEC] [INC] ボタンでドライバを設定します。

パラメーター	設定値	説明
USB Driver	ORIGINAL	ローランドのホームページからダウンロードした USB ドライバをお使いのときに選びます。
	GENERIC	パソコンに標準添付の USB ドライバをお使いのときに選びます。

6. [LAYER EDIT] (WRITE) ボタンを押します。

7. 電源を入れ直します。

USBメモリーの設定を切り替える

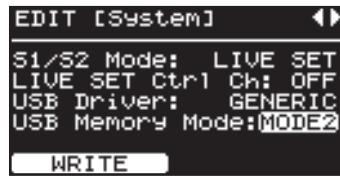
USB MEMORY 端子に USB メモリーなどを接続したときに、データの読み込みに時間がかかったり、データがうまく読み込めない場合があります。その場合、USB メモリーの設定を切り替えると改善される場合があります。

1. [MENU] ボタンを押します。

EDIT MENU 画面が表示されます。

2. カーソル [▼] [▲] ボタンを押して「O. SYSTEM」を選びます。

3. [ENTER] ボタンを押して EDIT 画面を表示します。



4. カーソル [◀] [▶] ボタンで画面を切り替え、カーソル [▼] [▲] ボタンを押して、「USB Memory Mode」にカーソルを移動します。

5. [DEC] [INC] ボタンで値を設定します。

パラメーター	設定値
USB Memory Mode	Mode1、Mode2

6. [LAYER EDIT] (WRITE) ボタンを押します。

7. 電源を入れ直します。

故障かな？と思ったら

思ったように動作しないときは、まず以下の点をチェックしてください。チェックしても原因がわからないときは、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターにお問い合わせください。

※操作中、何らかのメッセージが画面に表示されたときは、「エラー・メッセージ／その他のメッセージ」(P.85)をご覧ください。

現象	確認事項／対処	ページ
電源が入らない	RD-300NX の電源コードがコンセントや本体に正しく接続されていますか？	P.14
ボタンが効かない	パネル・ロックしていませんか？ [PIANO] ボタンや [E. PIANO] ボタン、[EXIT/SHIFT] ボタンを押して、パネル・ロックを解除してください。	P.35
	接続しているアンプやスピーカーの電源が入っていますか？ 音量が下がっていませんか？	P.15
	[VOLUME] スライダーで音量を絞っていませんか？	P.18
	正しく接続されていますか？ RD-300NX 単体で使用する場合は、オーディオ・ケーブルまたはヘッドホンを接続してください。	P.15
	ヘッドホンを接続して音が聞こえますか？ ヘッドホンから音が出るようであれば、接続しているケーブルが断線していたり、アンプやミキサーが故障している場合が考えられます。もう一度、接続ケーブルや機器を確認してください。	—
	レイヤー・スイッチがオフになっていませんか？	P.29 P.52
音が鳴らない	LAYER LEVEL スライダーでパートの音量を絞っていませんか？	P.30 P.52
	(鍵盤を押さえて音が鳴らない場合) ローカル・スイッチがオフに設定されていませんか？ エディット・モードの Utility の Rec Setting で、Local ON/OFF を ON に設定してください。	P.74
	エフェクトの設定は正しいですか？ 以下を確認してください。 <ul style="list-style-type: none">• MFX のオン／オフ• エフェクト・バランスやレベルなど	P.39 P.47
	ペダルの操作／外部 MIDI 機器／曲データから受信した MIDI メッセージ（ボリューム・メッセージとエクスプレッション・メッセージ）によって、音量が下がっていませんか？ エディット・モードの System の Master Volume を上げてください。また、Control の CC07（ボリューム）、CC11（エクスプレッション）で音量を上げてください。	P.60 P.65
特定のパートの音が鳴らない	パートの音量レベルが下がっていませんか？ 以下を確認してください。 <ul style="list-style-type: none">• LAYER LEVEL スライダー• LAYER EDIT の (VOL) Volume の設定	P.30 P.49
接続している MIDI 機器の音が鳴らない	MIDI メッセージが送信できる状態になっていますか？ [MIDI] ボタンを押してインジケーターを点灯させ、レイヤー・スイッチをオンにしてください。 レイヤー・スイッチがオフになっていると、MIDI 情報が送信されません。	P.52
	RD-300NX のコントローラー部の MIDI 送信チャンネルと、接続している MIDI 機器の MIDI 受信チャンネルが合っていますか？ MIDI 画面で、MIDI 送信チャンネルを設定してください。	P.53
特定の音域の音が鳴らない	発音域（キー・レンジ）が設定されていませんか？ 以下を確認してください。 <ul style="list-style-type: none">• MIDI 画面の各レイヤーの LWR、UPR の設定• LAYER EDIT の、レイヤーごとの鍵域 (Key Range)	P.55 P.49
	リズム・セット、ベース音色など、発音域が限られたトーンがあります。	—
	V-LINK がオンになっていませんか？ V-LINK の Local ON/OFF を LOCAL ON にすると、V-LINK をオンにしていても鍵盤で音を鳴らすことができます。	P.74

現象	確認事項／対処	ページ
音が変わる	ライブ・セットを呼び出していますか? ライブ・セットを呼び出すと、トーンやエフェクトなどの現在の設定は無効になり、選んだライブ・セットの設定になります。必要な設定は、ライブ・セットに新たに記憶してください。	P.40
	[PIANO] ボタンまたは [E. PIANO] ボタンを押していますか? [PIANO] ボタン、または [E. PIANO] ボタンを押すと、トーンやエフェクトなどの現在の設定は無効になり、ピアノ演奏のための設定になります。必要な設定は、ライブ・セットに新たに記憶してください。	P.26
	モノラル接続の場合、音色や音域によって音質が変わることがあります。 最高の状態で聞くために、ステレオ接続をお勧めします。	—
トーンが変わらない／スプリットにならない	「MIDI」のインジケーターが点灯していませんか? 「MIDI」のインジケーターが点灯しているときは、外部音源をコントロールします。RD-300NX のトーンを変えたり、キーボード・モードを設定するときは、[MIDI] ボタンを押して「MIDI」のインジケーターを消灯させてください。	P.52
	トーンを変えたいレイヤーを選択していますか?	P.30
リズムが鳴らない	曲を再生していませんか?	P.37
エフェクトがかからない／かかりかたがおかしい	MFX がオフになっていませんか? エディット・モードの Effects の DELAY の設定で、ディレイのタイミングを音符の値に設定していると、ディレイ音が鳴らないことがあります。テンポを調節するか、ディレイのタイミングを数値で設定してください。	P.39
	RD-300NX のマルチ・エフェクトは UPPER1 にのみかけることができます。 マルチ・エフェクトを使用しているトーンを、UPPER2 や LOWER で使用すると実際の鳴りかたとは異なって聞こえます。 マルチ・エフェクトを使用しているトーンは、UPPER1 で使用してください。	—
	音色によっては、押鍵するたびにランダムに音が左右に振られる（パンニングされる）ように設定されているものがあります。この設定を変更することはできません。	—
音がひずむ	イコライザー、マルチ・エフェクト、パート・ボリュームの設定によっては、音がひずむ場合があります。以下の設定を調節してください • LAYER LEVEL スライダー • エディット・モードの System の Master Volume • イコライザーの Input Gain	P.30 P.60 P.34
	音がひずむようなエフェクトをかけていませんか?	—
	[SPLIT] ボタンがオフになっていますか? キー・レンジは、[SPLIT] ボタンがオンのときに有効になります。	P.55 P.49
キー・レンジ (Key Range) の設定が効かない	選んでいるトーンによっては、ある音域で音程が他の音色と変わって聞こえる場合があります。	—
	特定のパートに Coarse Tune、Fine Tune を設定していませんか? 以下の設定を確認してください。 • TONE EDIT の Course Tune、Fine Tune • MIDI 画面の C.T.、F.T.	P.47 P.56
	RD-300NX のチューニングがずれていませんか? 以下を確認してください。 • エディット・モードの System の Master Tune 設定 • エディット・モードの System の Temperament の設定 • ピアノ音色の TONE EDIT の Micro Tune の設定	P.60 P.62 P.44
音程（ピッチ）がおかしい	ペダルの操作や外部 MIDI 機器から受信したピッチ・バンド・メッセージによって、ピッチがずれていますか?	—
	トランスポーズの設定をしていませんか?	P.31
	128 ポイスを超える発音をしようとした場合、現在鳴っている音が途切れる場合があります。 音抜けさせたくないパートの V.Reserve (Voice Reserve) を多めに設定してください。	P.50
鍵盤から手を離しても音が鳴りっぱなしになる	ペダルの極性（ペダル・ポラリティー）が逆になっていますか? エディット・モードの System の Damper / FC1 / FC2 Polarity の設定を確認してください。	P.61
エクスクルーシブ・メッセージを受信しない	送信側のデバイス ID ナンバーと、RD-300NX のデバイス ID ナンバーが合っていますか? 送信側のデバイス ID ナンバーが 17 になっているか確認してください。	—

現象	確認事項／対処	ページ
曲データが正しく再生できない	Rx GM / GM2 System On スイッチはオンになっていますか？ エディット・モードの System の Rx.GM/GM2 Sys On を ON に設定してください。	P.62
	GS フォーマットの曲データを再生していませんか？ RD-300NX は GS リセット・メッセージを受信すると、GS フォーマットに対応できるようになります。これにより、GS マークが付いたミュージックデータ（GS ミュージックデータ）を再生することができますが、当社のサウンド・キャンバス・シリーズ専用に作成されたミュージックデータは、正しく再生できないことがあります。	—
	再生可能なオーディオ・データですか？ RD-300NX で再生できるオーディオ・データか確認してください。	P.86
ペダルの機能を設定しても効かない	エディット・モードの System の Pedal Mode が「SYSTEM」になっていませんか？ 「LIVE SET」に設定してください。	P.60
[S1] ボタンや [S2] ボタンの機能を設定しても効かない	エディット・モードの System の S1/S2 Mode が「SYSTEM」になっていませんか？ 「LIVE SET」に設定してください。	P.60
画面に何も表示されない	RD-300NX は液晶画面のため、摂氏 0 度以下の環境では、文字などが表示されなくなることがあります。	—
画面に縦スジのようなものが見える／画面の端の色が薄い	液晶画面の原理上発生するもので、故障ではありません。画面の明るさを変えると、目立たなくすることができます。	—
電源オン／オフのときに画面表示が乱れる	液晶画面の原理上発生するもので、故障ではありません。	—
ペダルが効かない、または効きっぱなしになる	ペダルが正しく接続されていますか？ ペダル端子にしっかりと接続してください。	P.16
	他社のペダルを使用していませんか？ 付属のペダルまたは別売の DP シリーズなどをお使いください。	P.15
	ローランドの USB メモリー（別売）を使用していますか？ それ以外の USB メモリーを使用したときの動作は保証できません。	—
USB メモリーがうまく読み書きできない	USB メモリーがうまく読み書きできない場合は、エディット・モードの System の USB Memory Mode の設定を変更してください。	P.61
リバーブ効果をオフにしても残響音がする	RD-300NX のピアノ音は、アコースティック・ピアノ本来の奥行感や響きも忠実に再現しているため、リバーブ効果をオフにしても残響音として聴こえることができます。	—
高音部で、ある鍵盤から音が急に変わる	アコースティック・ピアノでは、高音部の 1.5 オクターブ程度の範囲はダンパー・ペダルに関係なく音が最後まで延びます。また音色も違っています。RD-300NX はアコースティック・ピアノのこのような動作を忠実に再現しています。また、RD-300NX では、ダンパー・ペダルの影響を受けない範囲はトランスポーズの設定によって変化します。	—
「キーン」という音がする	きらびやかで粒立ちがはっきりしている一部のピアノ音色では、高調波成分が多く含まれているため、金属的な響きが加わって聞こえることがあります。これはピアノ本来の特徴を忠実に再現しているためで、故障ではありません。 以下の設定を変更することでこの響きを調整できます。 <ul style="list-style-type: none">• アリコートの設定 (P.43)• ストリング・レゾナンスの設定 (P.43)• リバーブの深さ (P.32)	—
低音部の音がおかしい／ビリビリと共鳴する	音量を最大にすると、演奏方法によっては音がひずむことがあります。 その場合は、音量を小さくしてください。	—
巻き戻し／早送りができない	ミュージックデータの読み込み中は早送りや巻き戻しができません。少しの間お待ちください。	—
	RD-300NX の記憶容量を超える演奏情報を持つデータを再生すると、再生以外の操作（早送りや巻き戻しなど）ができないことがあります。	—
USB メモリーの曲が、すぐに再生されない	SMF ミュージックデータには、フォーマット 0 と 1 という 2 つのタイプがあります。フォーマット 1 のデータの場合、再生するまでに時間がかかる場合があります。 フォーマットのタイプは、お使いになるミュージックデータのブックレットをご覧ください。	—

メッセージ一覧

エラー・メッセージ

表示	原因	対処
Error 1 You can only read the music file.	保存しようとしたミュージックデータは読み込み専用です。 保存することはできません。	—
Error 2 An error occurred during writing.	書き込み中にエラーが発生しました。 外部メディアのプロテクト・タブが「プロテクト(書き込み禁止)」の位置になっていたり、外部メディアが初期化されていない可能性があります。	—
Error 10 No storage media is inserted.	外部メディアが挿入されていません。	外部メディアを挿入してから、もう一度操作してください。
Error 11 Insufficient free memory at the save destination.	保存先の空き容量が足りません。	別の外部メディアを挿入するか、不要なデータ（曲データ、ライブ・セット・ファイル）を削除して、もう一度操作してください。
Error 14 An error occurred during reading	読み込み中にエラーが発生しました。 外部メディアが破損している可能性があります。	別の外部メディアを挿入して、もう一度操作してください。または、外部メディアを初期化してください。
Error 15 The data format is not compatible with this instrument.	ファイルを読むことができません。 RD-300NX が対応していないデータ形式です。	本機が扱えるファイルは以下の仕様です。 <ul style="list-style-type: none"> 拡張子が「RDS」のライブ・セット・ファイル(※) 拡張子が「MID」のSMF ミュージック・データ 拡張子が「WAV」のオーディオ・ファイル オーディオ・ファイルの詳しいフォーマットについては、『RD-300NX で再生できるオーディオ・ファイル』(P.86) をご覧ください。
Error 16 Data could not be read fast enough for playback of the song.	曲の再生にデータの読み出しが間に合いません。	数秒待つと、曲を再生できることがあります。
Error 18 The audio data format is not compatible with this instrument.	対応していないオーディオ・フォーマットです。	WAV 形式、44.1kHz、16 ビット・リニアのオーディオ・ファイルを使用してください。
Error 30 The internal memory capacity of the RD-300NX is full.	RD-300NX の記憶容量が足りません。	—
Error 40 The instrument can't deal with the excessive MIDI data.	外部 MIDI 機器から一度にたくさんの MIDI データが送られてきたため、RD-300NX で処理できません。	外部 MIDI 機器から送信されるデータ量を減らしてください。
Error 41 A MIDI cable has been disconnected.	MIDI ケーブルが抜けるなどのトラブルがありました。	MIDI ケーブルを正しく接続してください。
Error 43 A MIDI transmission error has occurred.	MIDI 通信でエラーが発生しました。	MIDI ケーブルや接続している MIDI 機器を確認してください。
Error 51 System error. Repeat procedure, or power off, then on.	システムに異常がある可能性があります。	もう一度操作してください。何度か操作をやり直してもこの表示が出る場合は、お客様相談センターにご連絡ください。
Error 65 The USB Memory port was subjected to excessive current.	USB MEMORY 端子に過大な電流が流れました。	外部メディアに異常がないか確認した後、電源を入れ直してください。

(※) 本機は、他機種のセットアップ・ファイルやライブ・セット・ファイルを読むことはできません。

他のメッセージ

表示	原因	対処
Unavailable while in Rec Mode	Rec Mode が「ON」のときに、[MIDI] ボタンを押すと表示されます。	Rec Mode が「ON」のときは、MIDI の設定を変更することができません。MIDI の設定を変更するには、Rec Mode を「OFF」にしてください (P.77)。
File Exists. Overwrite OK?	同じ名前のファイルが存在します。	そのまま保存すると、ファイルが上書きされます。上書きしたくない場合は、ファイル名を変えて保存してください。
Panel is Locked	パネルがロックされています。	[EXIT/SHIFT] ボタンを押して、パネル・ロックを解除してください (P.35)。

RD-300NX で再生できるオーディオ・ファイル

● WAV

サンプリング周波数	44.1kHz
ビット数	16 ビット・リニア
拡張子	「.wav」

オーディオ・ファイル再生時の注意

オーディオ・ファイルの再生テンポを変更すると、RD-300NX に大きな負荷がかかり、鍵盤からの演奏情報を処理しきれなくなることがあります。

そのようなときは、以下の対処をすることで症状を改善できる場合があります。

- 曲のテンポを元に戻す（0% にする）

エフェクト一覧

マルチ・エフェクト

00:	THRU
01:	EQUALIZER (イコライザー)
02:	SPECTRUM (スペクトラム)
03:	ISOLATOR (アイソレーター)
04:	LOW BOOST (ロー・ブースト)
05:	SUPER FILTR (スーパー・フィルター)
06:	STEP FILTER (ステップ・フィルター)
07:	ENHANCER (エンハンサー)
08:	AUTO WAH (オート・ワウ)
09:	HUMANIZER (ヒューマナイザー)
10:	SP.SIMULATR (スピーカー・シミュレーター)
11:	PHASER (フェイザー)
12:	STEP PHASER (ステップ・フェイザー)
13:	MULT PHASER (マルチ・ステージ・フェイザー)
14:	INF PHASER (インフィニット・フェイザー)
15:	RING MODLTR (リング・モジュレーター)
16:	STEP R.MOD (ステップ・リング・モジュレーター)
17:	TREMOLO (トレモロ)
18:	AUTO PAN (オート・パン)
19:	STEP PAN (ステップ・パン)
20:	SLICER (スライサー)
21:	ROTARY (ロータリー)
22:	VK ROTARY (VK ロータリー)
23:	CHORUS (コーラス)
24:	FLANGER (フランジャー)
25:	STEP FLANGR (ステップ・フランジャー)
26:	HEXA-CHORUS (ヘキサ・コーラス)
27:	TREMOLO CHO (トレモロ・コーラス)
28:	SPACE-D (スペース D)
29:	3D CHORUS (3D コーラス)
30:	3D FLANGER (3D フランジャー)
31:	3D S.FLANGR (3D ステップ・フランジャー)
32:	2BND CHORUS (2バンド・コーラス)
33:	2BND FLANGR (2バンド・フランジャー)
34:	2BND S.FLN (2バンド・ステップ・フランジャー)
35:	OVERDRIVE (オーバードライブ)
36:	DISTORTION (ディストーション)
37:	VS OVRDRIVE (VS オーバードライブ)
38:	VS DIST (VS ディストーション)
39:	GTR AMP SIM (ギター・アンプ・シミュレーター)
40:	COMPRESSOR (コンプレッサー)
41:	LIMITER (リミッター)
42:	GATE (ゲート)
43:	DELAY (ディレイ)
44:	LONG DELAY (ロング・ディレイ)
45:	SERIAL DLY (シリアル・ディレイ)
46:	MOD DELAY (モジュレーション・ディレイ)
47:	3TP PAN DLY (3タップ・パン・ディレイ)
48:	4TP PAN DLY (4タップ・パン・ディレイ)
49:	MULTTAP DLY (マルチ・タップ・ディレイ)
50:	REVERSE DLY (リバース・ディレイ)
51:	SHUFFLE DLY (シャッフル・ディレイ)

52:	3D DELAY (3D ディレイ)
53:	T-CTRL DLY (タイム・コントロール・ディレイ)
54:	LONG TC DLY (ロング・タイム・コントロール・ディレイ)
55:	TAPE ECHO (テープ・エコー)
56:	LOFI NOISE (ローファイ・ノイズ)
57:	LOFI COMPRS (ローファイ・コンプレス)
58:	LOFI RADIO (ローファイ・ラジオ)
59:	TELEPHONE (テレフォン)
60:	PHONOGRAPH (フォノグラフ)
61:	PCH SHIFTER (ピッチ・シフター)
62:	2V P.SHIFTR (2ボイス・ピッチ・シフター)
63:	S.P.SHIFTER (ステップ・ピッチ・シフター)
64:	REVERB (リバーブ)
65:	GATED REV (ゲート・リバーブ)
66:	OVDRL → CHO (オーバードライブ→コーラス)
67:	OVDRL → FLNGR (オーバードライブ→フランジャー)
68:	OVDRL → DELAY (オーバードライブ→ディレイ)
69:	DIST → CHORUS (ディストーション→コーラス)
70:	DIST → FLANGR (ディストーション→フランジャー)
71:	DIST → DELAY (ディストーション→ディレイ)
72:	ENH → CHORUS (エンハンサー→コーラス)
73:	ENH → FLANGER (エンハンサー→フランジャー)
74:	ENH → DELAY (エンハンサー→ディレイ)
75:	CHO → DELAY (コーラス→ディレイ)
76:	FLN → DELAY (フランジャー→ディレイ)
77:	CHO → FLANGER (コーラス→フランジャー)
78:	SYM.RESONCE (シンパセティック・レゾナンス)

コーラス

0:	OFF
1:	CHORUS (コーラス)
2:	DELAY (ディレイ)
3:	GM2 CHORUS (GM2 コーラス)

リバーブ

0:	OFF
1:	REVERB (リバーブ)
2:	ROOM (ルーム)
3:	HALL (ホール)
4:	PLATE (プレート)
5:	GM2 REVERB (GM2 リバーブ)
6:	CATHEDRAL (カセドral)

主な仕様

デジタル・ピアノ：ローランド RD-300NX

鍵盤部	
鍵盤	88鍵、アイボリー・フィール鍵盤、エスケープメント付き
音源部	
最大同時発音数	128音
パート数	ライブ・セット（3レイヤー）+ 16パート
音源	スーパーナチュラル・ピアノ スーパーナチュラル・E.ピアノ PCM 音源 GM2（SMF 再生用）
ライブ・セット	プリセット：200 ユーザー：60
エフェクト	マルチエフェクト：78種類 リバーブ：6種類、 コーラス：3種類、 3バンド・コンプレッサー 3バンド・デジタル・イコライザー
SMF／オーディオ・ファイル・プレーヤー部	
再生可能フォーマット	標準MIDIファイル：フォーマット0、1 オーディオ・ファイル：WAV（44.1kHz、16ビット・リニア）
その他	
リズム・パターン	200パターン
コントローラー	レイヤー・レベル・スライダー×3 イコライザーフルスケール ピッチ・ベンド／モジュレーション・レバー S1/S2ボタン（アサイナブル）
ディスプレイ	128×64ドット・グラフィックLCD（バックライト付）
接続端子	OUTPUT端子（L/MONO、R）：標準タイプ DAMPER PEDAL端子 CONTROL PEDAL端子（FC1、FC2） MIDI端子（IN、OUT） USB端子（MIDI、メモリー） PHONES端子：ステレオ標準タイプ DC IN端子
電源	DC9V（付属ACアダプター）
消費電力	11W
外形寸法	1,438（W）×337（D）×141（H）mm
質量	17.5kg
付属品	取扱説明書 ダンパー・ペダル（連続検出対応） ACアダプター 電源コード 保証書 ローランドユーザー登録カード

製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

A		
AC アダプター	14	
ATK	56	
Attack Time	67	
Attack Time (Offset)	48	
Audio Volume	75	
B		
BANK [PRESET] ボタン	11	
BANK [USER] ボタン	11	
Bend Range	48, 57	
B.R.	57	
C		
CD ドライブ	19	
Center Cancel	75	
CHO (Chorus)	55	
CHO (Chorus Amount)	49	
CHORUS	32	
[CHORUS] ボタン	10	
Chorus Type	66	
Cho Type	66	
Clock Out	62	
Coarse Tune	47, 56	
COF	56	
COMPRESSOR	33	
[COMPRESSOR] ボタン	10	
Compressor Type	67	
C.T.	56	
Cutoff (Offset)	48	
D		
Damper	44	
DAMPER 端子	16	
Damper Noise	43	
Damper offset	45	
Damper Polarity	61	
DC IN 端子	12, 14	
DCY	56	
[DEC] ボタン	11, 24	
Decay Time (Offset)	48	
DELAY	32	
Depth	44, 67	
[DISPLAY CONTRAST] つまみ	12	
[DUAL] ボタン	10	
Duplex Scale	43	
E		
[ENTER] ボタン	11	
[E. PIANO] ボタン	11	
EQUALIZER	10, 34	
[EXIT/SHIFT] ボタン	11	
F		
Factory Reset All	76	
Factory Reset Curnt (Current)	76	
FC1 / FC2 Pedal Assign	65	
FC1 端子	16	
FC2 端子	16	
FC1 Polarity	61	
FC2 Polarity	61	
Fine Tune	47, 56	
F.T.	56	
FUNCTION	11	
H		
Hammer Noise	43	
HF Damp	44	
[HIGH] つまみ	10	
I		
[INC] ボタン	11, 24	
K		
Key Off Position	44, 64	
Key Off Resonance	43	
Key Range	55, 74	
Key Touch	44, 63	
Key Touch Offset	44, 63	
KS-G8	13	
L		
Layer	47	
[LAYER EDIT] ボタン	11	
LAYER LEVEL スライダー	10, 30, 52	
Level	45, 67	
LF Damp Freq	45	
Lid	43, 45	
LIVE SET Copy	70	
LIVE SET Ctrl Ch (LIVE SET Control Channel)	61	
LIVE SET Load	69	
LIVE SET Save	68	
LIVE SET ボタン	11	
Local ON/OFF	74	
Local Switch	77	
[LOW] つまみ	10	
Lowest No.	74	
LSB	54	
LWR (Key Range Lower)	49, 55	
M		
Master Tune	60	
Master Volume	60	
MAX	56	
MAX (Velocity Max)	50	
M.D.	57	
[MENU] ボタン	11, 23	
MFX	39, 47	
[MID] つまみ	10	
[MIDI] ボタン	10	
MIDI 画面	22	
MIDI 送信チャンネル	53	
MIDI 端子	12, 52	
MIDI Channel	73	
MIDI IN 端子	51	
MIDI OUT 端子	51	
MIDI OUT Port	73, 75	
Modulation Depth	57	
Mono/Poly	48, 55	
M/P (Mono/Poly)	55	
MSB	54	
N		
Nuance	43	

O	
ONE TOUCH	11
OUTPUT 端子	12
P	
PAN	49
PAN (Pan)	55
Part Mode	62
Part Switch	75
Pattern	73
PC	54
Peaking Freq	44
Peaking Gain	44
Peaking Q	44
PEDAL 端子	12
Pedal Mode	60
PHONES 端子	12
[PIANO] ボタン	11
Play Mode	75
POR	56
Portamento	56
Portamento SW	48
Portamento Switch	56
Portamento Time	48, 56
[POWER] スイッチ	12
Pre HPF	44
Pre LPF	44
P-Sft Amount	45
P-Sft HPF	45
P-Sft Level	45
P-Sft LPF	45
P-Sft to Rev	45
P.T.	56
R	
Ratio	67
Rec Mode	77
REL	56
Release Time	67
Release Time (Offset)	48
RES	56
Resonance (Offset)	48
REVERB	32
[REVERB] ボタン	10
Reverb Type	66
REV (Reverb)	55
REV (Reverb Amount)	49
Rev Type	66
Rhy Set	73
Rx.GM/GM2 Sys On	62
Rx.GS Reset	62
S	
[S1] ボタン	11, 64
S1/S2 Assign	65
S1/S2 Mode	60
[S2] ボタン	11, 64
SMF Volume	75
Sns	56
Sns (Velocity Sense)	50
SONG Copy	71

SONG Delete	71
SONG/RHYTHM [SELECT] ボタン	10
SONG/RHYTHM [▶/■] ボタン	10
SOUND FOCUS	34, 47
[SOUND FOCUS] ボタン	10
Sound Focus Switch	47
Sound Focus Value	47
Sound Lift	43
[SPLIT] ボタン	10
Split Freq H	67
Split Freq L	67
Stereo Width	43
String Resonance	43
SW	44
T	
Temperament	62
Temperament Key	62
Tempo	73
Threshold	67
Tone	47
TONE	49
Tone Character	43
[TONE EDIT] ボタン	11
Tone Remain	60
TRANSPOSE	31, 75
[TRANSPOSE] ボタン	10
TRA (Transpose)	49, 55
Type	44, 47, 67
U	
UPR (Key Range Upper)	49, 55
USB Driver	81
USB MEMORY 端子	12
USB Memory Mode	81
USB MIDI 端子	12
USB ドライバ	81
USB メモリー	18, 20
User CC	57
V	
Velocity	44, 63
Velocity Max	56
Velocity Range	56
Velocity Sense	56
Velo Delay Sens (Velocity Delay Sensitivity)	44, 64
Velo Keyflw Sens (Velocity Keyfollow Sensitivity)	44, 64
V-LINK	74
V-LINK Mode	74
V-LINK OUT Port	74
V-LINK Tx Channel	74
Volume	73
[VOLUME] スライダー	10
VOL (Volume)	49, 55
V.Reserve (Voice Reserve)	50
VRL (Velocity Range Lower)	50, 56
VRU (Velocity Range Upper)	50, 56
W	
[WRITE] ボタン	11, 23

あ	ト
アリコート.....	トーン.....
い	ドラム・パターン.....
イコライザー.....	トランスポーズ.....
え	は
エラー・メッセージ.....	パソコン.....
お	パターン.....
音源部.....	パネル・ロック.....
音量.....	早送り.....
か	ひ
カーソル・ボタン.....	ピッチ・ベンド.....
き	ピッチ・ベンド／モジュレーション・レバー.....
機能接地端子.....	ふ
曲の頭に戻す.....	フェイバリット・ライブ・セット.....
け	プリセット・バンク.....
鍵盤タッチ.....	プリセット・メモリー.....
鍵盤のタッチ感.....	へ
こ	ペダル.....
コーラス.....	ほ
コントローラー部.....	保存
コンプレッサー.....	E. ピアノ音色.....
さ	ピアノ音色.....
再生.....	ライブ・セット.....
サウンド・フォーカス.....	ま
し	巻き戻し.....
システムの設定.....	マスター・キーボード.....
システム・メモリー.....	マルチ・エフェクト.....
初期化	ゆ
E. ピアノ音色.....	ユーザー・バンク.....
ピアノ音色.....	ユーザー・メモリー.....
メモリー.....	ら
シンパセティック・レゾナンス.....	ライブ・セット.....
す	ライブ・セット画面.....
スプリット・ポイント.....	り
スプリット・モード.....	リズム.....
そ	リバーブ.....
ソング／リズム画面.....	れ
ち	レイヤー.....
チューニングの微調整.....	レイヤー・スイッチ.....
て	ろ
ディスプレイ.....	ローカル・スイッチ.....
ディスプレイの明るさ.....	わ
ディレイ.....	ワンタッチ画面.....
デモ曲.....	
デュアル・モード.....	
電源.....	
テンポ.....	
テンポラリー・エリア.....	

目的別目次

この目次は、RD-300NX で演奏するときの主な設定項目を取り上げています。

音量の設定

全体の音量の設定を変える

- [VOLUME] スライダー (P.18)
- [MENU] ボタン→ O.System → Master Volume (P.60)
- レイヤーごとに音量を変える
 - LAYER LEVEL スライダー (P.30)
 - [LAYER EDIT] ボタン→ Volume (P.49)

鍵盤タッチ、ペロシティーの設定

鍵盤のタッチを変える

- [MENU] ボタン→ 1. Key Touch (P.63)
- レイヤーごとにペロシティーの効き具合を変える
 - [LAYER EDIT] ボタン→ Velocity Sens (P.50)
 - [LAYER EDIT] ボタン→ Velocity Max (P.50)
 - [LAYER EDIT] ボタン→ Velocity Range (P.50)

コントローラーの設定

レイヤーごとにペダルやベンダーを効かないようにする

- [LAYER EDIT] ボタン→各 Switch (P.50)
- ペダルの機能を変える
 - . [MENU] ボタン→ 2. Control → FC1/FC2 Pedal Assign (P.65)
 - [S1] [S2] ボタンの機能を変える
 - [MENU] ボタン→ 2. Control → S1/S2 Assign (P.65)

鍵域（キー・レンジ）の設定

レイヤーの鍵域を設定する

- [LAYER EDIT] ボタン→ Key Range (P.49)

EQ（イコライザ）の設定

EQ を設定する

- EQUALIZER つまり (P.34)

コンプレッサーの設定

コンプレッサーの種類を選ぶ

- [MENU] ボタン→ 4. Compressor → Type (P.67)

ピッチ、音高の設定

全体のピッチを変える

- [MENU] ボタン→ O. System → Master Tune (P.60)
- 調律法を変える
 - [MENU] ボタン→ O. System → Temperament (P.62)
- 鍵盤全体をトランスポーズする
 - [TRANSPOSE] ボタン (P.31)
- トーンごとに音高を変える
 - [TONE EDIT] ボタン→ Coarse Tune (P.47)
 - [TONE EDIT] ボタン→ Fine Tune (P.47)
- レイヤーごとに音高を変える
 - [LAYER EDIT] ボタン→ Transpose (P.49)
- EXTERNAL レイヤーごとに音高を変える
 - [MIDI] ボタン→ Transpose (P.55)
- ワンタッチ・ピアノ音色の鍵ごとの音高を変える
 - [TONE EDIT] ボタン→ 2. Micro Tune Edit (P.44)

リバーブの設定

全体のリバーブ量を変える

- [REVERB] ボタン + [INC] / [DEC] ボタン (P.32)
- トーンごとにリバーブ量を変える
 - [LAYER EDIT] ボタン→ Reverb Amount (P.49)
- リバーブのタイプを変える
 - [MENU] ボタン→ 3. Effects → Rev Type (P.66)

コーラス／ディレイの設定

全体のコーラス／ディレイ量を変える

- [CHORUS] ボタン + [INC] / [DEC] ボタン (P.32)
- トーンごとにコーラス／ディレイ量を変える
 - [LAYER EDIT] ボタン→ Chorus Amount (P.49)
- コーラスのタイプを変える
 - [MENU] ボタン→ 3. Effects → Cho Type (P.66)

MFX の設定

MFX を変える

- [TONE EDIT] ボタン→ MFX (P.47)
- MFX のオン／オフを設定する
 - [TONE EDIT] ボタン→ MFX Sw (P.47)

設定の初期化

ワンタッチ・ピアノ音色を初期化する

- [TONE EDIT] ボタン→ 5. Initialize (P.45)
- ワンタッチ E. ピアノ音色を初期化する
 - [TONE EDIT] ボタン→ 2. Initialize (P.46)
- 製品出荷時の設定に戻す
 - [MENU] ボタン→ 8. Utility → Factory Reset All (P.76)

ボタン操作を無効にする設定

パネル・ロック

- [MENU] ボタン + [ENTER] ボタン (P.35)

MEMO

お問い合わせの窓口

● 製品に関するお問い合わせ先

ローランドお客様相談センター **050-3101-2555**

電話受付時間： 月曜日～土曜日 10:00～17:30（年末年始を除く）

※IP電話からおかけになって繋がらない場合には、お手数ですが、電話番号の前に“0000”
(ゼロ4回) をつけてNTTの一般回線からおかけいただけます。携帯電話をご利用ください。

※上記窓口の名称、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

● 最新サポート情報

製品情報、イベント／キャンペーン情報、サポートに関する情報など

ローランド・ホームページ <http://www.roland.co.jp/>

'07. 10. 01 現在 (Roland)

Roland

